

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 29 号(2023 年度)

KPMNH Yearbook
No. 29

2023.4-2024.3

Web 版



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN
Sept. 2024

ごあいさつ

～コロナ禍を乗り越えて～

日頃より当館の活動と運営について、ご理解とご支援、ご協力をいただき、あらためてお礼申し上げます。

さて、本誌「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」は、当館の1年間の活動記録です。2023年度も当館の使命に基づき、「集める」「調べる」「伝える」の博物館活動と管理・運営を進め、その記録を本誌第29号としてまとめましたので、ご活用いただければ幸いです。以下にその概要をお伝えします。

2023年度は、2022年4月に改正された博物館法が4月に施行され、館職員一同、これまでの博物館活動を変わずに進めていくことの重要さとともに、博物館に求められる役割を再認識した年でもありました。また、5月には新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）上の位置づけが5類感染症へと変更になりました。それにより、新型コロナウイルスが消失したわけではありませんが、一般社会の活動はほぼ平常化し、当館の活動と運営もコロナ以前の状態に戻りました。

博物館活動の「集める」（資料の収集・整理・保管）では、昨年度の博物館収蔵資料登録システム（ミュージズテーク）への資料登録点数は寄贈資料を中心に約5万4千点で、開館以来の累計では120万点を超えました。寄贈者の方々の当館の活動に対するご理解に感謝します。これらの資料は、館内だけでなく外部の研究、展示、広報などの諸活動に広く利用されています。「調べる」（調査・研究）では、各学芸員が日頃の研究成果を国内外の学術誌や学会で発表したほか、館の学術成果出版物として「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）第53号」や「神奈川自然誌資料第45号」を出版（ともに電子出版）することができました。また、日本学術振興会科学研究費をはじめとする外部研究助成金を継続的に獲得し、研究活動の活性化に資しています。「伝える」（展示・学習支援）では、特別展「かながわご当地菌類展」を開催し、これまでの研究の成果から、かながわらしい「ご当地菌類」を多数紹介しました。企画展「動物のくらしと私たち―薮内正幸が描いた生態画の世界―」は、薮内正幸美術館に共催いただき、薮内正幸氏の絵画を動物の標本や写真とともに展示し、生態画の意義や動物のくらしぶり、私たちの多様さを紹介しました。さらに、観察会や実習、講座などの各種行事の開催やレファレンス対応、中高生の職場体験やインターンシップ、博物館実習、博物館ボランティアや博物館友の会の活動は、コロナ以前のほぼ平常状態で実施できました。ウェブサイトのコンテンツの充実やSNSによる各種情報発信も、新しい時代のコンテンツの活用として、引き続き力を注ぎました。

なお、当生命の星・地球博物館は、2024年3月14日づけで改正博物館法に基づき登録博物館として本県の博物館登録原簿に登録されました。引き続き博物館利用者の皆様に満足いただける館運営を行いたいと考えていますので、今後とも当館の活動にご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

2024年9月

神奈川県立生命の星・地球博物館

館長

田中 徳久

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として

地球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

シンボルマーク・ロゴタイプ

I	沿革	4
1.	沿革	4
2.	2023年度の主な出来事	5
II	機能	6
1.	運営管理機能	6
1.1.	事業体系	6
1.2.	組織	7
1.3.	職員名簿	8
1.4.	利用者	9
1.5.	歳入歳出決算	11
1.6.	事業評価	11
2.	情報発信機能	12
2.1.	常設展示	12
2.2.	特別展示	14
2.3.	その他の展示	16
2.4.	SEISA ミュージアムシアター	17
2.5.	ミューズ・フェスタ 2024	18
2.6.	感染症拡大防止等に伴うウェブサイトでの情報発信	19
3.	シンクタンク機能	20
3.1.	調査研究事業	20
3.2.	研究助成金による研究	22
3.3.	著作活動・学会発表等	23
3.4.	レファレンス対応人数	30
3.5.	各種委員・役員・非常勤講師	30
3.6.	講師依頼等	33
3.7.	学術交流	34
3.8.	他施設・団体への協力	34
3.9.	外部研究者の受け入れ	34
3.10.	名誉館員	41
4.	データバンク機能	42
4.1.	資料概況	42
4.2.	図書資料収集状況	49
4.3.	資料利用状況	50
4.4.	資料燻蒸	51
5.	学習支援機能	52
5.1.	生涯学習への対応	52
5.2.	学校教育への対応	55

5.3.	博物館実習	56
5.4.	ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	58
5.5.	学習指導員による学習支援活動	58
5.6.	博物館のボランティア活動	60
5.7.	広報	62
5.8.	来館者アンケート	62
6.	刊行物	65
6.1.	定期刊行物	65
6.2.	不定期刊行物	66
6.3.	刊行物販売状況	67
7.	情報システム	68
7.1.	システムの概要	68
7.2.	サブシステムの紹介	69
7.3.	インターネットの利用	70
7.4.	情報提供	70
8.	連携機能	71
8.1.	友の会	71
8.2.	サロン・ド・小田原	72
8.3.	神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	72
8.4.	館内施設等の状況	74

III 資料

1.	条例・規則	
1.1.	神奈川県立の博物館条例	ウェブ サイト
1.2.	神奈川県立の博物館組織規則	ウェブ サイト
1.3.	神奈川県立の博物館の利用に関する規則	ウェブ サイト
2.	館年表	
2.1.	再編整備決定から開館まで	ウェブ サイト
2.2.	開館から 2023 年度末まで	ウェブ サイト
3.	統計資料	
3.1.	年度別利用者数の推移	ウェブ サイト
3.2.	特別展・企画展開催実績	ウェブ サイト
3.3.	資料登録実績	ウェブ サイト
3.4.	ウェブサイトアクセス実績	ウェブ サイト
3.5.	収蔵資料データベースのアクセス実績	ウェブ サイト
3.6.	魚類写真資料データベースのアクセス実績	ウェブ サイト
3.7.	FishPix のアクセス実績	ウェブ サイト
3.8.	WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録	ウェブ サイト
4.	施設概要	
4.1.	土地・建物	ウェブ サイト
4.2.	設備	ウェブ サイト
4.3.	面積表	ウェブ サイト
4.4.	平面図	ウェブ サイト

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶應義塾大学名誉教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の4班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、濱田隆士館長就任。管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の3部4課を置く
	3 月	博物館法第11条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成6年度第1回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
	10 月 7 日	天皇陛下下行幸
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の2部3課となる 斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館者 350 万人到達（3,409 日目）
2008 年	8 月 12 日	入館者 400 万人到達（4,062 日目）
2010 年	10 月 21 日	入館者 450 万人到達（4,863 日目）
2012 年	8 月 3 日	入館者 500 万人到達（5,183 日目）
2013 年	10 月 8 日	天皇陛下下行幸
2014 年	1 月 13 日	入館者 550 万人到達（5,716 日目）
	3 月 31 日	斎藤靖二館長退任
	4 月 1 日	平田大二館長就任 斎藤靖二名誉館長就任
2015 年	8 月 29 日	入館者 600 万人到達（6,190 日目）
2017 年	5 月 3 日	入館者 650 万人到達（6,667 日目）
2018 年	10 月 26 日	入館者 700 万人到達（7,104 日目）
2020 年	3 月 4 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
	7 月 1 日	再開館
	11 月 5 日	入館者 750 万人到達（7,594 日目）
2021 年	1 月 12 日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
	3 月 22 日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館を継続（ただし事前に予約をされた方に限り入館可能）
2022 年	3 月 22 日	通常開館
2023 年	3 月 31 日	斎藤靖二名誉館長退任
	5 月 31 日	平田大二館長退任
	6 月 1 日	田中徳久館長就任
	7 月 26 日	入館者 800 万人到達（8,220 日目）

2. 2023 年度の主な出来事

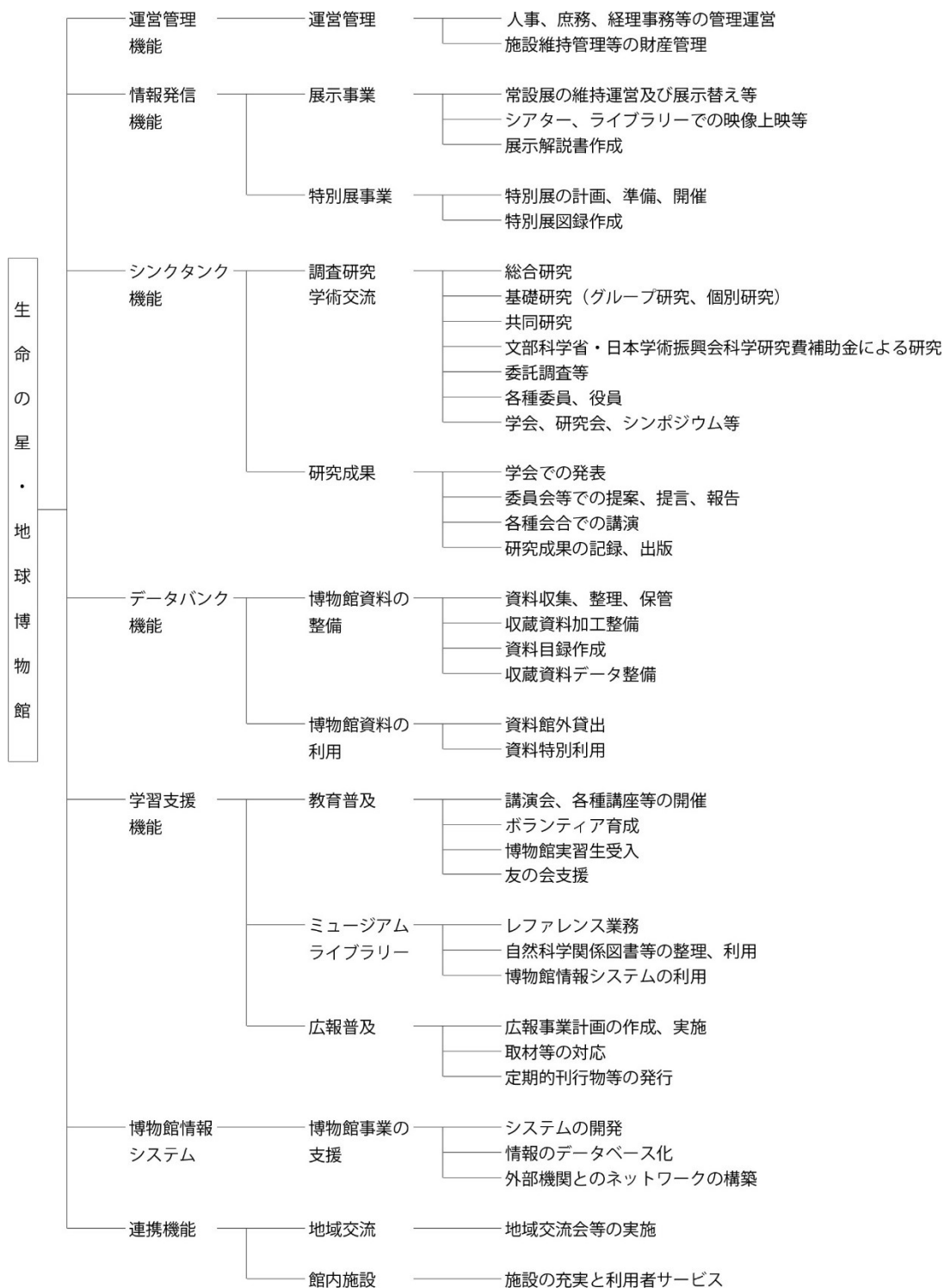
2023 年	2 月	18 日	～	2023 年	5 月	7 日	企画展「超（スーパー）普通種展—自然史研究を支える主役たち—」開催
2023 年	5 月	31 日					平田大二館長退任
2023 年	6 月	1 日					田中徳久館長就任
2023 年	6 月	1 日					定期人事異動
2023 年	6 月	13 日	～	2023 年	6 月	16 日	館内燻蒸
2023 年	7 月	15 日	～	2023 年	11 月	5 日	特別展「かながわご当地菌類展」開催
2023 年	7 月	26 日					入館者 800 万人到達（8,220 日目）
2023 年	12 月	16 日	～	2024 年	1 月	8 日	子ども自然科学作品展（2023 年度）
2024 年	2 月	23 日	～	2024 年	5 月	12 日	企画展「動物のくらしとかたち—藪内正幸が描いた生態画の世界—」開催
2024 年	3 月	9 日	～	2024 年	3 月	10 日	ミュージズ・フェスタ 2024 開催

2023 年度 開館日数：288 日 業務日数：309 日

Ⅱ 機能

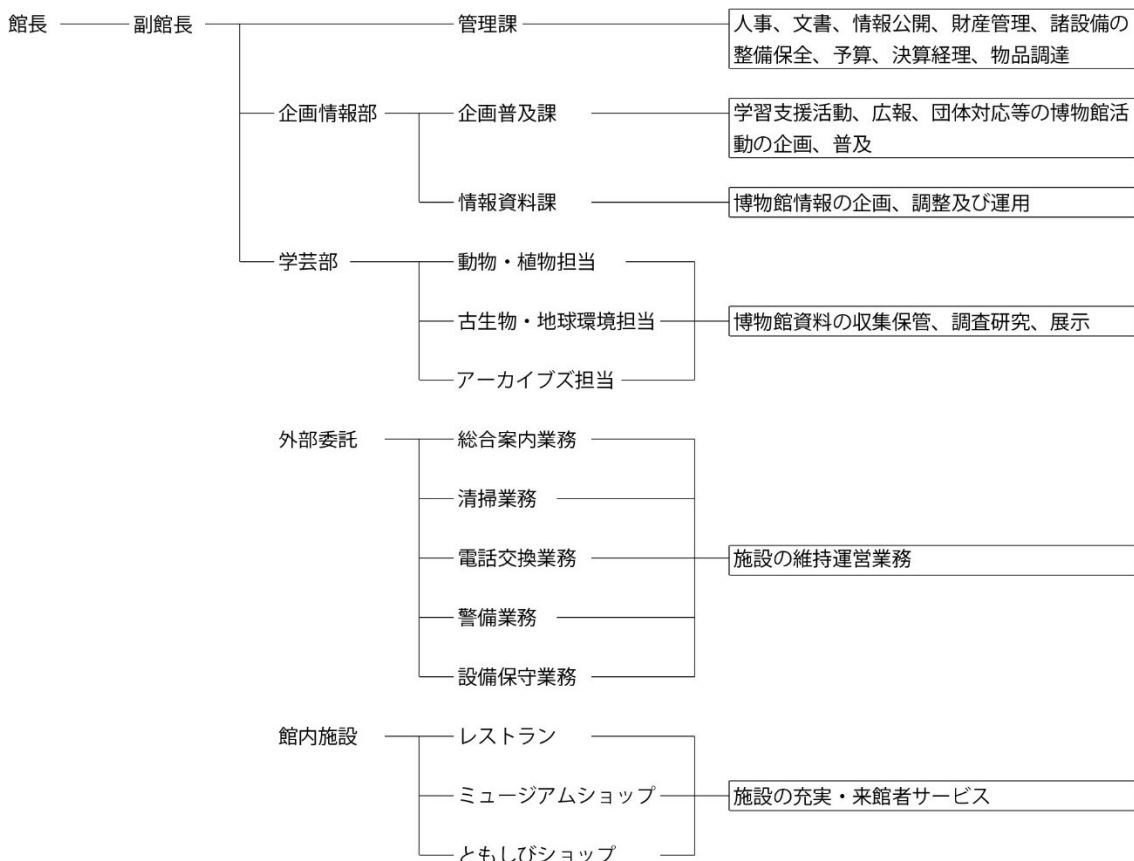
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

令和6年5月1日現在												
区分		常勤		再任用			会計年度任用職員					合計
		事務職	学芸員	事務職	学芸員	指導員	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員	
館長			1									1
副館長		1										1
管理課	課長	1										1
		5					4	1				10
	小計		6					4	1			
企画情報部	部長		1									1
	企画普及課	課長		1								1
			1	3	1		1	2			4	12
	情報資料課	課長		1								1
			1	1				2		1	3	
	小計		3	6	1		1	4		1	3	4
学芸部	部長			1								1
	動物・植物担当			6								6
	古生物・地球環境担当			6								6
	小計			13								
合計		10	20	1	0	1	8	1	1	3	4	49

1.3. 職員名簿

[令和5年4月1日～令和6年3月31日]

職名		氏 名	担当分野/備考
館長（会計年度任用職員）		平田 大二	地学（鉱物）～R5.5.31
館長		田中 徳久	植物（植物生態）R5.6.1～
副館長		渡辺 雅己	
管理課	課長	石塚 隆夫	～R5.5.31
	〃	佐伯 有紀	R5.6.1～
	副主幹	田村 靖	
	主査（事務）R5.6.1～	廣瀬 綾乃	
	主事	相馬 夏実	
	〃	高橋 一晴	～R5.5.31
	〃	齋木 杏里紗	R5.6.1～
	〃	土田 凌生	
	会計年度任用職員（技師）	清水 光久	
	〃（事務補助員）	和田 千晶	
	〃（ 〃 ）	春口 清隆	
	〃（ 〃 ）	池嶋 美代子	
	〃（ 〃 ）	田村 哲	～R5.5.31
企画情報部	部長	植村 良彦	
	企画普及課	課長＊	山下 浩之 地学（岩石）R5.6.1～
		主任学芸員＊	折原 貴道 植物（菌類）
		学芸員＊	松本 涼子 動物（両生爬虫類）
		〃	西澤 文勝 地学（火山地質）
		主事	中村 友美子
		〃（暫定再任用）	坂巻 功
		臨時的任用職員	三橋 秀子 R5.4.30～
		会計年度任用職員（事務補助員）	本杉 弥生
		〃（ 〃 ）	石持 みずき
		博物館学習指導員（暫定再任用）	水嶋 淳
		会計年度任用職員（学習指導員）	森泉 誠司
		〃（ 〃 ）	柚原 章
		〃（ 〃 ）	高橋 正人
		〃（ 〃 ）	吉成 美香子
	情報資料課	課長＊	加藤 ゆき 動物（鳥類）R5.6.1～
		学芸員＊	石田 祐子 植物（維管束植物）
		主事	平澤 恭子
		会計年度任用職員（学芸員）＊	大坪 奏 アーカイブズ
		〃（事務補助員）	佐藤 恵
		〃（ 〃 ）	平尾 葉子
		〃（司書）	土屋 定夫
		〃（ 〃 ）	小林 瑞徳
		〃（ 〃 ）	望月 千奈
		〃（ 〃 ）	
学芸部	部長	佐藤 武宏	動物（無脊椎動物）R5.6.1～
	動物・植物担当	主任学芸員	荏部 治紀 動物（昆虫類）
		〃	大西 亘 植物（維管束植物）
		〃	渡辺 恭平 動物（昆虫類）
		学芸員	鈴木 聡 動物（哺乳類）
		〃	西村 双葉 動物（哺乳類）
		主任学芸員（暫定再任用）	瀬能 宏 動物（魚類）
	古生物・地球環境担当	次席・主任学芸員	新井田 秀一 環境科学（海洋光学）
		〃	大島 光春 古生物（哺乳類）
		〃	石浜 佐栄子 地学（地球化学）
		主任学芸員	樽 創 古生物（哺乳類）
		〃	田口 公則 古生物（貝類）
		臨時的任用職員（学芸員）	下出 朋美 地学（鉱物）

*学芸部を兼務

1.4. 利用者

2023 年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。学芸員によるレファレンス対応人数の詳細は 30 ページ、それ以外の利用者状況詳細は 10 ページを参照のこと。

博物館利用者 266,456 人

2023 年度の博物館総利用者数。「入館者」＋「講座・観察会・講演会・研修等参加者」＋「ボランティア活動実施者」＋「学芸員への質問・相談者」＋「資料利用者」の合計。

入館者 254,313 人（883 人／開館日）

エントランスに設置したカウンターにより集計。

常設展入場者 219,376 人（762 人／開館日）

券売機による発券数に基づき集計。招待券については無料券と引き替えて算入。

特別展・企画展等入場者 77,154 人

「特別展」と「企画展」を主とした特別展示室入場者数。特別展示室の出入口に設置したカウンターにより集計。

ライブラリー利用者 86,861 人

ライブラリー出入口に設置したカウンターにより集計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。

講座・観察会・講演会・研修等参加者 5,571 人

講座・観察会、講演会、研修（館内で実施のもの）、サロン・ド・小田原、よろずスタジオ・共催よろずスタジオ、大学生の博物館館園実習、インターンシップ、職場体験の参加者数。

ボランティア活動実施者 2,352 人

学芸ボランティア、ライブラリーボランティア、展示・普及ボランティアの活動実施者。

学芸員への質問・相談者 3,819 人

学芸員によるレファレンス対応人数。来館、電話、ファックス、手紙、電子メール、現地確認などを通じた延べ対応人数で、マスコミ取材、企業や自治体からの質問、相談等を含む。

資料利用者 401 人

研究目的の利用、他館での展示利用やテレビ番組・新聞報道での利用など研究以外の利用の依頼者。

1.4.1. 常設展示室の入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開館日数		25	26	20	28	31	25	25	24	20	19	22	23	288	
有料入場者数	個人	成年	6,788	8,036	4,862	10,183	18,193	7,941	6,939	5,835	3,737	5,661	7,894	8,271	94,340
		未成年・学生	199	335	194	298	745	355	188	203	129	116	365	452	3,579
		高校生	145	133	67	169	586	66	76	68	67	86	124	348	1,935
		65歳以上	1,236	1,331	899	1,613	2,973	1,129	1,252	1,146	692	786	1,039	1,533	15,629
	団体	成年	49	75	40	229	389	187	237	283	5	38	156	77	1,765
		未成年・学生	0	0	0	21	58	23	7	2	0	0	0	0	111
		高校生	0	0	0	3	28	4	0	33	0	0	0	0	68
		65歳以上	16	93	43	110	100	18	261	332	17	17	127	164	1,298
	小 計		8,433	10,003	6,105	12,626	23,072	9,723	8,960	7,902	4,647	6,704	9,705	10,845	118,725
無料入場者数	園児	1,696	2,072	1,374	2,830	4,896	2,373	2,168	1,870	1,227	2,176	3,294	3,264	29,240	
	小学生	2,729	4,055	2,548	3,776	8,105	4,113	5,041	5,279	2,055	1,486	2,751	3,216	45,154	
	中学生	969	309	644	711	1,732	498	683	196	169	197	239	525	6,872	
	障がい者	548	618	471	776	1,403	894	856	573	327	505	756	676	8,403	
	その他	1,300	762	541	947	977	840	1,118	1,220	486	266	499	2,026	10,982	
小 計		7,242	7,816	5,578	9,040	17,113	8,718	9,866	9,138	4,264	4,630	7,539	9,707	100,651	
合 計		15,675	17,819	11,683	21,666	40,185	18,441	18,826	17,040	8,911	11,334	17,244	20,552	219,376	
1日平均(人)		627	685	584	774	1,296	738	753	710	446	597	784	894	761.7	
前年比(%)		79.8	78.3	94.8	102.4	107.5	83.7	101.1	96.9	89.6	102.0	121.3	103.3	96.5	

			2023 年度			一般公開開始からの累計（※）		
			1 日平均	構成比（％）	前年比（％）	入場者	1 日平均	構成比（％）
有料入場者	個人	成年	327.6	43.0	93.3	2,555,075	303.7	34.9
		未成年・学生	12.4	1.6	99.4	99,390	11.8	1.4
		高校生	6.7	0.9	89.6	23,741	2.8	0.3
		65 歳以上	54.3	7.1	111.0	206,678	24.6	2.8
	団体	成年	6.1	0.8	95.8	223,915	26.6	3.1
		未成年・学生	0.4	0.1	128.5	9,152	1.1	0.1
		高校生	0.2	0.0	118.1	1,885	0.2	0.0
		65 歳以上	4.5	0.6	450.7	42,845	5.1	0.6
小 計		412.2	54.1	96.4	3,162,681	375.9	43.1	
無料入場者	園児	101.5	13.3	94.5	701,970	83.4	9.6	
	小学生	156.8	20.6	93.4	1,865,743	221.7	25.5	
	中学生	23.9	3.1	88.0	310,999	37.0	4.2	
	障がい者	29.2	3.8	121.6	218,686	26.0	3.0	
	その他	38.1	5.0	109.6	1,070,535	127.2	14.6	
	小 計	349.5	45.9	96.8	4,167,933	495.4	56.9	
合 計		761.7	100.0	96.5	7,330,614	871.2	100.0	

2023年度記録

最高：2023年8月14日 2,631人

最低：2023年5月11日 119人

※1995年3月21日から 8,414日開館

1.4.2. 特別展示室入場者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開場日数	25	7	0	17	31	25	25	5	9	18	6	23	191
有料	成年			2,833	7,249	3,109	2,883	757					16,831
	未成年・学生			80	365	192	96	37					770
	高校生			52	277	31	35	15					410
	65歳以上			481	1,334	541	724	128					3,208
	小計			3,446	9,225	3,873	3,738	937					21,219
無料	10,849	4,968		2,594	6,388	3,882	4,094	815	1,552	2,757	3,786	14,250	55,935
合計	10,849	4,968	0	6,040	15,613	7,755	7,832	1,752	1,552	2,757	3,786	14,250	77,154

1.4.3. 講座・観覧会・研修会等参加者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	291	275	167	768	424	234	249	594	235	297	526	312	4,372
サロン・ド・小田原	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	95	0	116
研修・実習・学校	9	0	33	193	62	34	130	46	207	9	82	0	805
博物館館園実習	0	0	0	17	216	28	4	9	0	2	2	0	278
合計	300	275	200	978	702	317	383	649	442	308	705	312	5,571

1.5. 歳入歳出決算

[令和5年度歳入]

科目	金額（千円）	内訳		
教育財産使用料	1,553	レストランほか建物使用料		
博物館使用料	55,679	観覧料収入	常設展	51,874
			特別展	3,805
立替収入	1,739	レストランほか電気・ガス・水道料		
図録等売払収入	1,575	展示解説書等販売収入		
雑入	16	ライブラリー複写代		
合計	60,562			

[令和5年度歳出(社会教育費のみ)]

科目	金額（千円）	内訳		
維持運営費	166,482	館の維持管理及び事業運営		
博物館事業費	13,444	総合案内業務・特別展の開催・総合研究・基礎研究・調査研究報告書の作成・博物館資料収集・収蔵 展示資料修繕および加工・各種講座・講演会等の開催・図書等資料整備・広報資料作成		
情報システム整備費	2,121	データ入力等		
合計	182,047			

1.6. 事業評価

「博物館法」、「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」及び「かながわ教育ビジョン」に基づき、よりよい社会教育施設づくりを目指して、当館の事業概要を作成し公開するとともに、事業評価を行った。

概要の公開

令和5年5月10日版「神奈川県立生命の星・地球博物館の概要」を作成し、当館ウェブサイトで公開した。この概要については、令和5年6月1日版で更新を行い、ウェブサイトを更新した。

社会教育施設評価書

神奈川県立の社会教育施設6館（県立図書館・県立川崎図書館・金沢文庫・近代美術館・歴史博物館・当館）では、共通評価項目を設定し、年度ごとの施設評価を実施している。

令和5年度には「令和4年度社会教育施設評価書」を作成し、過去のものを含めて当館ウェブサイトで公開している。

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の多様性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマおよびジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映する SEISA ミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2023年6月10日の開館中に「地球を考える展示室」の巨大地球儀の回転軸が折れる事故が起きたが負傷者はなかった。巨大地球儀は2024年3月11日から15日まで工事を行い復旧した（11-12日は休館、13-14日は臨時休館、15日は開館）。地球儀の回転軸と軸受を大径化したものに交換して強度を上げ、FRP製の地球儀本体は破損部を復元し塗装した。これに伴い、2023年6月10日～2024年3月15日の期間、地球儀およびミニシアター2面マルチ映像エリアを閉鎖した。

また、2013年3月28日にエントランスホールおよび常設展示1階で供用を開始した音声ガイドのサービスを2024年3月31日に終了した。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールには、過去の地球環境に生息していた生物の代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：恐竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トップクスアラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：

3分20秒）を繰り返し上映している。この映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚障がい者への対応を行っているが、2006年7月より日本語字幕を追加した。また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を2005年11月3日より展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

地球を考える展示室

「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

生命を考える展示室

「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

神奈川の自然を考える展示室

「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

自然との共生を考える展示室

「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつづけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響を受け変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館2階「ミュージアムライブラリー」入口にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。この

情報展示パネル

友の会紹介コーナー

[展示内容] 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介

[展示更新] 随時、特に活動報告など

[担当] 生命の星・地球博物館友の会広報部

ミニ企画展示コーナー

最長2ヶ月を目安に展示替えをしながら、最新の情報を提供することを目的として次の7タイトルの「ミニ企画展示」を開催した(2022年度計画で、開催期間が2023年度に及んだものを含む)。

友の会の皆さまと共に

[展示内容] 友の会では分野別に数々のグループが活動している。今回の展示では、「地学グループ」「植物グループ」「里山むしにくクラブ(昆虫グループ)」「友の会よろずスタジオグループ」「友の会講座「地図を楽しもう」」「菌学事始め勉強会」の6つの活動の様子をポスターで紹介した他、友の会通信のバックナンバー等の展示を行った。

[展示期間] 2023年3月26日～2023年5月12日

[担当] 博物館友の会

神奈川県での牧野富太郎

[展示内容] NHKの連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルである植物学者の牧野富太郎を紹介した。牧野は神奈川県にも所縁は深く、1909年に発足した日本最古の植物愛好会である横浜植物会の講師を務めた。会員とともに採集した標本や関連する人物、活動を写真で紹介した。

[展示期間] 2023年6月27日～2023年8月14日

[担当] 田中徳久

[協力] 東京都立大学、東京大学、横浜植物会

箱根ジオパークにおける自然災害伝承碑の取り組み

[展示内容] 自然災害の痕跡を地域に恒久的に残すものとして、自然災害に係る事柄を記載した自然災害伝承碑について、箱根ジオパークの活動を中心に紹介した。あわせて、かながわ県西部の自然災害特性についても岩石標本と紹介パネルを用いて紹介した。

コーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報をウォールケースにて展示するミニ企画展示コーナーがある。

博物館周辺の身近な自然

[展示内容] 『自然を楽しむみち』のコース及び解説1～9の紹介

[展示期間] 2023年8月16日～2023年10月9日

[担当] 西澤文勝

[後援] 神奈川県博物館協会 神奈川震災100年プロジェクト

「神奈川県鳥瞰図」から読み取れるもの

[展示内容] 大正から昭和初期にかけては、吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」(県立歴史博物館・蔵)のような観光振興を目的とした鳥瞰図が多く作られていた。これについて、当館と歴史博物館では共同で研究を進めている。ここでは、わかりやすく描かれている名所旧跡だけでなく、豊かな地形表現に着目して紹介した。

[展示期間] 2023年10月12日～2023年12月3日

[担当] 新井田秀一

地球博の辰

[展示内容] 2024年の干支の辰にちなんで、タツノオトシゴなど、辰(龍)にちなんだ標本や資料を展示した。日本人のもつ辰のイメージに関する解説などと共に、タツノヒゲ、リュウテン、辰砂など名前が辰(龍)に由来する生物と鉱物、岩石、合計17種を、標本、写真、命名時の論文、解説パネルなどを用いて展示した。

[展示期間] 2023年12月16日～2024年1月28日

[担当] 石田祐子・瀬能 宏・加藤ゆき・大坪 奏・石浜佐栄子・折原貴道・佐藤武宏・西澤文勝

数内正幸原画と標本でみるハクジラのあたま

[展示内容] 企画展「動物のくらしとかがたち―数内正幸が描いた生態画の世界―」の関連イベントとして、数内正幸氏による鯨類生態画の原画と当館収蔵のハクジラ類頭骨骨格標本の展示を行った。原画からハクジラ類の頭部の外見の特徴を、頭骨標本から骨格形態の特徴を紹介した。

[展示期間] 2024 年 2 月 21 日～2024 年 3 月 19 日
[担当] 西村双葉

友の会の皆さまと共に

[展示内容] 友の会では分野別に数々のグループが活動している。今回の展示では、「植物グループ」「地学グ

ループ」「友の会講座「地図を楽しもう」「友の会よろずスタジオ」の4つの活動の様子をポスターで紹介した。

[展示期間] 2024 年 3 月 24 日～2024 年 5 月 19 日

[担当] 博物館友の会

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2023 年度は特別展を1回、企画展を1回開催した。

2.2.1. 特別展

特別展「かながわご当地菌類展」

[開催期間] 2023 年 7 月 15 日(土)～11 月 5 日(日)

[開催日数] 103 日

[入場者数] 38,992 人

[会場] 1 階 特別展示室

[後援] 神奈川新聞社、tvk (テレビ神奈川)

[協力] 独立行政法人 国立科学博物館

[資料借用] 国立科学博物館、鎌倉彫資料館

[展示協力] 生命の星・地球博物館菌類ボランティアグループ、加賀玲子、木村洋子、柴田めいこ、oso

[特別展キャラクター制作] oso

[ポスター・チラシデザイン] 本杉弥生

[特別展実行委員会] 折原貴道、大坪 奏、鈴木 聡、大島光春、荻部治紀、中村友美子、三橋秀子、相馬夏実

[展示担当] 折原貴道(主担当)、大坪 奏(副担当)、鈴木 聡(副担当)

[資料点数] 菌類標本 150 点、菌類模型 10 点、入生田地区ジオラマ地形図、モザイクガラス作品 4 点、書籍 3 冊

[展示内容] きのこ、カビなどの菌類は、私たちにとって身近な存在にもかかわらず、その高い多様性や興味深い生態について知る機会は少ない。本特別展では、神奈川県とその周辺地域(ここでは「かながわ」とする)でみられる、かながわらしい菌類を様々な観点からピックアップし、標本や模型、写真を展示したほか、それらの生態や保全などについても紹介した。「かながわらしい」菌類として、神奈川県周辺で昔から食用として利用されてきたきのこや、県内から新種として発表された菌類、和名にかながわの地名を含む菌類、神奈川県レッドリストに掲載された希少種などを中心に展示した。また、身近な環境に生育する菌類の実体解明に、一般市民による調査・研究活動が大きく貢献していることも、成果物を交えて紹介した。さらに、菌類を野外で探す様子を観覧者に追体験してもらうコーナーや、観覧者の考える一押しの「かながわご当地菌類」を投票してもらうコーナーを設けることで、能動的に菌類について

考えるきっかけを作り、「美味しい、怖い、気持ち悪い」といった、観覧者のきのこ・カビに対する既存のイメージに、「不思議で面白い」生き物という、新たなイメージを加えることを目指した。また、関連行事として、会場内での学芸員ギャラリートーク(複数回)や、一般向けシンポジウムなども実施した。

[展示構成]

I. 菌類の世界ようこそ

- 1 菌類とはどんな生きもの？
- 2 菌類はどのように生活している？
- 3 菌類の種多様性

II. かながわで身近な菌類

- 1 かながわの身近なきのこと食文化
- 2 かながわの伝統工芸と菌類(鎌倉彫)
- 3 よく見つかる菌類

III. かながわの自然環境と菌類

- 1 さまざまな環境に特有な菌類
- 2 地下生菌
- 3 菌類さんぽみち 当博物館周辺の自然環境を模した大型ジオラマ内に様々な地衣類、材上生の硬質菌類、変形菌の乾燥標本や地上生・地下生きのこ類(樹脂含浸標本)も配置し、来館者に菌類の野外観察を追体験してもらう。さまざまな微小菌類や植物病原菌も展示。菌類ボランティアグループによる展示制作。

IV. かながわのレアな菌類

- 1 かながわから新種記載された菌—2021 年度企画展をベースにする。
- 2 かながわの地名に由来する菌類
- 3 神奈川県レッドリスト掲載種
- 4 本当に希少な菌類とは？ 菌類の保全とレッドリストのジレンマについて標本を交え解説

V. 市民が開拓する、かながわの菌類研究

- 1 アマチュア研究者の活躍
- 2 市民調査の取組、『新・入生田菌類誌』プロジェクト・入生田の菌類調査エリアの立体地図(菌類ボランティアグループによる制作)

VI. みんなで選ぼう！かながわご当地菌類投票

「かながわご当地菌類」9種のキャラクターおよび菌類写真を対象に、来場者にお気に入り投票してもらうコーナー

[関連行事]

- I. 学芸員ギャラリートーク(担当学芸員:折原貴道)
- (1)「菌類がもっと面白くなる!かながわご当地菌類キャラの秘密」. 2023年7月21日(2回)、8月2日、8月5日(2回)、8月10日、8月19日(2回)
 - (2)「菌類の胞子を見てみよう」. 8月15日(協力:菌類ボランティアグループ)
 - (3)「特別展をさらに楽しむための注目ポイント」. 2023年8月28日、9月17日(2回)、10月29日(2回)
 - (4)「モザイクガラス作品から見る菌類の世界-展示作品の深掘り紹介」. ゲスト:柴田めいこ氏(モザイクガラス作家、当館菌類ボランティア). 2023年11月5日
 - (5)「実はとっても美しい、野外のカビ観察のススメ」. ゲスト:杉本 泉氏(当館菌類ボランティア、外来研究員). 2023年11月5日;「かながわご当地菌類投票 結果発表」. 2023年11月5日. 会場:特別展示室
- II. 特別展関連シンポジウム「かながわから発信する菌類の魅力」(オンライン開催). 2023年8月12日. 演者:出川洋介(筑波大学 山岳科学センター菅平

高原実験所 准教授)、山本好和(秋田県立大学 名誉教授)、高橋春樹(アマチュア菌類分類学者)、折原貴道(神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員)

- III. 第138回 サロン・ド・小田原「市民科学が支える菌類研究-『新・入生田菌類誌』完成までの歩み」. 話題提供:折原貴道. 2023年9月9日. 1階東側講義室.

- IV. ミュージアム・リレー(特別展展示解説). 2023年8月25日、特別展示室(講師:折原貴道).

[特別展図録]

展示解説書『かながわご当地菌類 ガイドブック』
2023年7月13日発行、116 pp.、B5判、1500部
執筆:折原貴道、大村嘉人、出川洋介、和田匠平、石原 峻、木村孝浩、杉本 泉、南 常俊、渡辺(陶山)舞、大坪 奏
編集:鈴木 聡
編集協力:大坪 奏、加藤ゆき、佐藤武宏、松永薫、本原裕文
写真提供:赤堀千里、赤堀暉生、石原 峻、木村孝浩、佐々木廣海、新谷正信、杉本 泉、高橋春樹、常盤俊之、中村多美子、平野達也、山本航平
イラスト作成協力:下出朋美、oso、杉本 泉、本杉弥生

2.2.2. 企画展

2023年度企画展 動物のくらしとかたち—藪内正幸が描いた生態画の世界—

- [開催期間] 2024年2月23日(金)~5月12日(日)
[開催日数] 65日
[入場者数] 35,245人
[会場] 1階 特別展示室
[共催] 藪内正幸美術館
[後援] 福音館書店、神奈川新聞社、tvk
[協力] 相模原市立博物館、サントリーホールディングス(株)、(公財)日本鳥類保護連盟、フィールド・イン風露荘、郵政博物館、青木雄司、秋山幸也、大坪二郎、落合けいこ(やまね工房 Cotton)、加賀玲子、加藤千晴、菊谷詩子、木村洋子、神戸宇孝、重永明生、高橋律子、松本文雄、渡邊かをり
[企画展実行委員会] 加藤ゆき、石浜佐栄子、大坪奏、大島光春、荻部治紀、齋木杏理紗、三橋秀子
[展示担当] 加藤ゆき、石浜佐栄子、大坪 奏
[ポスター・チラシデザイン] 本杉弥生
[資料点数] 絵画94点、はく製98点、模型14点、解説・写真パネル37点、書籍・スケッチ帳等60点、動画1点、記念撮影用パネル5点
[展示内容] 動物のくらしぶりを紹介する補助資料として動画や写真等が用いられることが多いが、撮影が困難な場面はそれら資料がほとんどないこ

とから、主にイラストが用いられる。生態をよりわかりやすく伝えるために情報を最小限に抑えて描かれたイラストは、視覚的効果も高く、重要な学術資料でもある。本展示では動物画家として著名な藪内正幸氏のイラストをはく製や写真等とともに展示し、動物のくらしぶりを伝えるとともに、動物生態画の重要性や精密性、面白さなどを紹介した。

[展示構成]

『生態画に描かれた鳥たち』
神奈川県でみられる猛禽類
くちばしの形
動物生態画について
・藪内氏と動物画
・絵本『くちばし どれが一番りっぱ』下絵
・動物生態画ができるまで
鳥を守ることは自然を守る
・実物大で見る希少な鳥たち
・鳥と環境とのかかわりを考える
猛禽のくらしとかたち
様々な環境で見られる鳥
藪内氏のお仕事
動物画を描く
鳥を観察してみよう!描いてみよう!
板戸に描かれたオオワシ

『絵本のなかの動物たち』
ノウサギのくらし
動物の親子
藪内正幸氏の描く絵本の世界
としょしつ

[関連展示・行事]

1. ミニ企画展『ハクジラのあたま』
開催日：2024年2月21日（水）～3月19日（火）
開催場所：2階ミュージアムライブラリー情報コーナー
展示内容等は13～14ページのミニ企画展を参照。
2. ミュージアム・リレー 企画展『動物たちのくらし
とかたち—藪内正幸が描いた生態画の世界—』を
学芸員が解説します！
開催日時：2024年3月1日（金曜）午後1時15分
から2時45分まで
開催場所：1階特別展示室
参加者数：19名
3. 講演会『藪内正幸に魅せられて—生態画の世界へ
ようこそ』
開催日時：2024年3月2日（土曜）午後1時から
4時まで
開催場所：1階SEISA ミュージアムシアター
参加者数：121名

内容：『好きこそものの上手なれ～稀代の動物画家
藪内正幸』 藪内正幸美術館 館長 藪内竜太氏
『その鳥の“らしさ”を描く難しさと楽しさ』 鳥
類画家 神戸宇孝氏

『自分が一番見たいポーズで描く画家、藪内さん』
相模原市立博物館 学芸員 秋山幸也氏

4. ミューズ・フェスタ 2024 開催イベント
開催日：2024年3月9日（土曜）・10日（日曜）
開催場所：1階エントランスホール
内容：絵本『のうさぎ』の世界を体験しよう（読み
聞かせ・展示案内）／ぬいぐるみと一緒に記念撮
影
5. 講座『動物たちを描いてみよう』
開催日：2024年3月23日（土曜）
開催場所：1階講義室及び特別展示室
内容：サイエンスイラストレーターの菊谷詩子氏
を講師に迎え、動物画の描き方を学んだあと、特
別展示室ではく製を観察しながら、ノウサギや
キツネのスケッチをした。
6. 撮影スポット
企画展開催期間中に1階エントランスホール、生
命展示室、2階情報コーナー前、3階神奈川展示室
入り口の4か所に記念撮影スポットを設置。

2.3. その他の展示

2.3.1. 子ども自然科学作品展

児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取り組
みを支援・奨励して発展させることを目的に、自然科
学分野の研究作品（夏休みの自由研究など）を集め展
示を行った。

子ども自然科学作品展

[開催期間] 2023年12月16日（土）～2024年1月
8日（月・祝）

[開催日数] 13日

[会場] 1階特別展示室

[企画担当] 西澤文勝（企画普及課）

[展示担当] 西澤文勝（学芸員）、水嶋 淳、森泉誠
司、柚原 章、高橋正人、吉成美香子（学習指導員）

[入場者数] 2,664人

[内容] 例年通り 12～1月に開催した。応募作品点
数は、17校35作品。内訳は、小学校16校32作
品、中学校1校3作品であった。分野別にみると、
植物8点、動物19点、地学8点であった。各作品
には当館学芸員からのコメントを添えて、支援・奨
励を図った。

2.3.2. 子ども自然科学作品展ワークショップ

作品展初日に、地域の児童、生徒、学校、保護者と
当博物館との連携を深め、出品者の自然への関心と
科学的思考法を涵養する目的でワークショップを実

施した。児童・生徒及び保護者を含む出品者同士で、
互いの作品を鑑賞し合い、科学作品に対する多様な
視点の獲得を図った。

子ども自然科学作品展ワークショップ

[開催日] 2023年12月16日（土）

[会場] 1階西側講義室および特別展示室

[ファシリテーター] 西澤文勝（企画普及課）

[参加者数] 31人（出品した児童・生徒 12人、保
護者等 19人）

2.4. SEISA ミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200 インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像（番組）3本と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像（番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ参加型映像）を上映している。また、学会や講演会開催時には主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011 年 4 月 1 日から「SEISA ミュージアムシアター」となった。

2.4.1. シアターの概要

座席は 308 席。車椅子用のスペースは 5 席。中央部にある 115 席（車椅子用 5 席を含む）に、インタラクティブ・クイズ回答用の 5 選択押しボタンスイッチを設置している。照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などステージ上を照らし出すためのスポット照明を用意している。

2.4.2. シアターの上映番組

SEISA ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を 3 本と、インタラクティブ・クイズ映像を 1 本の計 4 種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2 本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は 15 分である。

「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013 年 8 月 3 日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の陰しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さらに、日本を代表する自然として、江戸

学会・講演会開催時には、パソコンなどデジタル機器の画面をスクリーンに投影できるように、ステージ上と映写室に設置した調整卓に接続できるようにしている。

なお、映像機器については 2013 年にデジタルハイビジョン対応機器に、音響機器については、2016 年に更新した。プロジェクターの液晶と基盤については、2023 年に交換した。

時代に訪れた外国人によって世界に紹介されてきた。火山活動の激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は 20 分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の 5 種類である。最初に、どのテーマを行いたい来館者が選択し、1 位になったテーマを上映している。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。2023 年度の上映は次表のとおりである。

インタラクティブ・クイズのコース別利用状況

		選択者数	選択率	選択により 1 位になった数＝上映回数													上映割合
				合計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
1	地球は生きている	2,242	15.5%	17	0	0	1	3	1	0	0	0	4	3	4	1	5.1%
2	植物は変身の天才だ!	1,355	9.3%	4	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1.2%
3	魚のサバイバル	4,031	27.8%	146	0	9	10	26	28	0	0	19	11	12	7	24	43.6%
4	動物の足跡捜査隊	4,007	27.6%	132	0	8	6	26	15	0	0	15	15	12	16	19	39.4%
5	ヒトの謎を科学する!	2,869	19.8%	36	0	1	1	5	7	0	0	2	3	2	6	9	10.7%
	合 計	14,504	100.0%	335	0	18	18	62	51	0	0	38	33	29	33	53	100.0%

※選択率は、小数点以下 2 位で四捨五入のため合計が 100%にならない場合がある。

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。

学校休業期と重なる多客期（ゴールデンウィーク、学校夏季休業期間等）については、インタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を行った。

SEISA ミュージアムシアター上映プログラム

通常期	時間	タイトル
	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:00～13:20	インタラクティブ・クイズ映像
	14:00～14:15	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	14:30～14:45	生命の星・地球 生命の輪舞
	15:00～15:20	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

多客期	時間	タイトル
	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	12:30～12:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:30～13:50	インタラクティブ・クイズ映像
	14:30～14:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	15:00～15:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	15:30～15:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

2.4.4. その他の利用

ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズの通常上映のほか、講演会や学会等の会場として提供している。

2.5. ミューズ・フェスタ 2024

「開かれた博物館」としての活動の充実といったその発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を2002年度から実施している。

2.5.1. 開催概要

[日時] 2024年3月9日(土)、10日(日)の2日間
[場所] 講義室、実習実験室、SEISA ミュージアムシアター、エントランス、前庭他
[運営体制] 小田原市入生田自治会、小田原市郷土文化館、生命の星・地球博物館友の会、当博物館

[関連会議] ミューズ・フェスタ2024 実行委員会
2023年10月17日(火)西側講義室
内容：参加団体の確認と各団体の取組、開催までのスケジュールなど

2.5.2. 催し物等の概要

- オープニングセレモニー
[日時] 3月9日(土) 9時30分～10時
[場所] SEISA ミュージアムシアター
[内容] フェスタ2024の開催を祝って、地元の「クレヨン」の森保育園による合唱。
[参加人数] 88人
- SEISA ミュージアムシアター ミューズ・フェスタ2024 特別プログラム
[日時] 3月9日(土) 13時～16時
3月10日(日) 9時30分～16時
[場所] SEISA ミュージアムシアター
[内容] インタラクティブ・クイズの回数を増やして上映する2日間の特別プログラム。

- [参加人数] 385人(インタラクティブクイズ5回分の集計)
- 昆虫標本作製と同定作業の実演
[日時] 3月9日(土) 10時～12時、13時～15時
[場所] 実習実験室
[内容] 昆虫標本作製と同定作業を実演。顕微鏡による標本の観察体験のほか、参加者のレファレンスにも対応。
[参加人数] 202人
 - 箱根ジオパークの「ミニ成層火山実験」
[日時] 3月9日(土)・3月10日(日) 10時～12時、13時～15時

- [場所] 東側講義室
[内容] 軽石やスコリアをパラフィンで固めながら成層火山を作成する実験。
[参加人数] 185 人
5. 折り紙プレゼント
[日時] 3月9日(土)・3月10日(日) 10時～12時
[場所] エントランスホール(タイムスケール前)
[内容] 学習指導員が日ごろから折りためた恐竜や動物を題材とした折り紙を配布。
[参加人数] 934 人
6. 郷土文化館出張展示「あれもこれも小田原のたからもの」
[日時] 3月9日(土)・3月10日(日) 10時～12時、13時～15時
[場所] 西側講義室
[内容] 郷土文化館の資料の展示と、展示にまつわるクイズ。
[参加人数] 370 人
7. めいぐるみと一緒に写真撮影
[日時] 3月9日(土)・3月10日(日) 10時30分～12時、13時30分～15時
[場所] エントランスホール(タイムスケール右手)
[内容] 企画展の記念撮影スポットにて、選択しためいぐるみとともに写真撮影できる企画。
[参加人数] 588 人
8. 絵本「のうさぎ」の世界を体験しよう
[日時] 3月9日(土)・3月10日(日) 10時、13時
[場所] 特別展示室
[内容] 絵本「のうさぎ(高橋喜平ぶん・薮内正幸え・福音館書店)」の読み聞かせと企画展で再現した「のうさぎ」の展示を案内。
[参加人数] 35 人
9. 化石ランド
[日時] 3月9日(土) 10時～12時、13時～15時・3月10日(日) 10時30分～12時
- [場所] 東側講義室
[内容] 化石に親しむことを目的として、クイズやゲーム、お絵かきの手法を使用した体験コーナーを展開。
[参加人数] 154 人
10. 前庭でタヌキの足あとを探そう
[日時] 3月9日(土)・3月10日(日) 10時、10時30分、13時、13時30分
[場所] 前庭
[内容] 前庭にある全34種類の動物の足あとから、タヌキの足あとを探して、クレヨンでこすりだしをする企画。標本を用いた解説も実施。
[参加人数] 128 人
11. 友の会コーナー
[日時] 3月9日(土)・10日(日) 10時～15時
[場所] 2階 情報コーナー(ライブラリー前)
[内容] 友の会の活動、作品や講座の紹介、「自然科学のとびら」のバックナンバー等の配布。
[参加人数] 174 人
12. 入生田自治会 写真展
[日時] 3月9日(土)・10日(日)
[場所] 3階 東側ラウンジ
[内容] 入生田地区の昔を思い起こすきっかけとして、自治会が収集した個人・箱根登山鉄道・紹太寺の写真を撮影地と最近の景観とともに展示。
13. ミュージアムショップ
[日時] 3月9日(土)・10日(日)
[内容] 1,000円以上お買い上げの方(書籍・宙瞰図を除く)に、オリジナルグッズを進呈。
14. ともしびショップ「喫茶あーす」
[日時] 3月9日(土)・10日(日)
[内容] 2日間の限定のお菓子を販売。
15. 入生田山車保存会太鼓の演奏
[日時] 3月9日(土)・10日(日)
[場所] 1階 特設本部(券売機横)
[内容] CD音源による小田原囃子の演奏。

2.6. 感染症拡大防止等に伴うウェブサイトでの情報発信

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための取り組みやその緩和に伴う利用者向けのお知らせをウェブサイトのトップページや関連ページで掲載した。5月8日には新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になったため、感染症拡大防止等に伴うウェブサイトでの情報発信は終了した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うおもな情報発信

日付	項目	内容
4月5日	イベント	講座「身近な地形・地質から探る横浜の歴史」感染防止対策に関する表記
4月7日	イベント	よろずスタジオ 感染症拡大防止のため中止の可能性および感染症対策への協力をお願い 表記
5月9日	イベントほか	新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する表記および感染防止チェックリストをすべて削除
5月10日	シアター	プログラムを不定期から通常上映へ変更

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館は、県内はもとより国内外のシンクタンクとして、学芸員が様々な活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的に当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。そのため取り上げていない活動も多い。2023 年度に実施した研究のうち、当該年度に研究が終了したテーマについて成果報告を掲載した。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要綱に基づき、グループ研究 1 テーマ、個別研究 20 テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

加藤ゆき・鈴木 聡・西村双葉・広谷浩子・秋山幸也・
味埜真理：神奈川県里山環境における哺乳類及び鳥
類相解明の試み

個別研究

佐藤武宏：イボキサゴ *Umbonium moniliferum* に対す
る在来種ツメタガイ *Glossaulax didyma* と導入種サ
キグロタマツメタ *Euspira fortunei* の捕食の変遷
について

加藤ゆき：神奈川県におけるカワウ集団営巣地の現状
荻部治紀：絶滅危惧種キバネツノトンボの生態と分布
渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究
(IV)

松本涼子：絶滅四肢動物から解明する現生両生類の首の
進化

鈴木 聡：哺乳類骨格標本の作製、収蔵および利用可能
性に関する研究

西村双葉：鯨類標本の整理と分類・資料情報の再検討

瀬能 宏：相模湾およびその隣接海域における沿岸魚類
の分類および生物地理学的研究

田中徳久：神奈川県の維管束植物相の長期的モニタリン

グとその変遷

大西 亘：現代植物標本室における標準的な管理手法の
実践的な構築

石田祐子：神奈川県の半自然草原の特性と構成種の分布
折原貴道：「地下生菌ノアの方舟仮説」の検証による、
地下生菌の海洋島への移入パターンの解明

大島光春：古生物標本の 3D データ化とデータの活用に関
する研究

樽 創：パレオパラドキシアの古生態（食性）

田口公則：古鎌倉湾周辺における貝化石群集の再評価：
松島コレクションを用いて

新井田秀一：デジタル標高モデル（DEM）や地球観測衛
星画像を用いた関東・東海地域の地形解析

山下浩之：南部マリアナ海域産斑れい岩類の岩石学的検
討

石浜佐栄子：底生・浮遊性有孔殻の安定同位体組成変動に
基づく過去数 10 万年の日本海の海洋環境の復元

西澤文勝：箱根火山東麓におけるテフラ層の分布につい
て

大坪 奏：学術資料（研究者資料）の簡便なデジタル・
アーカイブ手法の検討

3.1.1. 博物館基礎研究（グループ研究）

2023 年度に完了したグループ研究はない。

3.1.2. 博物館基礎研究（個別研究）

神奈川県の維管束植物相の長期的モニタリングとその変遷

[研究期間] 平成 28 年～令和 5 年 6 月

[研究担当者] 田中徳久

[研究内容]

本研究は、総合研究「最新版『神奈川県植物誌』
の編纂・刊行のための植物相調査」（2013～2017 年
度）の成果品である『神奈川県植物誌 2018』のため
の調査で収集された植物標本のデータを活用し、標
本データによる長期的なモニタリング（神奈川県植
物誌のための標本収集は 1979 年に始められた）に
おける課題やその活用について検討し、特に神奈川
県の植物相の変遷について明らかにすることを目的
として行った。

研究成果としては、課題については、長期的に行
われている神奈川県植物誌のための調査の総括を行
う中で整理し、活用については、神奈川県レッドデ
ータ生物調査への反映がある。

神奈川県植物誌調査の総括結果は以下である。

(1) 調査の特徴と成果

①ボランティアによる調査の実施

- ・市民協働のはしり
- ・専門家だけではできない綿密な調査と膨大な数の
標本の収集

→証拠標本に基づく精度の高い分布図

- ・アマチュアならではの視点や疑問が植物採集に反映
→新たな分類群の発見や新産の帰化植物が数多く記録

②植物相を把握し続ける人材の育成と調査能力の維

持・向上

③証拠標本の収集

- ・後の検討の材料。
- ・地域の博物館が、標本と情報、人が集まる地域の自然のセンターとなる。
- ・開かれた博物館の活動

④データベースによる標本の活用

解析結果のフィードバックによる調査員のモチベーションの維持

(2) 植物誌の特徴

①検索表と形態の記述

②見分けに必要な図解の掲載

③証拠標本に基づく分布図の掲載

※①②の特徴により図鑑として使用可能

(3) 課題

①標本を集積すべき収蔵庫の狭隘化

②活動する調査員の高齢化

③標本の集積、活動の拠点となる博物館の活性化に関して

・学芸員の雇用形態、世代交代、専門人材の持続性などレッドデータで生物調査への反映結果については、『神奈川県レッドデータブック 2022』（植物編 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編，2022）にゆずる、なお、今後の課題としては、長期的な植物調査の課題への対応の明確化と、レッドデータ植物や帰化植物と環境変遷等との関係解析などがある。

絶滅危惧種キバネツノトンボの生態と分布

[研究期間] 令和3年度～令和5年度

[研究担当者] 荏部治紀

[研究内容]

キバネツノトンボ *Libelloides ramburi* は、良好な草地に生息するアミメカゲロウ目の大型の昆虫で、各地で激減している種である。本種は、神奈川県内でも近年の記録がほとんどないことから、県レッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類に挙げられている。本研究ではその分布の実態や生態を調査した。

研究成果は、県内での分布を調査し、現存が確認できたのは県北部の相模原市緑区の一部（旧藤野町、津久井町エリア）、その中には多産地も複数現存することなどを明らかにした（荏部・加賀，2021）。確認された分布域は直径10キロの円内に収まるレベルで局所的であった。また産地は定期的に人為的な草刈りがなされる草地で、その数は20か所弱あるものの、数年間の調査期間中も植生遷移が進行し見られなくなった産地があるように決して安泰ではない。

本種の生態についてはほとんど知見がなかったが、多産地でのマーキング調査によって、多くの新知見が得られた（荏部・加賀，2022；荏部，2023）。出現時期は温暖化の進行によるものと思われるが、過去の記録と比較すると1ヶ月以上早まっており、

発生初期はオスが大部分を占め、後期はメスが大部分になる一山型の発生であった。個体識別のマーキングにより、多くの個体が短期間しか確認できず、広域を移動している可能性が示唆された。また、夕方になると草地に静止し眠ること、天敵のクモ類などの新知見も得られた。一方、幼虫期間の調査は実施できず、産卵以降の生活史解明が今後の課題であろう。

【研究成果】

荏部治紀・加賀玲子，2021. 神奈川県内の絶滅危惧種キバネツノトンボの現状. Bull. Kanagawa Pref. Mus. (Nat. Sci.), (50): 137-141.

荏部治紀・加賀玲子，2022. 神奈川県内の絶滅危惧種キバネツノトンボの生態的知見. Bull.

Kanagawa Pref. Mus. (Nat. Sci.), (51): 73-80.

荏部治紀，2023. 神奈川県内の絶滅危惧種キバネツノトンボ（昆虫綱，アミメカゲロウ目）の生態的知見2—マーキングによる個体群動態の解明—. Bull. Kanagawa Pref. Mus. (Nat. Sci.), (52): 45-49.

相模湾およびその隣接海域における沿岸魚類の分類および生物地理学的研究

[研究期間] 令和2年度～令和5年度

[研究担当者] 瀬能 宏

[研究内容]

相模湾は本州中部の太平洋岸に位置し、岩礁や砂浜、藻場、陸棚、深海といった多様な環境を包含する。また、同湾は生物分散に寄与する黒潮の影響を強く受け、きわめて多様な生物相が形成されている。1856年に出版されたベリーによる黒船航海の報告書第2巻以降、新種や初記録種を含む数多の魚類が同湾から報告されてきた。長い調査研究の歴史を踏まえた全容の解明はきわめて困難であるが、博物館や研究機関に保管されている標本や既存の文献に加えて、ダイバーが撮影している水中写真をデータベース化することで証拠資料の確保が難しい魚類の出現記録を補完した結果、2006年までに45目249科1517種の魚類が記録された。その内訳はハゼ科が最も多く、ベラ科、ハタ科、フサカサゴ科と続き、上位10科で全体の3分の1以上を占めていた。また、黒潮流域の沿岸魚類相を主要地点間で比較した結果、相模湾の魚類相は隣接する駿河湾とクラスターを形成し、西村三郎博士が定義した海洋生物地理区分の暖温帯区を支持していた。さらに、2012年に相模湾内の沿岸魚類相を主要地点間で比較した結果、同湾の魚類相は伊豆海洋公園・伊豆大島のクラスターと、その他10地点を含むクラスターとの2群に大別されることが判明した。これら2群の境界は、2月の平均海水温である15℃の等温線にほぼ一致し、熱帯・亜熱帯性魚類の低温致死限界とも符合していた。伊豆海洋公園と伊豆大島では、秋から初冬にかけて多数の南方系魚類の幼魚が出現するものの、水温の低下とともにこれらの魚類は死

減することが経験的に知られていた。このことは、冬季におけるわずかな水温上昇で同地点の魚類相が大きく変化する可能性があることを示唆している。事実、近年の海水温の上昇傾向により、南方系魚類の越冬事例が多数確認されるようになった。2024年までに同湾から記録された魚類を改めて整理した結果、48目284科1934種が確認され、前回の集計時からわずかに18年間で種数は約400種増加していた。その多くが南方系魚類であることから、海水温の上昇に伴い南方系魚類の産卵場所が北上し、相模湾への卵稚仔の加入と着底頻度、あるいはそれらの確率が高まっていると言える。

神奈川県半自然草原の特性と構成種の分布

[研究期間] 平成31(令和元)年度～令和5年度

[研究担当者] 石田祐子

[研究内容]

かつて、カヤ場や採草地として利用されてきた半自然草原は、急速に減少・縮小している。半自然草原に生息していた草原生の種の減少も起きており、絶滅危惧種に指定されているものも少なくない。しかしながら、神奈川県における半自然草原やその構成種の分布に関する調査は行われているものの断片的であり十分ではない。そこで本研究では、半自然草原の植生調査資料の整理および半自然草原の構成種の分布について調べることで、神奈川県内の半自

然草原の特性と構成種の分布について明らかにすることを目的とした。

神奈川県内の半自然草原の既存の植生調査資料は、仙石原湿原のものを除き、ススキやアズマネザサが優占する多様性の低い資料のみであった。そこで、標本情報や神奈川県植物誌調査会会員の情報を基に、現在も草原生植物が残っているような箇所を踏査し植生調査を実施した。調査の結果、法面や公園、祭事が行われる場所など、定期的な草刈りが行われる場所で半自然草原生植物がみられる比較的多様性が高い草原が残っていた。

次に、半自然草原生植物の分布について、神奈川県植物誌の分布情報を基に土地利用との関係について解析を行った。その結果、土地利用図や植生図に表されないような小規模な草原に草原生植物が残っている可能性が示唆された。実際、都市部では、緑地、公園、霊園などを含むメッシュで草原生植物の種数が多い傾向がみられ、電子国土による過去の空中写真を確認したところ、1960年代まで里地里山が広がっていた場所を緑地や公園とした場所であった。

神奈川県の半自然草原は、県西部にわずかに残っているが、大部分は既に消失している。しかし、草原生植物は、市民の森や緑地、公園など、人の手が入る環境で小規模ながら維持されていると考えられる。

3.2. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）をはじめとする外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者（研究代表者を除く当館の分担者*、研究協力者**）：研究テーマ、研究課題番号等」の順に掲載した。

3.2.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究（B）

安田 敦(西澤文勝*)：単一火山を給源とする類似したテフラを識別・対比するための手法開発(20H01982)
岸田拓士(樽 創*)：日本の動物相の原風景—集団ゲノミクスと古代DNAによる在来動物の集団史の解明(22H02693)
末吉昌宏(渡辺恭平*)：土着天敵寄生蜂を用いたシタケ害虫キノコバエ類の総合的生物防除技術の開発(23H02261)

基盤研究（C）

田中徳久：博物館資料の潜在的価値の顕在化－海を渡った植物標本からの生物多様性情報の発掘－(17K01218)
新井田秀一：歴史的な鳥瞰図に対する博物館学的な視点から観た数値標高モデルによる再構築(19K01149)
瀬能 宏：分野横断的な標準と名の命名ルール制定に向けた生物名称の史的変遷の解明(20K01131)
石浜佐栄子：幼児と親に豊かな博物館体験をいかに提供するか—会話を誘発する新たな展示デザイン(20K01132)

佐藤武宏：小学校・幼稚園に身近な自然を持ち込むためのプッシュ型支援に関する研究(20K02753)
大西 亘：学術データ流通を意図した次世代型標本画像デジタル化手法の実践的構築(21K01012)
加藤ゆき：発話採集によるハンズオン展示の再評価の試み—展示の再構築を目指して(22K01024)
大島光春：自然史標本の3Dデータ化とそのオープンデータ化に関する研究(22K01025)
松本涼子：四肢動物における頭骨構造と捕食様式の進化—縫合様式の機能について—(22K03802)
折原貴道：「地下生菌ノアの方舟仮説」の検証—海洋島への菌類移入メカニズムの解明—(22K06381)
新井田秀一：歴史的鳥瞰図と衛星画像による宙瞰図の比較研究による博物館アーカイブズの構築(23K00965)
田中徳久：博物館所蔵植物標本の新規活用手法開発—標本価値の再認識とボランティアの持続的発展(23K00966)
山下浩之：地域地質資源の発掘と調査、普及を通じたプログラムの開発と試行(23K02805)
渡辺恭平：ハバチ類に寄生するヒメバチ科寄生蜂の種多

様性と寄生生態の解明(23K05915)
 丹治雄一(田口公則・山下浩*)：岩石・石材を素材とした歴史系および自然系博物館による地域学習プログラムの協働開発(18K01111)
 田上 響(松本涼子*)：比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元(18K03828)
 吉川ひとみ(大西 亘*)：DNA解析と無機成分分析による植物標本の生育地及び集団を解明する手法の開発(21K01008)
 吉田圭一郎(石田祐子*)：森林動態を考慮した植生帯移動の地形依存性の解明(21K01016)
 藤原慎一(松本涼子*)：四肢動物の骨格形態のジレンマ：動く機能と、食う・産む機能をどう両立させるか(22K03796)

3.2.2. 各種助成金による研究

環境研究総合推進費

矢原徹一(大西 亘*)：ゲノム情報と正確な同定にもとづく維管束植物の統合データベース構築と多様性指標・保全優先度の地図化技術の開発

3.2.3. 共同研究・共同施設利用研究等

なし

3.3. 著作活動・学会発表等

田中徳久(たなか のりひさ) 植物学(植物生態) [論文]

Tanaka, N., A. Grabovskaya-Borodina, T. Katsuyama, T. Fukuda, W. Ohnishi, A. Shimizu and H. Ikeda, 2023. Lectotypification of *Calamagrostis yatabei* (Poaceae). *Journal of Japanese Botany*, 98: 110-113.

田中徳久・村上雄秀・鈴木伸一・中村幸人, 2024. 溪流辺の岩上に成立する低木群落の植物社会学的な位置づけ. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (53): 1-16.

Tanaka, N., A. Grabovskaya-Borodina, T. Katsuyama, T. Fukuda & W. Ohnishi, 2024. Plant Type Materials from Kanagawa Prefecture (Japan) in the Herbarium of the Komarov Botanical Institute (LE; Russia): Lycophytes, Ferns, Gymnosperms, and Angiosperms (Monocots and some Dicots). *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (53): 17-38.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田中徳久, 2024. 標本が育む地域の自然へのまなざし, 新『神奈川県植物誌』の調査をめぐって. *BIOCITY*, (97): 30-37.

田中徳久, 2023. 国立科学博物館で見出した浅井康宏氏が採集した植物標本. *横浜植物会年報*, (52): 50-52.

田中徳久, 2023. 『神奈川県植物誌 2018』で引用されている村上司郎氏が採集した植物標本. *横浜植物会年報*, (52): 53-54.

若手研究

西澤文勝：南九州カルデラ地域の前-中期更新世火砕流堆積物の層序と爆発的火山噴火史の解明(19K13438)

国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))

松本涼子：絶滅四肢動物から解き明かす現生両生類の首の進化(18KK0393)

学術変革領域研究(A)

荻部治紀：絶滅危惧水生昆虫の現況と減少要因の解明、水環境の科学的知見に基づく環境再生(22H05245C01)

研究成果公開費(ひらめき☆ときめきサイエンス)

田口公則：自分の博物館体験を可視化してみよう(23HT0088)

田中徳久, 2024. 『神奈川県植物誌 2018』の正誤表について. *FLORA KANAGAWA*, (93): 1118-1119.

[普及的著作等]

田中徳久, 2023. 浅井康宏先生を悼む. *横浜植物会年報*, (52): 14-15.

田中徳久, 2023. 村上先生、あのスマレは何スマレでしたか?. *横浜植物会年報*, (52): 24-25.

田中徳久, 2023. 神奈川県での牧野富太郎. *自然科学のとりら*, 29(3): 18-19.

田中徳久, 2023. 館長就任のご挨拶. *友の会通信*, (121): 2.

田中徳久, 2023. 牧野富太郎と横浜植物会. *ミドリ*, (130): 2-3.

田中徳久, 2023. 神奈川県の植物相調査. *ミドリ*, (131): 4-5.

田中徳久, 2024. 大空を滑空する種子. 大場秀章監修, 植物のプロが教える面白くてためになる植物観察の事典. pp. 66-69; 意外に長い「春の妖精」の一生. 同書, pp. 104-106; 倒木があって森林は更新されている. 同書, pp. 157-159; サツキはなぜ陰しい溪岸を好むか. 同書, pp. 194-197; 雪田のドーナツ状植物群落. 同書, pp. 198-201; 神津島の“擬似高山帯”と“砂漠”. 同書, pp. 202-205; タンポポ戦争? 生き残り戦略の新たな展開. 同書, pp. 260-265; 自家中毒を起こすセイタカアワダチソウ. 同書, pp. 266-269; ススキ草原が消えていくのはなぜか. 同書, pp. 270-273; 治水で消えるカワラノギク. 同書.

pp. 274-277; 人手をかけないと護れない雑木林の自然. 同書. pp. 278-281. 山と溪谷社, 東京.
田中徳久, 2024. 村上司郎氏ご逝去. FLORA KANAGAWA, (93): 1120.
田中徳久, 2024. 長谷川義人氏ご逝去. FLORA KANAGAWA, (93): 1120.

加藤ゆき(かとう ゆき) 動物学(鳥類)

[普及的著作等]

加藤ゆき, 2023. 身近なトリに目を向けて!. 自然科学のとびら, 29(2):10-11.
加藤ゆき, 2023. シジウカラガンのいる風景. 自然科学のとびら, 29(4):25.
加藤ゆき, 2023. 日本で見られるコブハクチョウは在来種? 外来種?. 自然科学のとびら, 29(4):26-27.
[学会発表等]
加藤ゆき・葉山久世, 2023 (September 16). 神奈川県におけるサギ類集団営巣地の現状について. 日本鳥学会 2023 年度大会, 金沢大学角間キャンパス, 金沢.
小林さやか・岩見恭子・加藤ゆき, 2023 (September 16). 第 5 回標本集会 江戸時代の鳥を知ろう. 日本鳥学会 2023 年度大会, 金沢大学角間キャンパス, 金沢.
石浜佐栄子・加藤ゆき・大坪 奏・広谷浩子, 2023 (June 4). 幼児と親に豊かな博物館体験を提供するための試み〜来館者アンケートによる企画展の事前評価を通して見えてきたもの〜. 日本ミュージアム・マネジメント学会第 28 回大会, 乃村工藝社ビル.

苅部治紀(かるべ はるき) 動物学(昆虫類)

[論文]

苅部治紀・亀田 豊・加賀玲子・藤田恵美子, 2023. 国内の絶滅危惧トンボ類生息地におけるネオニコチノイド系農薬汚染の実態. TOMBO, 66: 13-24.
苅部治紀・白石良太, 2023. ベニトンボの雌雄モザイク個体について. Tombo, 66: 67-69.
Shoji K., & H. Karube, 2023. Predation by terrestrial flatworm *Platydemus* sp. (Tricladida: Continenticola: Geoplanidae: Rhynchodeminae) on an adult of *Rhinocypha ogasawarensis* (Odonata: Zygoptera: Chlorocyphidae). Tombo, 66: 60-62.
Karube H., K. Araya, K. Odagiri, E. Moritsuka and T. Kitano, 2023. A New Species of the Genus *Hydaticus* (Coleoptera: Dytsicidae) from Yambaru Area, Northern Okinawa Island, Ryukyu Archipelago. Japanese Journal of Systematic Entomology, 29 (1): 138-143.
苅部治紀・矢後勝也, 2023. 100 年以上前の東京都のミズスマシ属の記録. さやばねニューシリーズ, (50): 1-3.
渡部哲史・荒谷邦雄・内海信幸・苅部治紀・北野 忠・木村匡臣・嶋田奈穂子・富永 篤・中村泰之・藤岡悠一郎・永井 信, 2023. 琉球諸島の流域における水循環と生物多様性に関する学際研究の可能性と展望. 流域圏学会誌, 10(2): 58-71.
[著作・著書・調査報告書・資料等]
加藤ゆき恵・苅部治紀, 2023. 釧路湿原達古武沼付近の小沼で絶滅危惧植物 ヒンジモ *Lemna trisulca* L. (サトイモ科)を確認. 釧路市立博物館館報, (431): 7.

苅部治紀, 2023. 小田原市酒匂川河川敷における侵略的外来水草オオフサモと絶滅危惧種チョウトンボの発生. 神奈川虫報, (211): 33.

渡辺恭平・苅部治紀, 2023. 日本国内における昆虫調査の許認可申請の煩雑化問題と解決の必要性. 昆虫ニューシリーズ, 26(4): 209-214.

[普及的著作等]

苅部治紀, 2023. 急激な温暖化の進行が昆虫に与える影響. 自然科学のとびら, 29(4):30-31.

[学会発表等]

苅部治紀, 2023 (September 4). 「絶滅危惧水生昆虫の現況と減少要因の解明、水環境の科学的知見に基づく環境再生」 水文・水資源学会/日本水文学会 2023 年度研究発表会 プロポーズドセッション: 水共生学〜水文・水資源学における学際研究の課題と可能性〜口頭発表, 長崎大学, 長崎県長崎市.
苅部治紀・渡部哲史, 2023 (November 19). 「北海道のトンボに何が起きているのか? —増加する絶滅危惧種と気象危機の影響の検討—」 日本トンボ学会 大会口頭発表, 国立科学博物館, 東京都台東区.
苅部治紀・北野 忠, 2023 (December 27). 「南西諸島の止水性水生昆虫の衰亡 —とくにミズスマシ, コガシラミズムシ, 小型ゲンゴロウ類の動向—」 日本甲虫学会大会口頭発表, 愛媛大学農学部, 愛媛県松山市.
苅部治紀・渡部哲史, 2024 (January 27). 「顕在化してきた北方系トンボ類への気候変動影響の検証」 トンボ研究会大会口頭発表, ウイル愛知, 愛知県.

渡辺恭平(わたなべ きょうへい) 動物学(昆虫類)

[論文]

渡辺恭平・郷右近勝夫・前田泰生, 2023. 日本産コンボウヤセバチ科(ハチ目, ヤセバチ上科)の寄主, 訪花植物および分布記録. 昆虫ニューシリーズ, 26(2): 49-57.
向井裕美・北島 博・末吉昌宏・渡辺恭平, 2023. シイタケ害虫ナガマドキノコバエ類幼虫の生存個体を利用した在来天敵の抽出. 関東森林研究, 74: 163-164.
Watanabe, K., 2023. New distribution records of species of the subfamilies Ctenopelmatinae, Pimplinae, and Rhyssinae (Hymenoptera: Ichneumonidae) in Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 29(1): 23-28.
Watanabe, K. & M. Ito, 2023. Revision of the genus *Leptobatopsis* Ashmead, 1900 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae) from Japan, with some taxonomic notes of Asian species. Zootaxa, 5339(5): 401-426. DOI: org/10.11646/zootaxa.5339.5.1
Watanabe, K., 2023. *Priopoda macrophyae* (Hymenoptera, Ichneumonidae, Ctenopelmatinae), a new species of parasitoid of *Macrophya satoi* (Tenthredinidae), a serious pest of Japanese ash tree (Oleaceae). Zootaxa, 5352(4): 594-600. DOI: org/10.11646/zootaxa.5352.4.9
渡辺恭平・苅部治紀, 2023. 日本国内における昆虫調査の許認可申請の煩雑化問題と解決の必要性. 昆虫ニューシリーズ, 26(4): 209-214.
Morishita, S. & K. Watanabe, 2023. *Spudaeus kuandianicus* Sheng & Sun, 2014 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Metopiinae) new to Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology,

- 29(2): 273-274.
- Watanabe, K., 2024. Taxonomic study of Japanese Ctenopelmatinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with descriptions of 22 new species. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), (53): 39-102.
- Morishita, S. & K. Watanabe, 2024. Review of subgenera *Metopius* Panzer and *Peltastes* Illiger of the genus *Metopius* Panzer (Hymenoptera: Ichneumonidae: Metopiinae) from Japan. Zootaxa, 5428(3): 351-372.
- 廣瀬勇輝・渡辺恭平, 2024. ヒメウマノオバチ(ハチ目, コマユバチ科)の宿主初記録. 昆虫ニューシリーズ, 印刷中.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 渡辺恭平, 2023. 真鶴半島でウスヒラタゴキブリとヒメクロゴキブリを採集. 神奈川虫報, (210): 13.
- 渡辺恭平, 2023. ヨツモンカメノコハムシの幼虫を襲うコアシナガバチとセグロアシナガバチ. 神奈川虫報, (210): 71-72.
- 小林 駿・渡辺恭平, 2023. 神奈川県小田原市におけるタイワンタケクマバチの記録. 神奈川虫報, (210): 75.
- 片山栄助・渡辺恭平・斎藤 猛, 2023. 栃木県産ハチ目の追加記録(12). インセクト, 74(1): 18-20.
- 渡辺恭平, 2023. 日本産 Cryptini (ヒメバチ科トガリヒメバチ亜科)の同定資料: 2. *Torbda* group. すがれおい, (3): 8-19.
- 渡辺恭平・久末 遊, 2023. 蜂友通信と Special Publications of the Japan Hymenopterists Association の総目次. すがれおい, (3): 20-37.
- 渡辺恭平・栗原草太・野口蒼真・田邊結太, 2023. アカマツの倒木中で成虫越冬していた 3 種のヒメバチ亜科. すがれおい, (3): 38-41.
- 三田敏治・阿部純太・工藤雄太・大對桂一・村尾竜起・渡辺恭平, 2023. 福岡県平尾台で採集されたハチ類の分布資料. すがれおい, (3): 46-63.
- 渡辺恭平, 2023. 日本産ハナバチ類の同定資料の訂正と補足. すがれおい, (3): 64-77.
- 渡辺恭平, 2023. ニホンジカの食害が引き起こすハチ目昆虫の危機的な現象: 特に野生ハナバチ類への深刻な影響. 神奈川虫報, (211): 10-24.
- 田邊結太・伊藤 新・渡辺恭平, 2023. 神奈川県におけるサクラトゲアナバチの追加記録. 神奈川虫報, (211): 42-43.
- 田邊結太・江釣子真幸・渡辺恭平, 2023. 神奈川県におけるオオナギナタハバチの追加記録. 神奈川虫報, (211): 43-44.
- 黒川生翔・黒川結生・渡辺恭平, 2023. 秦野市でアカアシオオアオカミキリを採集. 神奈川虫報, (211): 45.
- 大對桂一・渡辺恭平, 2023. 福岡県那珂川市郊外におけるヒメバチ科 6 種の記録. KURASANA, (101): 1-3.
- 渡辺恭平, 2023. 日本産 Cryptini (ヒメバチ科トガリヒメバチ亜科) の同定資料: 3. *Mesostenus* group (I). すがれおい, (4): 5-21.
- 納谷典明・渡辺恭平・藏満司夢, 2023. ウヅキコモリグモ(コモリグモ科)の卵囊から羽化したハネナシヒメバチ属 *Gelis* の一種(ヒメバチ科: チビトガリヒメバチ亜科). すがれおい, (4): 24-25.
- 渡辺恭平, 2023. 奄美大島におけるツチスガリ類 3 種の訪花記録. すがれおい, (4): 41-47.
- 渡辺恭平・大西 亘, 2023. アイヌヒメハナバチの訪花植物と若干の観察. すがれおい, (4): 66-70.
- 渡辺恭平・加藤優羽・中濱直之, 2023. タイセツヒメハナバチの生態についての若干の観察. すがれおい, (4): 71-79.
- 山本栄治・渡辺恭平, 2023. ウスキキヌガサタケに飛来したツルガハキリバチ. すがれおい, (4): 83-85.
- 大對桂一・渡辺恭平, 2023. 熊本県阿蘇地域の草原で採集したハナバチ類数種の記録. すがれおい, (4): 88-95.
- 中田勝之・渡辺恭平, 2023. 白山の石川県側から採集されたハナバチ類とヒメバチ類の記録. すがれおい, (4): 96-99.
- 渡辺恭平, 2023. ハチの捕獲に適した吸虫管について. すがれおい, (4): 100-108.
- 渡辺恭平, 2024. 藤沢市鵠沼海岸で採集したハチ類. 神奈川虫報, (212): 12-14.
- 渡辺恭平, 2024. 日本産ガガンボモドキ科(シリアゲムシ目)に関する最近の話題. 神奈川虫報, (212): 37-40.
- 川島逸郎・渡辺恭平, 2024. 横浜市中区山下町(中華街)で得られたカワリイスカバチの記録. 神奈川虫報, (212): 48.
- 渡辺恭平, 2024. 神奈川県南足柄市でオオキボシハナノミを採集. 神奈川虫報, (212): 74.
- 伊藤 新・渡辺恭平, 2024. 神奈川県におけるヨツボシツヤナガゴミムシの追加記録. 神奈川虫報, (212): 77-78.
- 川島逸郎・渡辺恭平, 2024. 三浦半島の 3 地点におけるサクラトゲアナバチの追加記録とオスの後体節背板の色彩変異. 神奈川虫報, (212): 78-79.
- [普及的著作等]
- 渡辺恭平・三田敏治, 2023. 学術報告の英文タイトル・著者名について. すがれおい, (3): 80-84.
- 渡辺恭平, 2023. 文献紹介若干. すがれおい, (3): 84-85.
- 渡辺恭平, 2023. ヒメナガメ. 広報おおい(大井町広報誌), (691): 24.
- 渡辺恭平, 2023. マイマイガ. 広報おおい(大井町広報誌), (693): 16.
- 渡辺恭平, 2023. アシブトムカシハナバチ. 広報おおい(大井町広報誌), (697): 24.
- 渡辺恭平, 2023. オーストリア・ドイツで標本調査をしてきました. すがれおい, (4): 109-121.
- 渡辺恭平, 2023. 文献紹介若干. すがれおい, (4): 137-141.
- [学会発表等]
- 末吉昌宏・阿部純太・渡辺恭平, 2023 (September 18). 原木シイタケ害虫キノコバエ類の寄生蜂群集. 日本昆虫学会第 83 回大会, 佐賀大学.
- 渡辺恭平, 2024 (March 31). 分類学者による他分野研究者や愛好家との連携: 実例と留意点. 日本昆虫学会第 84 回大会・第 68 回日本応用動物昆虫学会大会合同大会, 仙台国際センター.

松本涼子(まつもと りょうこ)

動物学(両生・爬虫類)

[論文]

Matsumoto, R., S. Fujiwara & S. Evans, 2024. The anatomy and feeding mechanism of the Japanese giant salamander (*Andrias japonicus*). *Journal of Anatomy*. DOI: 10.1111/joa.14004.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

松本涼子, 2023. ロンドン研究日記. 自然科学のとりら, 29 (3): 22-23.

[普及的著作等]

古生物動物園研究者チーム監修・土屋 健著, 2023. 古生物動物園のつくり方. 320 pp. 技術評論社, 東京.

[学会発表等]

Ryoko Matsumoto, 2024 (February 15). Evolution of neck joints in tetrapods. CIA 4th Annual Meeting, University College London, UK.

鈴木 聡(すずき さとし) 動物学(哺乳類)

[論文]

出口翔大・中田 都・鈴木 聡・久米田賢治, 2023. ニホンイタチ *Mustela itatsi* およびチョウセンイタチ *M. sibirica coreana* の尾および顔面の模様の比較. 福井市自然史博物館研究報告, (70): 31-40.

辻 大和・高橋堯大・猿渡あさひ・伊藤友仁・鈴木 聡, 2024. 生物学教育用の全身骨格標本の作製法. 石巻専修大学研究紀要, (35): 97-106.

鷲見みゆき・大泉 宏・三井翔太・崎山直夫・鈴木 聡・樽 創, 2023. 相模湾沿岸に漂着したスジイルカ *Stenella coeruleoalba* の胃内容物. 日本セトロジー研究, (33): 1-7.

崎山直夫・花上諒大・鷲見みゆき・鈴木 聡・石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創, 相模湾・東京湾沿岸で記録された鰭脚類について. 神奈川自然誌資料, (45): 1-14.

Suzuki, C., M. Sasaki, N. Tsuzuki, M. Kayano, K. Yamada, N. Ishiguro, N. S. Suzuki, H. Taru, W. Matsuda, H. Endo T. Kikuchi, K. Kikuchi & Kitamura, N., 2024. Quantitative analysis of the skull in the Japanese wolf (*Canis lupus hodophilax*) using CT. *Journal of Veterinary Medical Science*, DOI: <https://doi.org/10.1292/jvms.22-0070> [Online 22 February 2024]

[普及的著作等]

鈴木 聡, 2024. ニホンカモシカ *Capricornis crispus*. 自然科学のとりら, 30 (1): 1.

[学会発表等]

立脇隆文・西澤 柚・中嶋靖男・宮西 葵・炭山大輔・安原伶香・村上あぐり・鈴木 聡, 2023 (September 8). 愛知県岡崎市におけるシベリアイタチとニホンイタチのロードキルの分布. 日本哺乳類学会 2023 年度大会, 琉球大学.

木嶋健志・足立高行・鈴木 聡・阿部晴恵, 2024 (March 16). 佐渡島におけるニホンイタチの遺伝的由来及びイタチ科 2 種の生息状況. 日本生態学会第 71 回全国大会, ハイブリッド開催.

西村双葉(にしむら ふたば) 動物学(哺乳類)

[論文]

西村双葉・白形知佳・崎山直夫・鷲見みゆき・大津大・鈴木美和, 2024. 神奈川県におけるサラワクイルカ座礁の初記録. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (53): 103-112.

[普及的著作等]

西村双葉, 2023. 高校時代と学芸員の仕事. 東京鳩会会報 (32): 4.

瀬能 宏(せのう ひろし) 動物学(魚類)

[論文]

山川宇宙・瀬能 宏・津田吉晃, 2023. 山形県および新潟県, 富山県で採集されたカワアナゴ. 南紀生物, 65 (1): 43-45.

村瀬敦宣・渋谷風雅・長友伸二郎・緒方悠輝也・大衛亮正・本村浩之・瀬能 宏, 2023. 水中写真に基づく宮崎県南部沿岸域の魚類相とその生物地理学的組成. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 33: 33-114. DOI: 10.34583/ichthy.33.0_33

樋口聡文・瀬能 宏・高久 至・本村浩之, 2024. 標本に基づく日本初記録のイソギンポ科 *Petroscirtes xestus* カザハナニジギンポ(新称). 魚類学雑誌, J-STAGE 早期公開版. DOI: 10.11369/jji.23-027

Hasegawa, T., K. Kondo and H. Senou, 2024. Transferable deep learning model for the identification of fish species for various fishing grounds. *Journal of Marine Science and Engineering*, 12 (3). DOI: <https://doi.org/10.3390/jmse12030415>

加登岡大希・瀬能 宏, 2024. 稀種オロシザメ(ツノザメ目: オロシザメ科)の相模湾からの記録、および太平洋北西部における分布と生息状況. 神奈川自然誌資料, (45): 15-22.

沼沼勇魚・和田英敏・斉藤洪成・瀬能 宏, 2024. イソゴンベの相模湾における分布記録. 神奈川自然誌資料, (45): 23-29.

Wada, H. & H. Senou, 2024. *Plectranthias clavatus* sp. nov., a new perchlet from Japan and Guam, with review of distributional records of *P. kamii* (Perciformes: Serranidae: Anthiadinae). *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (53): 113-126.

本田康介・瀬能 宏・和田英敏, 2024. 相模湾産魚類目録(改訂). 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (53): 127-218.

瀬能 宏, 2024. 小田原市郷土文化館所蔵の日産水産研究所旧蔵魚類標本およびその歴史的価値. 小田原市郷土文化館研究報告, (60): 19-30.

和田英敏・瀬能 宏・高瀬 歩・柳田満彦・鈴木美智代・横田雅臣, 2024. 伊豆半島東岸から得られたベラ科魚類 *Pseudocoris ocellata* ヒトミベラ(新称)の標本に基づく日本初記録および本種の日本における生息状況. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 42: 38-45. DOI: 10.34583/ichthy.42.0_38

[普及的著作等]

瀬能 宏・大塚 攻, 2023. 「標準と名問題検討ワーキンググループ」の設置について. 日本分類学会連

合ニュースレター, (41): 1-3.
 崎山直夫・瀬能 宏, 2023. 江の島に現れたホッケ.
 自然科学のとびら, 29(3): 17.
 瀬能 宏, 2024. 一枚の写真から紐解く希少淡水魚の
 絶滅と保全. 自然科学のとびら, 30(1): 2-3.
 [学会発表等]
 瀬能 宏, 2023 (April 9). 標準和名とは何か: その
 歴史と概念の成立. 日本生物地理学会第 77 回オンラ
 イン大会シンポジウム: 動物の名前: 多様性の理解
 と自然知の伝承をめぐって, オンライン.
 長谷川達人・近藤 圭・瀬能 宏, 2023 (July 6).
 様々な産地市場に転用可能な魚種の自動判別モデル.
 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2023)
 シンポジウム, 富山国際会議場, 富山市.
 瀬能 宏, 2023 (July 16). 小田原市郷土文化館所蔵
 の旧日本水産研究所寄贈魚類標本とその歴史的価値.
 第 46 回相模湾海洋生物研究会研究発表会, 横須賀市
 自然・人文博物館, 横須賀市.
 小枝圭太・瀬能 宏, 2023 (September 2-3). ノコギ
 リエイ科の日本における確かな記録と適用すべき和
 名および日本国内における生息状況. 2023 年度日本
 魚類学会年会, 長崎大学文教キャンパス, 長崎.
 和田英敏・瀬能 宏・手良村知功・小枝圭太・本村浩
 之, 2023 (September 2-3). 日本と台湾の黒潮流域
 から得られた標本と写真に基づくオガサワラカサゴ
 の標徴および分布記録の再検討. 2023 年度日本魚類
 学会年会, 長崎大学文教キャンパス, 長崎.
 齊藤洪成・瀬能 宏・村瀬敦宣, 2023 (September 2-
 3). 小笠原諸島から新たに記録された魚類. 2023 年
 度日本魚類学会年会, 長崎大学文教キャンパス, 長崎.
 長谷川達人・益本英明・瀬能 宏, 2023 (September
 6-8). 深層学習を用いた魚種の自動判別における背
 景除去の影響. 第 22 回情報科学技術フォーラム
 (FIT2023), 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス, 堺市.

大西 亘(おおにし わたる) 植物学(維管束植物) [論文]

矢野興一・大西 亘・勝山輝男・星野卓二, 2024. 鹿
 児島県産スゲ属 (カヤツリグサ科) の 2 新種, サツ
 マセンダイスゲおよびカノヤスゲ (英文). 植物研究
 雑誌, 97: 16-24.
 Koga, H., Y. Doll, W. Ohnishi and H. Tsukaya, 2024. First
 records of non-native species *Callitriche deflexa*
 (Plantaginaceae), which was previously misidentified as
C. terrestris in Japan. Biodiversity data journal, 12:
 e115142. <https://doi.org/10.3897/BDJ.12.e115142>
 Tanaka, N., A. Grabovskaya-Borodina, T. Katsuyama, T.
 Fukuda, W. Ohnishi, A. Shimizu and H. Ikeda, 2023.
 Lectotypification of *Calamagrostis yatabei* (Poaceae).
 Journal of Japanese Botany, 98: 110-113.
 Tanaka, N., A. Grabovskaya-Borodina, T. Katsuyama, T.
 Fukuda & W. Ohnishi, 2024. Plant Type Materials from
 Kanagawa Prefecture (Japan) in the Herbarium of the
 Komarov Botanical Institute (LE; Russia): Lycophytes,
 Ferns, Gymnosperms, and Angiosperms (Monocots and some
 Dicots). Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum

(Natural Science), (53): 17-38.
 [著作・著書・調査報告書・資料等]
 伊藤晃逸・女川 修・大西 亘, 2024. 県西部にカゲ
 ロウランを記録する. FLORA KANAGAWA, 93: 1109-
 1110.
 渡辺恭平・大西 亘, 2023. アイヌヒメハナバチの訪
 花植物と若干の観察. すがれおい, (4): 66-70.
 [普及的著作等]
 大西 亘, 2024. 植物採集・標本製作にキッキンググ
 ヅでひと工夫. FLORA KANAGAWA, 93: 1117-1118.
 [学会発表等]
 夫婦石千尋・大西 亘・矢原徹一・佐竹暁子, 2024
 (March 16). 維管束植物 3,180 種を対象とした生息
 地点数の増減にもとづく絶滅リスク評価. 日本生態
 学会第 71 回全国大会, ハイブリッド開催.
 大西 亘, 2024 (March 11). 直接観察相当の実用分解
 能を備える植物標本イメージングの例. 日本植物分
 類学会第 23 回大会, 東北大学.
 大西 亘, 2023 (September 24). 植物誌をつくろう!
 ～三度の全県版植物誌の過程と展望～. 富山県中央
 植物園開園 30 周年記念第 31 回 TOYAMA 植物フォーラ
 ムふるさと富山の植物を守ろう partIIー生物多様性
 保全と市民の取り組みー. (招待講演)

折原貴道(おりはら たかみち) 菌類学

[著作・著書・調査報告書・資料等]
 折原貴道・新山保和, 2023. 西富岡・向畑遺跡から発
 掘された硬質菌 (サルノコシカケ類) 標本につい
 て. かながわ考古学財団 設立 30 周年記念 公開セミ
 ナー「ようこそ縄文の森へ～自然科学と考古学から
 探る伊勢原の埋没林～」要旨集, pp. 43-46.
 [普及的著作等]
 折原貴道, 2023. カエンタケ. 自然科学のとびら, 29
 (2): 1.
 折原貴道, 2023. かながわご当地菌類 ガイドブック
 (2023 年度特別展展示解説書). 第 1 章 (pp. 6-
 16), 第 2 章 (部分執筆; pp. 17-26, 31-33, 36, 37,
 44-61, 65, 66, 68-75), 第 3 章 (pp. 80-89), 第 4 章
 (部分執筆; pp. 92-95, 101-102), 第 5 章 (pp. 104-
 109), あとがき (p. 115). 神奈川県立 生命の星・地
 球博物館, 小田原.
 [学会発表等]
 折原貴道, 2023 (April 28). 『新・入生田菌類誌』の
 ご紹介. 日本菌学会関東支部 2023 年度年次大会, 三
 菱ケミカル株式会社 Science & Innovation Center,
 横浜.
 折原貴道, 2023 (May 20). 東京都新島村での *Visositunica*
radiata (アツギケカビ科) の発生の確認. 日本地下
 生菌研究会 2023 年度講演会, オンライン.
 折原貴道・大前宗之・畠山颯太・山本航平, 2023 (May
 28). ツチダンゴ属 *Malacodermei* 節の分子系統と日
 本における種多様性. 一般社団法人日本菌学会第 67
 回大会, 熊本 (ハイブリッド開催).
 折原貴道・山本航平・金子義紀・岩間杏美, 2024
 (February 17). イッボンシメジ属のセコチウム型菌
 から検出されたアテリア目菌類. 日本地下生菌研究

会 2024 年度講演会, 東京.
畠山颯太・山本航平・金子義紀・折原貴道, 2024
(February 17). 国産褐色系ツチダンゴ属 (sect.
Elaphomyces) の多様性紹介. 日本地下生菌研究会
2024 年度総会・講演会, 東京.
折原貴道・松尾 歩・山本航平・大前宗之・保坂健太
郎・陶山佳久, 2024 (March 19). 地下生菌はいかに
して海洋島へ分布を広げるのか-伊豆・小笠原諸島に
おける研究から. 日本生態学会大会第 71 回全国大
会, 自由集会「日本から発信する島嶼生物学 5」, 横
浜国立大学, 横浜.

石田祐子(いしだ ゆうこ)

植物学 (植物生態学・植生学)

[論文]

藤田淳一・大塚孝一・川上美保子・星山耕一・松田貴
子・中村千賀・上野勝典・石田祐子, 2023. 長野県
植物誌パイロット版Ⅲ. 長野県植物研究会誌,
(56) :149-160.

石田祐子・上野寛子, 2024. 明治学院大学横浜キャン
パスの植生評価およびその手法に関する研究. カル
チュール, 18(1) :69-82.

石田祐子, 2024. 小田原市でタマザキクサフジを確認.
FLORA KANAGAWA, (93) : 1114.

[学会発表等]

吉田圭一郎・比嘉基紀・石田祐子・若松伸彦・瀬戸美
文・吉田光翔, 2023 (October 14). 利尻山の亜寒
帯針葉樹林における大規模な風倒攪乱と樹木の更
新. 植生学会第 28 回大会, 甲南女子大学.

石田祐子, 2024 (March 16-21). 神奈川県における半
自然草原の植物の分布. 日本生態学会第 71 回全国大
会. 横浜国立大学, ハイブリッド開催.

大島光春(おおしま みつはる) 古生物学 (哺乳類)

[普及的著作]

大島光春, 2023. ミューズ・フェスタ 2023 で開催した
公開フォーラム報告. 自然科学のとびら, 29 (2) :
12-13.

[著作・著書・報告書・資料等]

大島光春, 2024. ヒトの体に見る 5 億年の物語. 理科
研究収録, (63) : 47-49.

樽 創(たる はじめ) 古生物学 (哺乳類)

[論文]

Mitsui, S., C-H. Lin, H. Taru and K. Shibata, 2023. Fish
otolith record reveals possible tropical-subtropical
fish community in temperate Japan during the
exceptionally warm Last Interglacial period. Historical
Biology, DOI: 10.1080/08912963.2023.2201933.

樽 創・木村敏之, 2023. 西部上総層群のたまりはじめ
の頃 (東京西部にたまった上総層群). 化石, 114,
19-22.

木村敏之・樽 創・蔡 政修, 2023. 西部上総層群産
クジラ類化石の概要と更新統における鯨類相. 化石,
114, 37-45.

鷲見みゆき・大泉 宏・三井翔太・崎山直夫・鈴木

聡・樽 創, 2023. 相模湾沿岸に漂着したスジイル
カ *Stenella coeruleoalba* の胃内容物. 日本セトロ
ジー研究, (33) : 1-7.

崎山直夫・花上諒大・鷲見みゆき・鈴木 聡・石川
創・山田 格・田島木綿子・樽 創, 2024. 相模
湾・東京湾沿岸で記録された鰭脚類について. 神奈
川自然誌資料, (45) : 1-14.

宮田真也・尾崎 薫・福嶋 徹・樽 創, 2024. 多摩
川水系中・上流域に分布する上総層群から産出した
浅海性硬骨魚類化石の概要. 化石, 115, 5-17.

Suzuki, C., M. Sasaki, N. Tsuzuki, M. Kayano, K. Yamada, N.
Ishiguro, N., S. Suzuki, H. Taru, W. Matsuda, H. Endo T.
Kikuchi, K. Kikuchi & Kitamura, N., 2024. Quantitative
analysis of the skull in the Japanese wolf (*Canis lupus
hodophilax*) using CT. Journal of Veterinary Medical
Science, DOI: <https://doi.org/10.1292/jvms.22-0070>
[Online 22 February 2024]

[著作・著書・調査報告書・資料等]

樽 創, 2023. あきる野市網代から産出した *Stegodon
miensis* Matsumoto (ミエゾウ) について. あきる野
市五日市郷土博物館, 1-32.

[普及的著作等]

主森 亘・樽 創, 2023. 日本下部中新統から産出し
た鰭脚類の足根骨の記載と西北太平洋の鰭脚類にお
ける初期進化. 化石, 114, 52-82.

樽 創, 2023. 特集: 西部上総層群のたまりはじめの
頃 (東京西部にたまった上総層群). 化石, 114, 表紙

樽 創, 2023. 特集: 西部上総層群のたまりはじめの
頃 (東京西部にたまった上総層群). 化石, 114, 裏表紙
[学会発表等]

半田直人・樽 創, 2023 (September 17-19). 神奈川
県上部中新統大磯層から産出したサイ科化石の分類
学的再検討. 日本地質学会第 130 年学術大会, 京都大
学吉田キャンパス.

田口公則(たぐち きみのり) 古生物学 (貝類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

西澤文勝・石浜佐栄子・田口公則, 2023. 地質学的に
見た西富岡・向畑遺跡の植物遺骸の産状とその層位.
かながわ考古学財団設立 30 周年記念公開セミナー
「ようこそ縄文の森へ ~自然科学と考古学から探る
伊勢原の埋没林~」 要旨集, 7-15.

田口公則, 2023. 西富岡・向畑遺跡出土の木の自然乾
燥について. かながわ考古学財団設立 30 周年記念公
開セミナー ようこそ縄文の森へ ~自然科学と考古
学から探る伊勢原の埋没林~ 要旨集, 47-50.

[普及的著作等]

田口公則, 2024. 項目「愛川層群」「落合層」「寺家
層」「逗子動物群」. 地学団体研究会編, 最新地学事
典, 2046pp. 平凡社, 東京.

田口公則, 2024. 庶民の石, 権力の石-神奈川県 of 石
材から. 鈴木寿志・伊藤 孝・高橋直樹・川村教
一・田口公則編著, 変動帯の文化地質学, pp. 62-
72. 京都大学学術出版会, 京都.

田口公則, 2024. 地域資源の再発見-博物館の新しい
役割. 鈴木寿志・伊藤 孝・高橋直樹・川村教一・

田口公則編著, 変動帯の文化地質学, pp. 456-466.
京都大学学術出版会, 京都.

鈴木寿志・田口公則, 2024. 地質文学. 鈴木寿志・伊藤 孝・高橋直樹・川村教一・田口公則編著, 変動帯の文化地質学, pp. 268-283. 京都大学学術出版会, 京都.

[学会発表等]

田口公則, 2023 (September 16). 地域を重層的に捉える積み重ね:「秦野まちあるき」の実践から. 日本地質学会第 130 年学術大会, 京都大学吉田キャンパス.

田口公則, 2023 (December 26). どうしたら巻貝の螺旋のイメージをもたせることができるだろうか ―ベアリング球を貝殻の中に派遣する方法―. 日本視覚障害理科教育研究会 第 43 回研究大会, 筑波大学附属視覚特別支援学校.

西澤文勝・石浜佐栄子・田口公則, 2023 (December 9). 地質学的に見た西富岡・向畑遺跡の植物遺骸の産状とその層位. かながわ考古学財団設立 30 周年記念公開セミナー「ようこそ縄文の森へ～自然科学と考古学から探る伊勢原の埋没林～」, 伊勢原市民文化会館.

山下浩之(やました ひろゆき) 地学 (岩石学)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

楠 賢司・山下浩之・酒井瑞帆・佐竹凌汰, 2024. 令和 4～5 年度畑地帯総合整備 (担い手支援) 西浦みかん足保久料地区事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第 5 章矢穴石の岩石学的特徴. 静岡県埋蔵文化財センター調査報告第 70 集, pp. 87-102, 沼津市.

[学会発表等]

針金由美子・田村明弘・仙田量子・森下知晃・山下浩之, 2023. 北部マリアナトラフ, Central Graben 地域の最上部マントルの不均質性について―KR02-01 航海から得られたかんらん岩類の(再)微細構造解析. 日本鉱物科学会 2023 年年会, 大阪公立大学.

新井田秀一(にいだ しゅういち) 環境科学

[普及的著作等]

新井田秀一, 2023. 神奈川県鳥瞰図に描かれた小田原・箱根地域一酒匂川流域にある謎の「名物」―. 自然科学のとびら. 29(2): 14-15.

石浜佐栄子(いしはま さえこ) 地学 (堆積学)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

西澤文勝・石浜佐栄子・田口公則, 2023. 地質学的に見た西富岡・向畑遺跡の植物遺骸の産状とその層位. かながわ考古学財団設立 30 周年記念公開セミナー「ようこそ縄文の森へ～自然科学と考古学から探る伊勢原の埋没林～」要旨集, 7-15.

[普及的著作等]

石浜佐栄子, 2023. より良い企画展を作るには?～展示を評価しながら考える. 自然科学のとびら, 29(3): 20-21.

[学会発表等]

石浜佐栄子・加藤ゆき・大坪 奏・広谷浩子, 2023 (June 4). 幼児と親に豊かな博物館体験を提供するための試み～来館者アンケートによる企画展の事前評価を通して見えてきたもの～. 日本ミュージアム・マネジメント学会第 28 回大会, 乃村工芸社ビル.
西澤文勝・石浜佐栄子・田口公則, 2023 (December 9). 地質学的に見た西富岡・向畑遺跡の植物遺骸の産状とその層位. かながわ考古学財団設立 30 周年記念公開セミナー「ようこそ縄文の森へ～自然科学と考古学から探る伊勢原の埋没林～」, 伊勢原市民文化会館.

西澤文勝(にしざわ ふみかつ) 地学 (火山地質学)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

西澤文勝・石浜佐栄子・田口公則, 2023. 地質学的に見た西富岡・向畑遺跡の植物遺骸の産状とその層位. かながわ考古学財団設立 30 周年記念公開セミナー「ようこそ縄文の森へ～自然科学と考古学から探る伊勢原の埋没林～」要旨集, 7-15.

[普及的著作等]

西澤文勝, 2023. 神奈川県西部の特性から自然災害を考える. 自然科学のとびら, 29(4): 28-29.

[学会発表等]

Suzuki, T., Aoki, K., Kobayashi, M., Murata, M., Nishizawa, F. & Takahashi, T, 2023 (July 20). A 30,000 yr high-precision eruption history in the north Izu Islands, off Tokyo, Japan. XXI INQUA Congress 2023, Roma, Italy.

安田 敦・亀谷伸子・嶋野岳人・田島靖久・吉本充宏・杉山浩平・西澤文勝・金子隆之・藤井敏嗣, 2023 (October 18-19). 富士山のテフラ対比に役立つ鍵層について. 日本火山学会 2023 年度 秋季大会, かごしま県民交流センター.

西澤文勝・石浜佐栄子・田口公則, 2023 (December 9). 地質学的に見た西富岡・向畑遺跡の植物遺骸の産状とその層位. かながわ考古学財団設立 30 周年記念公開セミナー「ようこそ縄文の森へ～自然科学と考古学から探る伊勢原の埋没林～」, 伊勢原市民文化会館.

大坪 奏(おおつぼ かなで) アーカイブズ

[普及的著作等]

大坪 奏, 2023. アオキオチバタケ. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 特別展展示解説書 かながわご当地菌類ガイドブック, p. 28. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[学会発表等]

石浜佐栄子・加藤ゆき・大坪 奏・広谷浩子, 2023 (June 4). 幼児と親に豊かな博物館体験を提供するための試み～来館者アンケートによる企画展の事前評価を通して見えてきたもの～. 日本ミュージアム・マネジメント学会第 28 回大会, 乃村工芸社ビル.

3.4. レファレンス対応人数

2023 年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス対応人数・マスコミに掲載された件数

	研究者						研究者以外						レファレンス合計	同定標本数	マスコミ掲載数	マスコミ放送・放映
	メール	電話	手紙	来館	出張	小計	メール	電話	手紙	来館	出張	小計				
昆虫類	87	5	1	8	88	189	253	56	14	212	257	792	981	2,646	0	0
魚 類	253	5	0	26	9	293	642	28	2	73	1	746	1,039	6,676	0	8
両生・爬虫類	26	0	0	0	0	26	27	0	0	0	2	29	55	13	0	0
鳥 類	64	5	0	2	0	71	163	72	0	14	0	249	320	514	0	1
哺乳類	2	3	0	3	3	11	30	11	0	33	17	91	102	2,438	0	0
その他動物	37	1	7	1	38	84	65	95	0	19	19	198	282	79	0	3
植 物	7	0	0	0	0	7	81	58	8	7	2	156	163	89	1	2
菌 類	89	21	21	45	40	216	80	25	13	77	12	207	423	307	2	0
古生物	97	20	3	19	6	145	77	18	2	27	4	128	273	31	0	1
地 学	6	0	0	4	0	10	44	35	2	58	0	139	149	182	0	0
地球環境	7	1	0	2	0	10	10	6	0	4	2	22	32	6	0	0
合 計	675	61	32	110	184	1,062	1,472	404	41	524	316	2,757	3,819	12,981	3	15

マスコミ等の問い合わせ元（掲載未確認のものを含む）

	主な問い合わせ元(放送局・出版社等)	主な番組等
昆虫類	テレビ朝日/信濃毎日新聞	
魚 類	日本テレビ/テレビ朝日/NHK/NHK E テレ/TBS テレビ/テレビ静岡/フジテレビ/神奈川新聞/読売新聞/NHK BS プレミアム/読売新聞東京本社/NHK World-Japan/朝日新聞/宮崎日日新聞社/NHK BS4K/毎日新聞大阪本社	「超無敵クラス」/「相葉マナブ」/「ザ！鉄腕！DASH!!」/「日本百名山」/「ギョギョッとサカナ★スター」/「バナナマンのせっかくグルメ!!」/「潜れ！さかなクン」/「ザ！世界仰天ニュース」/「高校生クイズ」/「ハワイ暮らし 優しい時間」/「Live News イット!」/「林修の今知りたいでしょ!」/「めざまし8」/「釣りびと万歳」/「くりいむクイズミラクル9」/「Science View」/「小さな旅」/「人生変える！一攫千金船」/「ワールド極限ミステリー」/「沼にハマってきいてみた」/「満天☆青空レストラン」/「奇跡体験！アンビリバボー」/「ワイルドライフ」
両生・爬虫類	NHK	「ワイルドライフ」
鳥 類	NHK	「ダーウィンが来た!」
哺乳類	NHK	「ダーウィンが来た!」
その他動物	日本テレビ/NHK/読売新聞社/NHK 大分放送局	「クイズ！あなたは小学5年生より賢いの?」/「ダーウィンが来た!」/「超無敵クラス」/「釣りびと万歳」/「ぶんどき」
植 物	読売新聞/FM ヨコハマ/読売テレビ	「遠くへ行きたい」
菌 類	神戸新聞/読売新聞/共同通信社/t v k (テレビ神奈川)/テレビ朝日	
古生物	NHK	
地 学	ジャパンタイムズ	
地球環境		

3.5. 各種委員・役員・非常勤講師

委員・役員については、「役職名（必要に応じ機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「学校名、科目名」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

平田大二

[委員・役員]

全国科学博物館協議会 理事（～5月）

神奈川県博物館協議会 理事（～5月）

横須賀市文化財専門審議会委員

小田原市文化財保護委員会委員

玉川学園 SSH 運営指導委員

東京地学協会地学雑誌編集委員

日本地質学会ジオパーク支援委員会委員

日本地質学会地学オリンピック支援委員会委員

日本地質学会生涯教育委員会委員

地質の日事業推進委員会委員

田中徳久

[委員・役員]

全国科学博物館協議会 理事（6月～）

神奈川県博物館協議会 理事（6月～）

植生学会編集委員（植生学会）

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

神奈川県植物誌調査会運営委員

横浜植物会運営委員
大和市文化財保護審議会委員
茅ヶ崎市環境審議会委員
大磯町環境審議会委員
大磯町文化財専門委員
箱根町文化財保護委員
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「科学の世界 地域の自然史」
桜美林大学非常勤講師（前期・集中）「野外安全管理」
桜美林大学非常勤講師（後期）「自然環境調査法」

佐藤武宏

[委員・役員]
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
川崎市社会教育委員会議青少年科学館専門部会委員（川崎市）
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「科学の世界 地域の自然史」
日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期）「博物館概論」
[査読]
神奈川自然誌資料

加藤ゆき

[委員・役員]
神奈川県鳥類目録編集委員会委員（日本野鳥の会神奈川支部）
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
周南市ツル保護協議会委員（山口県周南市）
相模原市環境影響評価審査会委員（神奈川県相模原市）
[査読]
神奈川自然誌資料

苅部治紀

[委員・役員]
日本トンボ学会会長
日本トンボ学会編集委員会委員長
日本トンボ学会自然保護委員長
日本甲虫学会自然保護委員
小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会委員
環境省令和5年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会昆虫分科会検討委員
環境省希少野生生物推進員
環境省小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議委員
環境省グリーンアノール対策ワーキンググループ 委員
林野庁小笠原諸島森林生態系保護地域修復計画業務検討委員会委員
東京都聳島列島植生回復調査検討委員会委員
東京都父島列島外来樹木対策検討委員会委員
東京都北進線改修事業に関わる専門家委員会・行文線未整備区間の整備に係る専門家会議委員
[査読]
Trombo（日本トンボ学会）
Aeschna（トンボ研究会）

渡辺恭平

[委員・役員]
日本昆虫学会英文誌編集専門委員

日本昆虫学会日本昆虫目録編集委員
日本昆虫学会将来問題検討委員
神奈川昆虫談話会幹事
膜翅目研究会幹事
地球規模生物多様性情報機構日本ノード運営委員会作業部会委員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
[査読]
神奈川自然誌資料
Deutsche Entomologische Zeitschrift

松本涼子

[委員・役員]
白山市手取層群化石調査団団員
白山市恐竜パーク運営委員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
日本古生物学会「化石」編集委員
[査読]
神奈川自然誌資料

鈴木 聡

[委員・役員]
日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会委員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
厚木市野生鳥獣対策協議会委員
自然史学会連合博物館部会委員
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「地域の自然史」
[査読]
神奈川自然誌資料
Mammal Study

西村双葉

[委員・役員]
神奈川県博物館協会 総合防災計画推進委員会副委員長
神奈川県博物館協会 機能研究部会幹事
[査読]
Thalassas: An International Journal of Marine Sciences
神奈川自然誌資料

瀬能 宏

[委員・役員]
日本魚類学会 会長（～9月）（日本魚類学会）
日本魚類学会 評議員（9月～）（日本魚類学会）
日本魚類学会自然保護委員会希少海産魚問題検討部会委員（日本魚類学会）
日本魚類学会標準和名検討委員会 委員長（日本魚類学会）
日本魚類学会 自然史学会連合への学会代表者（日本魚類学会）
日本動物分類学会標準和名問題検討ワーキンググループ 委員（日本動物分類学会）
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
環境省希少野生動植物種保存推進員（環境省）
環境省絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 海水魚類分科会 委員（環境省）

日本生物地理学会評議員（日本生物地理学会）
千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会
委員（千葉県環境生活部スポーツ・文化局）
[査読]
神奈川自然誌資料（1）
水生動物（1）

大西 亘

[委員・役員]
日本植物分類学会植物データベース専門委員会委員長
種生物学会幹事（関東地区）
デジタルアーカイブ学会評議員
デジタルアーカイブ学会誌編集委員
莎草研究編集委員
ニッチェ・ライフ編集委員
神奈川県植物誌調査会運営委員
神奈川県博物館協会幹事
小田原市郷土文化館協議会委員

折原貴道

[委員・役員]
日本地下生菌研究会 会長
日本地下生菌研究会 事務局
日本地下生菌研究会 Truffology 編集委員
日本地下生菌研究会 総会・シンポジウム担当
一般社団法人日本菌学会 理事（庶務）
一般社団法人日本菌学会 Mycoscience 編集委員
神奈川県博物館協会 自然科学部会幹事
神奈川県博物館協会 協会報編集委員
生命の星・地球博物館 入生田菌類誌調査グループ 代表
第26回日本進化学会神奈川大会 実行委員
[査読]
Mycoscience（一般社団法人日本菌学会）
Journal of Fungi (MDPI)
神奈川自然誌資料

石田祐子

[委員・役員]
神奈川県植物誌調査会運営委員
長野県植物誌改訂委員
[査読]
神奈川県立博物館研究報告
植生学会誌

大島光春

[委員・役員]
茅ヶ崎市博物館協議会委員
日本展示学会理事
[非常勤講師]
帝京科学大学 博物館経営論 後期（分担）

樽 創

[委員・役員]
日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会（日本哺乳類学会）
神奈川地学会幹事

あきる野市文化財保護審議会委員（あきる野市教育委員会）
[非常勤講師]
東京農業大学非常勤講師（前期）「地学」

田口公則

[委員・役員]
日本地質学会生涯教育委員
日本共生科学会理事
日本共生科学会編集委員
愛川町資料館運営協議会構成員
神奈川地学会幹事
[査読]
非公表（1編）

山下浩之

[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
史跡江戸城石垣石丁場跡調査整備委員会専門委員（熱海市教育委員会）
小田原市郷土文化館協議会委員（小田原市教育委員会）
一般社団法人日本地質学会関東支部地区代議員
一般社団法人日本地質学会ジオパーク支援委員
[非常勤講師]
玉川大学農学部非常勤講師（後期）「地学」
玉川大学農学部非常勤講師（後期）「地学実験」

新井田秀一

[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「地域の自然史」
日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期集中）「博物館展示論」

石浜佐栄子

[委員・役員]
東京地学協会専門家紹介委員会委員
東京地学協会アドバイザー委員
全科協ニュース編集委員会委員

西澤文勝

[委員・役員]
日本第四紀学会行事委員会委員
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
神奈川地学会幹事
[非常勤講師]
公立大学法人東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域非常勤講師（後期）「都市環境科学特別講義 4」
東京都立大学都市環境科学研究科地形・地質学研究室客員研究員

大坪 奏

[委員・役員]
一般社団法人日本菌学会日本分類学会連合連絡委員

3.6. 講師依頼等

当博物館学芸員等への講師依頼件数を、依頼元と実施場所（館内・館外）の区分で一覧表に示した。

行政機関・各種団体からの依頼については、実施日順にその内容を示した。（延べ件数集計のため、複数日にわたるものはそれぞれの実施日を計上している。独立行政法人は行政機関に含め集計した。）

なお、学校（小・中・高・大・養護等および教員研修）からの依頼については、「5.2. 学校教育への対応」（55～56 ページ）「5.3. 博物館実習」（56～57 ページ）に記載した。

講師依頼元の内訳

		小学校	中学校	高校	大学(短・院含む)	教員研修	行政機関	各種団体	合計
館内	件数	4	2	3	11	1	1	6	28
	人数	58	193	80	297	38	9	130	805
館外	件数	2	2	0	2	3	23	14	46
件数合計		6	4	3	13	4	24	20	74

行政機関・各種団体の依頼（館内実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数
4/8(土)	企画展「超普通種展」の概要説明	足柄上郡大井町教育委員会生涯学習課おい自然園	渡辺恭平	9
5/10(水)	小田原ガイド協会ガイド養成講座ジオパークⅠ	特定非営利活動法人小田原ガイド協会	山下浩之	
7/28(金)	ガイダンス（見どころ案内）及び展示見学	特定非営利活動法人地学オリンピック日本委員会	大島光春	7
9/2(土)	応用理学部会 2023 年度見学会・講演会	公益社団法人日本技術士会応用理学部会	山下浩之	27
9/23(土)	展示見学	神奈川理科サークル	田口公則	
11/3(金)	特別展「かながわご当地菌類展」の紹介	樹木医（17 期）見学研修会	大坪 奏	23
2/25(日)	令和 5 年度第 4 回魚の会講演会「未知の魚を求めて一私の採集遍歴」	魚の会	瀬能 宏	73

行政機関・各種団体の依頼（館外実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所	人数
4/1(土)	「真鶴半島の植物」	真鶴観光ボランティアガイドの会	大西 亘	真鶴町立遠藤貝類博物館及び真鶴自然公園	
4/2(日)	アンモナイトレプリカづくり体験、講話	イオンモール株式会社イオンモールむさし村山	大島光春	イオンモールむさし村山	
4/11(火)	謎に包まれた「小田原城の石垣」	特定非営利活動法人小田原ガイド協会	山下浩之	小田原城内	64
4/18(火)					
4/16(日)	山野草管理に関する研修	県立三ツ池公園(指定管理者 神奈川公園協会・石勝エクステリア・サカタのタネ GS グループ)	大西 亘	県立三ツ池公園内	
5/16(火)	地学で調べる横浜の海岸線	神奈川県保険医協会	新井田秀一	神奈川県保険医協会	
5/17(水)	小田原ガイド協会ガイド養成講座ジオパークⅡ	特定非営利活動法人小田原ガイド協会	山下浩之		
5/23(火)	すわのほら昆虫きょうしつ きれいな虫がし	県立おだわら諏訪の原公園(指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ)	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園	20
6/18(日)	「初夏のキノコ観察」	県立 21 世紀の森	折原貴道	県立 21 世紀の森	30
6/25(日)	始動！おだわらデジタルミュージアム	小田原市郷土文化館	瀬能 宏 大西 亘	小田原市生涯学習センター けやき	
7/9(日)	箱根火山はどのようにできたのか	シニアネットワークおだわら&あしがら	山下浩之	おだわら市民交流センター UMECO	
7/22(土)	神奈川県の植物—神奈川県植物誌からわかること—	自然環境保全センター	田中徳久	自然環境保全センター	
7/28(金)	小田原駅東口図書館開催講座「石ころから小田原の大地を調べよう」	小田原市立小田原駅東口図書館	山下浩之 石浜佐栄子 西澤文勝	小田原駅東口図書館	10
8/11(金)	箱根虫塾	一般社団法人自然公園財団箱根支部	渡辺恭平	箱根ビジターセンターほか	20
8/12(土)	箱根虫塾	一般社団法人自然公園財団箱根支部	渡辺恭平	箱根ビジターセンターほか	20
8/27(日)	夜の昆虫かんさつ会	県立おだわら諏訪の原公園(指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ)	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園	30
9/10(日)	おい自然園『酒匂川の岩石観察会』	大井町教育委員会	山下浩之	酒匂川周辺	中止
9/17(日)	地層剥き取り標本が伝える大地の記憶—神奈川県西部の大地・火山の成り立ち：平成 29 年度特別展より—	静岡県富士山世界遺産センター	石浜佐栄子	静岡県富士山世界遺産センター	30
9/17(日)	身近な野生動物のひみつ	秦野市立堀川公民館	鈴木 聡	秦野市立堀川公民館	中止
9/23(土)	関東大震災の伝承碑をめぐる—根府川地区の山津波—植物誌をつくろう！～三度の全県版植物誌の過程と展望～	小田原市郷土文化館	山下浩之	JR 根府川駅周辺	24
9/24(日)		富山県中央植物園	大西 亘	富山県中央植物園	
9/24(日)	川の生き物観察会	生活クラブ生協 コモンズ足柄	瀬能 宏	開成町吉田島	20
9/30(土)	すわのほらバツタ観察会	県立おだわら諏訪の原公園(指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ)	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園	20
10/7(土)	「松田町の成り立ちを知ろう～変動する神奈川県西部の大地～」	松田町教育委員会	西澤文勝	松田町生涯学習センター	42
10/7(土)	「秋のキノコ観察」	県立 21 世紀の森	折原貴道	県立 21 世紀の森	11
10/10(火)	ヒトの体にみる 5 億年の物語	令和 5 年度新潟県高等学校教育研究会 理科（地学）教育研究会	大島光春	新潟県立新潟向陽高等学校	20
10/13(金)	小田原市郷土文化館協議会	小田原市教育委員会	山下浩之	小田原三の丸ホール	
10/31(火)	はだのエコスクール	秦野市環境共生課	鈴木 聡	秦野市立南小学校	
11/1(水)	はだのエコスクール	秦野市環境共生課	鈴木 聡	秦野市立堀川小学校	
11/3(金)	第 20 回夢見遊山いたばし見聞楽	板橋秋の交流会実行委員会	大西 亘	松永記念館	
11/12(日)	令和 5 年度こども館ワークショップ事業「化石レプリカ作り」	藤沢市湘南台文化センターこども館	大島光春	藤沢市湘南台文化センターこども館	

(次ページに続く)

(前ページから続く)

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所	人数
12/9(土)	「昭和10年の秦野・神奈川を絵図で知る」	秦野市立堀川公民館	新井田秀一	秦野市立堀川公民館	
12/17(日)	横浜植物会12月例会「2023年の植物界の話」	横浜植物会	田中徳久	横浜市こども植物園	
2/4(日)	冬のいきものさがし〜冬に虫はどこにいるのかな〜	県立おだわら諏訪の原公園(指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ)	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園	中止
2/17(土)	境川遊水地「貝化石掘り体験」	神奈川県公園協会・サカタのタネグリーンサービスグループ	田口公則	県立境川遊水地公園情報センター及び下飯田遊水地内	
2/23(金)	花菜ガーデン サポーター交流会「神奈川県植物研究と牧野富太郎」	花菜ガーデン	田中徳久	花菜ガーデン	
2/25(日)	「湯河原の石材を探る」	箱根ジオパーク推進協議会	山下浩之 田口公則	湯河原町防災コミュニティセンター	100
3/2(土)	「諸磯の隆起海岸」露頭の清掃活動の指導及び露頭の説明解説	神奈川地学会	田口公則	三浦市三崎町諸磯 天然記念物「諸磯の隆起海岸」	

3.7. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会・講演会等について記載した。なお、「他団体・機関との連携行事」に記載がある一般に公開した講演会は52ページに詳細を記載のため省略した。

実施団体	実施日	開催内容	講師等	実施場所等
神奈川県植物誌調査会	4/8(土)	総会・講演会	田中徳久・大西 亘・石田祐子	県立生命の星・地球博物館(40名)
魚の会	5/21(日)	総会	瀬能 宏	県立生命の星・地球博物館(21名)
自然史イメージング研究会	7/6(木)	研究会	OMDS 株式会社ほか	県立生命の星・地球博物館(10名)
神奈川昆虫談話会	8/27(日)	例会	—	県立生命の星・地球博物館(43名)
神奈川昆虫談話会	12/3(日)	総会・例会	荏部治紀・渡辺恭平	県立生命の星・地球博物館(44名)
神奈川昆虫談話会	3/31(日)	例会	—	県立生命の星・地球博物館(41名)

3.8. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、協力先、期間、内容、担当者等を記載した。(開催日初日順)

協力先団体名	実施日	協力内容等	担当者	実施場所等
箱根ジオパーク推進協議会幹事会	5月10日(水) 2024年3月22日(金)	幹事会への出席	植村良彦 山下浩之 西澤文勝	オンライン
	2024年1月16日(火)		山下浩之 西澤文勝	おだわら市民交流センター「UMECO」
箱根ジオパーク推進協議会	5月30日(火)	総会への出席	平田大二 植村良彦 山下浩之	小田原市生涯学習センターけやきホール
	12月14日(木)	サイト保全方針作成会議への出席	大西 亘 西澤文勝	県立生命の星・地球博物館
	2024年3月19日(火)		西澤文勝	箱根町役場
藤沢市漁業協同組合・藤沢市農水産課	10月27日(金)	チョウセンハマグリ生息調査	佐藤武宏	藤沢市
静岡県立日本平動物園	12月15日(金)～	アジアゾウの交連骨格標本(展示制作)	樽 創	静岡県立日本平動物園
神奈川県立図書館	12月16日(土)～ 2024年5月8日(水)	企画展示「こんな本、見たことある？」の展示解説	松本涼子	神奈川県立図書館
静岡県立日本平動物園	2024年1月15日(月)～	アジアゾウの骨格3Dデータ(展示制作)	樽 創	静岡県立日本平動物園
平塚市漁業協同組合・平塚市農水産課	2024年3月11日(月)	浅海生物生息調査	佐藤武宏	平塚市

3.9. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。2023年度は外来研究員18名を受け入れた。なお、今年度の研究成果に関しては、以下に掲載する。

日本産ジョウカイボン科昆虫の分類学的研究

〔研究担当者〕高橋和弘

〔研究内容〕

現地調査を以下の通り実施した。県外の博物館等における標本調査については、12月1日に愛媛大学博物館の標本調査を実施した。なお、論文については、本年度の調査結果に加えて過去の調査によって得られた資料を中心に作成し、以下のとおり投稿し、

受理された。

現地調査(いずれも令和4年)

5月10～20日 四国・九州方面

ヒメクビボソジョウカイ属 *Asiopodabrus* およびクビボソジョウカイ属 *Hatchiana* を中心に、四国及び九州での調査を実施した。残念ながら新種と思われる個体は得られなかったが、従来、稀種と考えられていたマエダクビボソジョウカイの多産地を発見

するなどいくつかの成果が得られた。

6月5～6日 岐阜県

岐阜県のクビボソジョウカイについては、以前に地元の桐山氏との共著でまとめているが (Takahashi & Kiriya, 2000)、その際に材料が少ないため積み残しとなった課題の種について追加サンプルを得るため調査を実施した。その結果、後で述べる志賀高原の調査の結果を合わせて、1種新種を記載することができた。

6月20日 群馬県～長野県

群馬県白根山周辺並びに、長野県の志賀高原で調査を実施した。前述のとおり、岐阜県のサンプルと合わせて1種新種を記載することができた。

6月26日～29日

北海道の道東を中心に調査を実施した。主な目的は、根室半島で採集された不明種のジョウカイボンで、かなり綿密な調査を行ったが、残念ながら追加のサンプルを得ることはできなかった。

【発表論文】

Takahashi, K., 2023. A new species of the genus *Asiopodabrus* Wittmer, 1982 (Coleoptera, Cantharidae) from central Honshu, Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 29(2): 345-346.

高橋和弘・日下部良康, 2023. ムネミゾクロチビジョウカイがモミの枯枝から脱出. さやばねニュースリーズ, (50): 40.

日本産ハバチ類の分布および幼虫期に関する研究 (II)

[研究担当者] 加藤優羽

[研究内容]

自然環境の変化に伴う、ハバチ類相への影響を評価するための基礎的な資料の構築を目的として、日本産ハバチ類の分布および幼虫期の解明に取り組んだ。今年度は主に野外調査と、昨年度の活動により得られた分布や生態に関する知見の報告を行った。野外調査は主に関東地方を中心に行い、成虫および幼虫の生体を収集し、これを持ち帰り飼育を行うことで、生態的な知見の収集を行った。今年度得られた知見については、成果の発表には至らなかったものの、昨年度までに得られた知見の一部は、2編の共著論文にまとめて報告した。これらの内容は以下の通りである。

1. ツノハシバミを寄主とする、ハシバミヒラタハバチ *Pamphilius benesi* の幼生期および生活史に関する報告を行った。本種はこれまで、寄主を中心とする断片的な生態情報のみしか知られておらず、産卵様式や、幼生期の記載は行われていなかった。今回、山梨県内で産卵中の成虫の採集に成功し、この飼育結果に基づき、成虫の産卵様式、卵から最終摂食齢幼虫までの記載を行った。

2. 奄美大島および沖縄本島に分布するリュウキュウ

ウルリハバチ *Abeleses metallicus* を、台湾、中国南東部およびベトナムから知られていた

Formosempria varipes のシノニムとした。これにより、本種は日本国内にも分布することが明らかとなった。加えて、沖縄本島で得られた本種の生態的な知見は、国外で知られている本種の生態的特徴とも概ね一致した。

【発表論文】

1. Shinohara, A. & Y. Kato 2023. Immature Stages and Life History of a Hazel Leaf-rolling Sawfly, *Pamphilius benesi* (Hymenoptera, Pamphiliidae). Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A., 49: 155-159.

2. Shinohara, A., M. Kimura, T. Ide, H. Hara & Y. Kato 2023. *Abeleses metallicus* Okutani (Hymenoptera: Tenthredinidae), a new synonym of *Formosempria varipes* Takeuchi, feeding on *Paederia foetida* L. (Rubiaceae) in the Ryukyus, Japan. Japanese Journal of Systematic entomology, 29: 57-61.

神奈川県産クモ類の調査と標本収集

[研究担当者] 水山栄子

[研究内容]

今年度は以下の内容で調査研究を行った。

神奈川県産クモの調査及び標本の採集

横浜市緑区新治

2023年度は6回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

神奈川県以外でのクモの採集

1. 長野県長野市戸隠

2023年度は2回の採集を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

2. 福島県南会津郡檜枝岐村

2023年度は1回の採集を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

標本の整理

神奈川県産クモ類のコレクション構築に向けて、採集標本の同定を行い、当館に1358点の標本を登録標本として収蔵、約100点を登録準備中

その他

教育普及活動の補助

小笠原諸島におけるヒメカタゾウムシ類の生態について

[研究担当者] 加賀玲子

[研究内容]

本研究の目的：近年、全国的に記録的な干ばつと大雨を繰り返すような過激な気候変動が生き物に与える影響が顕著になってきた。小笠原では、さらにグリーンアノール、そしてリクヒモムシなど、外来種の影響により、ヒメカタゾウムシ類は、生態も、その存在も明らかにされぬまま、絶滅する個体群が出てきた。現在の生息状況の把握と、生態を調査・

記録することにより、保全に向けての基礎的なデータとすることを目指す。

本年度の結果：本年度は6月と12月に現地調査の機会を得た。ここ数年、小笠原は冬から春先にかけて多雨の状態が続き、このことは外来種リクヒモムシの生息拡大にはプラスに働いてしまった可能性がある。特に土壌性のツチヒメカタゾウムシへの影響は大きく、かつての生息地でも今回は全く確認できなくなっている地点があることが判明した。

今後の課題：限られた調査の機会を最大限に活かし、残っている個体群の生息・生態調査を行う。現地NPOの研究で、飼育下では、人工容器を用いてヒメカタゾウムシ類は累代できる可能性が出てきた。しかし、自然界での産卵場所、恐らく土中で過ごすと思われる幼虫の生態、蛹化する場所については未解明なままである。また、土壌性のツチヒメカタゾウムシが、よりリクヒモムシの影響を受けているように見えるのはなぜなのか、そのことを明らかにするためにも生態、生活史を解明すること、併せて他の昆虫類、生態系そのものに対してのリクヒモムシの影響調査が急がれる。

野外で採集されたアカハライモリの死体の記録

[研究担当者] 丸野内淳介

[研究内容]

広島県東広島市において死体の状態で採集されたアカハライモリ標本には、背部の表皮に数本の線状の傷が、体軸と並行しない状態（または線状の傷の延長が背中線と直角ないし斜めに交わる状態）で確認された。この傷を、捕食者として想定される嘴の内部に突起を持つ水鳥、オオバンとカルガモの嘴内部に当てた紙粘土型と比較した。

紙粘土型の示す突起は、オオバンが鎖線状であるのに対し、カルガモは櫛の歯状であった。オオバンよりカルガモの型がアカハライモリの傷に近似すると見受けられた。

カルガモ嘴の突起の1cmあたりの本数は、上顎は7本、下顎は15本であった。アカハライモリ標本の背部表皮の1cmあたりの傷の本数は、1個体あたり4～6カ所で測定できた、4個体で4～9本の範囲であり、個体の示す平均値は5～6本とあり、カルガモ上顎の1cmあたりの7本である突起本数と近い値となった。

よって、これらのアカハライモリの捕食者はカルガモまたはカルガモに類似した嘴を持つカモ類と想定される。

日本産魚類の幼魚の形態および色彩的特徴の研究

[研究担当者] 和田英敏

[研究内容]

日本産魚類はこれまでに4,700種以上が知られているが、その多くは成長の初期段階である幼魚とより成長の進んだ若魚あるいは成魚の間で形態や色彩

的特徴が大きく異なることが知られている。その中には各成長段階の関連性が十分にわかっていない種も多く含まれており、特に幼魚期の情報不足は魚類相調査などの種多様性を評価する取組をおこなう際に大きな障害となっている。

本研究では日本産魚類の種多様性評価に必要な情報基盤を整理することを目的に、神奈川県立生命の星・地球博物館に収蔵されている資料を中心に調査し、特定のタクソンの各成長ステージにおける特徴をまとめた。

その結果、日本産ヒレナガカサゴ科の2種であるヒレナガカサゴ *Neosebastes entaxis* Jordan & Starks, 1904 およびオガサワラカサゴ *N. multisquamis* Motomura, 2004 において、幼魚期から成魚期にいたるまでの形態および色彩的特徴が整理され、両種の有効な識別的特徴が整理された。この結果は日本魚類学会年会においてポスター発表をおこなった（1）。

ベラ科の1種である *Pseudocoris ocellata* Chen & Shao 1995 については、本研究で同定した幼魚期から成魚期にいたるまでの写真資料から日本における分布・出現情報を網羅的に整理し、本種が相模湾において再生産している可能性が高いことが明らかとなったことを報告にまとめた2)。またこの報告において本種に対して新標準和名“ヒトミベラ”を提唱した。

この他にも6編の主著・共著論文において本研究における日本海産魚類の幼魚の同定結果が利用されている。

【発表論文】

1) 和田英敏・瀬能 宏・手良村知功・小枝圭太・本村浩之. 日本と台湾の黒潮流域から得られた標本と写真に基づくオガサワラカサゴの標徴および分布記録の再検討. 日本魚類学会 2023 年度年会（長崎大学文教キャンパス・長崎市）、ポスター発表番号 96、2023 年 9 月 2-3 日。

2) 和田英敏・瀬能 宏・高瀬 歩・柳田満彦・鈴木美智代・横田雅臣. 2024. 伊豆半島東岸から得られたベラ科魚類 *Pseudocoris ocellata* ヒトミベラ

（新称）の標本に基づく日本初記録および本種の日本における生息状況. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 42: 38-45.

神奈川県における希少哺乳類の生息状況

[研究担当者] 山口喜盛

[研究内容]

令和4年度に引き続き、神奈川県内において生息状況がよくわかっていないコウモリ類の調査を実施した。調査は三浦半島、丹沢山地、陣馬山地などで行った。

三浦半島においては、主に昼間のねぐらである人工構造物で調査を行い。ユビナガコウモリ、モモジロコウモリ、アブラコウモリの生息を確認した。三浦半島におけるモモジロコウモリとユビナガコウモ

りの記録は約 50 年ぶりであった（詳細は神奈川自然誌資料第 45 号）。丹沢山地では宮ヶ瀬湖周辺の隧道や洞穴において実施した。新たな種は確認できなかったが継続してコキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ、モモジロコウモリを確認した（詳細は神奈川自然誌資料第 45 号）。宮ヶ瀬湖周辺は安定した生息地と思われる。陣馬山地では昼間のねぐら調査を実施し、コテングコウモリを確認した。

令和 5 年度で実施できなかった丹沢山地の高所（標高 1000m 以上）のコウモリ生息調査は令和 6 年度で行う予定。また、大磯丘陵や渋沢丘陵、県北部の丘陵など、低地でも洞窟内調査や森林内において捕獲調査を実施したい。

神奈川県産および北関東産不完全菌類の分類学的研究

[研究担当者] 杉本 泉

[研究内容]

本研究では、神奈川県内および北関東の不完全菌類（有性世代が判明・あるいは判明していない無性世代の菌類の総称）の調査を続けることで、菌類相の一部を調べることを目的としている。

本年度は小田原市入生田で 8 回、川崎市内で 2 回、横浜市内で 5 回、他県で 5 回の菌類調査をおこなった。採集標本は観察記録のみで培養は行わなかった。

不完全菌類の採集・観察点数は 176 点、形態観察により 48 点が属あるいは種まで同定でき、重複を除くと 40 点であった。

このうち生命の星・地球博物館に収蔵した標本は、*Alternaria* sp., *Blistum tomentosum*, *Dematiellicoma perelegans*, *Dendroclathra* sp., *Illosporiosis christiansenii*, *Menispora* sp., *Piricaudilium* sp., *Podosporium* sp., *Spondylocyadiopsis cupulicola* の 9 標本にとどまった。

未記載植物寄生菌 *Exobasidium* の同定

[研究担当者] 長尾英幸

[研究内容]

本年度は 5 種の *Exobasidium* 属菌（もち病菌）及び 1 種の類縁菌 (*Microstroma album*) の採集と同定を行った。1. サツキもち病菌 *E. japonicum* を 5 月 4 日に神奈川県立地球博物館植え込みで採集した。本菌は花器に寄生し花弁、雄蕊、子房、顎片に肥大を起こした。徒手切片による病態解剖を行い、肥大部分の観察を行った。2. バイカツツジ平もち病菌 *Exobasidium* sp. を 5 月 20 日に岐阜県中津川市及び 5 月 27 日に東京都奥多摩町で採集した。2021 年に東大日光植物園で本菌を採集したが、沢田 (1950) の菌類標本は岩手県、京都府及び台湾で採集したもので、中部地方の標本はなかった。本菌は *E. butleri* として誤同定されているため、これらの標本に基づき新種記載を準備中である。3. コバノミツバツツジに発生したミツバツツジ類平もち病菌を

同じく 5 月 20 日に岐阜県中津川市で採集した。菌株保存機関への寄託及び本博物館への標本寄贈を行った。本菌はバイカツツジ平もち病菌の研究にも病徴の比較のため利用した。4. ミズナラてんぐ巢病菌 *M. album* を 5 月 28 日に静岡県御殿場市竈坂峠で採集した。本菌は既知であるがわが国では培養菌株の登録がない。5. サラサドウダンもち病菌

Exobasidium sp. を同じく 5 月 28 日に静岡県御殿場市竈坂峠で採集した。本菌は秋本 (1999) が北海道で初めて報告したが未同定種のままである。長尾が 2021 年に長野県筑波大学演習林で採集した。6. カンザブrouノキもち病菌 *E. sakataniense* を 10 月 18 日に宮城県日南市北郷町及び宮崎市で採集した。本菌は培養株の保存と DNA 情報の登録が今まで行われていなかった。

地衣類の共生系の再形成手法の改良

[研究担当者] 石原 峻

[研究内容]

本研究では、真菌類（地衣菌）と藻類（共生藻）からなる共生体である地衣類を用いて、地衣類の共生系を培養環境下で人工的に形成させる実験系（地衣体再形成手法）の改良や検証を行うことを目的としている。

これまでにゴンゲンゴケ *Hypotrachyna osseovalba* の地衣体から地衣組織培養物を作製して地衣菌と共生藻を脱共生化させ、これらを植え替えて分離培養物（実際には地衣菌と共生藻の分離は不完全で、一部菌藻共培養物の状態）とし、さらにこの分離培養物を糖無添加の Lilly-Barnett (LB) プレート培地に植え替え、明期 18 時間、暗期 6 時間の光条件下で 3 つの生育基物条件で培養し、地衣体再形成実験を開始した。

今年度も再形成培養物は 2 ヶ月以内に新しい LB プレート培地に植え替えて、約 30-60 日おきに実体顕微鏡下で観察を行った。生育基物条件が木片の場合は、白い菌糸が培養物の表面や周囲から旺盛に発生し、塊状になったものも見られた。UV 光照射により、幾つかの培養物ではごく一部が金色や薄黄色の蛍光を示したが、地衣体形成の指標としたリケキサントンによるものか判別できなかった。

しかし、途中でシャーレの殆どにコンタミが発生したため、今回の地衣体再形成実験を中止した。1 年半以上同じ再形成培養物を植え継いだが、明確な地衣体再形成は生じなかった。

分離培養物や再形成培養物、白い菌糸が全てゴンゲンゴケに由来するかどうか明らかにするため、これらの培養物やゴンゲンゴケ地衣体標本の DNA 抽出物の PCR および電気泳動を複数回行った。その結果、分離培養物の破碎懸濁液を 100 倍希釈して MY プレート培地に塗布して出現したコロニーのサンプルを除き、ほぼ全てのサンプルで同じ位置にバンドが見られた。基物が木片の再形成培養物のサンプル

の多くでは、特にバンドのシグナルが強かった。地衣体のサンプルではもう 1 本別のバンドも見られたが、これは地衣類の内生菌由来のものと考えられた。

来年度は、条件を変更して地衣体再形成実験を再開し、再形成培養物の遺伝子解析や電子顕微鏡観察などから培養物の中の状態についての知見を深め、地衣体再形成を誘導する条件の探索につなげたいと考えている。また、PCR 産物の DNA シーケンシングを行い、電気泳動で確認されたバンドの同一性をさらに正確に検証し、どのような菌類に由来しているのかを調べる予定である。

DNA の抽出を行った菌株は核 rDNA ITS 領域のシーケンスを行い、系統関係を検討中である。ITS 領域配列が得られた菌株については、ITS 配列を国際ヌクレオチド配列データベースへ登録し、菌株保存機関への寄託及び本博物館への標本寄贈を併せて行う予定である。これらの情報を含めた論文などを投稿準備中である。採集許可を頂いた関係機関に感謝申し上げる。

富士山南面における変形菌とトビムシの相互関係

[研究担当者] 矢野倫子

[研究内容]

2022 年に、変形菌とトビムシの相互関係を探ることを目的に富士山亜高山帯において変形菌アミホコリ科(*Cribrariaceae*)とケホコリ科(*Trichiaceae*)を採集した。実験室において子実体の中からツチトビムシ科(*Isotomidae*)を取り出し、個別に培養しながら糞の排泄と脱皮を待った。糞および脱皮殻を確認したら、作製した培養用のプレパラートプールに個別にいれ、7 日ごとに孢子からの発芽を観察した。2023 年は、実験観察結果について解析した。

【結果と考察】

トビムシの糞に含まれた孢子と脱皮殻に付着した孢子からの発芽、遊走子を確認した。糞からも脱皮殻からも遊走子を確認されたことから、変形菌は子実体近辺を訪問したトビムシに孢子を餌としてあたえ、トビムシは体内外で孢子を運んで孢子散布の役割を果たしていることが示唆された。したがって、トビムシは被食散布(endozoochory)と付着散布(epizoochory)の両方で、変形菌の孢子を運搬し、相利共生関係にある可能性がある。

変形菌を訪れる動物の研究は、甲虫やハエ類などで報告されていたが、トビムシの報告は初めてである。本研究の結果は自然界における微生物と微小節足動物との共生関係を観察し、例証したことに意義がある。今後は変形菌とトビムシの種レベルについて、さらなるつながりを探るため、環境を変えたデータを広く収集していく必要がある。

本研究の成果については、2023 年 6 月 10-11 日、日本土壤動物学会大会第 45 回大会(つくば大学山岳科学センター菅平高原実験所)において、「森林の枯死木に発生する変形菌とトビムシの相互関係」

という演題でシンポジウム講演を行った。

丹沢山地の中新統の石灰岩より産出する化石群集

[研究担当者] 門田真人

[研究内容]

「2023 ぼうさいこくたい神奈川」主催内閣府・会場横浜国大(9 月 17-18 日)に神奈川地学会サイトの展示「丹沢の谷にサンゴの化石」、講演「南の海から来た丹沢山地」を担当してフィリピン海プレートの動きと大地震発生の関係について資料を提供した。

NHKBS 制作「ジオジャパン絶景 100 の旅」丹沢山地編(30 分間番組)の資料提供、ロケ地探し、実写撮影に協力と出演をした。(3 月 5 日放送済)厚木市森の里中学校、厚木市青少年健全育成会、厚木飯山、秦野市自然観察指導員育成講座、県立秦野・西丹沢ビジターセンター地学教室、中井町子供会震生湖の自然観察会において講師を務め野外活動を実施した。

個人としては「さがみのランドマーク」大山 1252 m の端正な姿を構成している地層を調査のため 20 回入山した。調査は 2024 年度も継続中である。

門田採集の標本(岩石、化石、現生)類を整理し博物館・研究機関(県立生命の星・地球博物館、静岡県立ふじの国地球環境史ミュージアム、伊豆半島ジオパークビジターセンター)に寄贈を進めている。

瀬戸内海周辺のサヌキトイドの蛍光 X 線分析値から見た判別群

[研究担当者] 高橋 豊

[研究内容]

瀬戸内火山帯に産する、12~14 Ma に噴出したサヌキトイドについて、全岩化学分析から、その多様性を判別分けし、共通の特徴、特異性を見出すことを目的に研究を継続している。

令和 5 年度は、中央構造線に沿って採集したサヌキトイドについて全岩化学分析を行うための前処理を行った。主な作業は、博物館内において、岩石の切断、粗割、洗浄、細粉であった。博物館ボランティアの協力も得て、計約 500 点の処理が完了した。令和 6 年度は、ガラスビードを作成し、蛍光 X 線による全岩化学分析を実施し、地域ごとのサヌキトイドの地球科学的性質を見出していきたい。

南足柄市檜尾地域檜尾火砕流堆積物の岩石学的記載(2) —溶結凝灰岩中の緑色普通角閃石の屈折率—

[研究担当者] 中村俊文

[研究内容]

今年度の調査地は、南足柄市檜尾地区檜尾の沢、標高 480~540m 付近である。昨年度は、標高 480~490m 付近に見られる足柄層群中の火砕岩である檜尾火砕流堆積物(中村, 1989, Imanaga, 1989)につい

て報告した(中村, 2023)。その中で檜尾火砕流と足柄層群との層序関係、火砕流堆積物中の非溶結部・溶結部の岩石・鉱物等の特徴を記すと共に、非溶結部の軽石中の緑色普通角閃石の屈折率($n_2=1.674-1.683$)、及び、非溶結部と溶結部中の軽石の全岩化学組成を報告した。その際の疑問点は、火砕流堆積物中に含まれる異質岩片の種類、及び軽石中の含有鉱物は、ほぼ同一で溶結の仕方も非溶結部から溶結部に漸移的に変化しているように野外では見えるが、全岩化学組成値が大きく異なった点である。

そこで、今年度は、更に詳しく野外調査を行う共に、溶結部中の緑色普通角閃石の屈折率測定を行い、非溶結部と比較した。野外調査では、標高 480m 付近にフィアメが見られる強溶結部(最大幅 50~120cm)が、そこから沢の上方向かい弱溶結部(最大幅 150cm)、さらに標高 487m 付近まで非溶結部が連続して露出し、異質岩片の岩質。長軸の方向もほぼ同じで、同一の火砕流堆積物であると考え。

さらに溶結凝灰岩の軽石中の緑色普通角閃石の屈折率測定では $n_2=1.674-1.681$ で、この数値は非溶結部の軽石中の緑色普通角閃石の屈折率とほぼ同じであった。これらの結果から、強溶結部、溶結部、非溶結部の堆積物は、同一の火砕流堆積物であると考え。檜尾火砕流の堆積後、高温・高圧の環境下で溶結作用が進む中、軽石の全岩化学組成が変化したものと考えられる。なお、その際、緑色普通角閃石への影響はほとんどなかったと考える。

今後、調査地域を山北町方面に広げ、檜尾火砕流の給源火口発見につなげたい。研究にあたり、神奈川県立生命の星・地球博物館、及び(株)蒜山地質年代学研究所に、軽石の XRF 分析による全岩化学組成分析、及び同研究所に緑色普通角閃石の屈折率測定をお願いした。

日本列島におけるフレアアップ

[研究担当者] 中島 隆

[研究内容]

地質時代における火成活動の大規模なものは、最近世界的にフレアアップという用語で語られることが多くなっている。それらは多くの地域で火山深成岩帯として観察されるが、現在の地表ではその地点における火山深成活動の歴史的な累積結果を観察することになり、地表地質の露出状況や年代学的分解能の限界から個々の火山深成複合体を判別するのが難しいことも多い。しかし近年ジルコン U-Pb 年代測定の技術がめざましく進歩し、その地質学的分解能が大幅に向上したことにより、フレアアップの実態がある程度描述できるようになってきた。

日本列島では大きく白亜紀から古第三紀と中期中新世の 2 回のフレアアップが認められる。西南日本では白亜紀後半の深成変成帯である領家帯、火山深成帯の山陽帯、さらに古第三紀にまたがる山陰帯の活動域が前弧側から背弧側に帯状分布している。一

方中期中新世のフレアアップはいわゆる外帯酸性岩であり、これも西南日本外帯の全域にわたって断続的に分布している。東北日本では白亜紀前半の火山深成帯である北上帯と白亜紀後半の深成変成帯である阿武隈帯が知られているが、両者の分布域は重なっておらず違う地質区に属しているとされている。

これらの中で、露出規模はさほど大きくないが顕著な特徴を示すのが中期中新世の外帯フレアアップである。これらはバソリスやストック、シルなど浅所貫入型の花崗岩・花崗班岩と、それに密接に伴う酸性火山岩類が同時一連の産物であることが地質学的にも年代学的にも確認されている。その活動は列島全域にわたって 13.5-15.5Ma という極めて限られた期間に起こり、終了している。

日本列島のフレアアップのうちで最も規模が大きいのが西南日本の領家-山陽帯に見られる白亜紀後半の活動と思われ、新しい U-Pb 年代測定結果も続々と公表されているが、その年代値は岩体ごと、地域ごとにまちまちで、全体としては 70-100Ma の範囲に広がっている。ただそれらの中で、中部地方では花崗岩類の年代が 70-75Ma と 90-95Ma の 2 つの時期に集約されると報告され (Takatsuka *et al.*, 2018)、同時性岩脈中のジルコンに記録された 94Ma と 71Ma の成長年代 (中島ほか, 2021) によって支持された。この領家-山陽帯フレアアップで最大の火山岩として知られる中部地方の濃飛流紋岩と中国地方の高田流紋岩の噴出年代は、U-Pb 年代測定によりそれぞれ 70-72Ma (濃飛) と 91-96Ma (高田) と、従来考えられていたより遥かに短期集中型の活動であることが近年明らかになり、濃飛流紋岩は上述の中部地方における領家-山陽帯花崗岩の 70-75Ma マグマ活動と、高田流紋岩は近隣の山陽帯花崗岩から報告された 93Ma の年代とほぼ一致することが注目された。これらはそれぞれ火山岩と深成岩を一連に形成したフレアアップのパルスであった可能性が高いと思われる。

東北日本の北上帯では、花崗岩類は概ね浅所貫入型であるが火山岩類の露出域が比較的少なく花崗岩類との地質学的関係がわかる所が少ないこと、火山岩類の U-Pb 年代データがまだ乏しいことから、花崗岩類と火山岩類の同時性・同源性については十分検討されていない。阿武隈帯は火山岩の露出がなく変成岩を伴う深成変成帯の産状を示す地質体である。花崗岩類の U-Pb 年代は報告されている限りでは 95-115Ma で、隣接区である北上帯の花崗岩類 110-125Ma より有意に若く、阿武隈帯が北上帯の深部相であるとは考えられない。さらに、東北日本と西南日本の地質帯の対比関係についてはまだ十分な議論に至っておらず、両者の連続性についてはまだほとんど白紙の状態と言ってよい。

ムササビの神奈川県内における分布

[研究担当者] 青木雄司

[研究内容]

神奈川県内のムササビ分布については、2006 年発行の神奈川県自然誌資料に「神奈川県におけるムササビの分布」として青木らによって報告された。それから 15 年以上経過したが、分布に変化がおきているのかを明らかにすることを本調査の目的としている。

今年度の調査については、以下の通り実施した。

- ・県西地域を中心として調査を行った（落ちていた糞の確認）。このことにより県内全域の調査が一通り終了した。
- ・分布の最前線と考えられる場所は、個体密度が低く糞を確認することが難しいため、林内の樹木に逆さにした傘をくくりつけ落ちてくる糞を受け止めるようにした。
- ・採集した糞を乾燥させ、標本として整理した。

神奈川県産タニギキョウの種内変異の研究

[研究担当者] 支倉千賀子

[研究内容]

神奈川県のタニギキョウ *Peracarpa carnos* (Wall.) Hook. f. et Thomson は主として箱根山地と丹沢山地のブナ帯に分布するが、相模原市と藤沢市の相模原台地、横浜市保土ヶ谷区の下末吉台地、三浦半島には常緑広葉樹林帯にごく小さい個体群が隔離的に点在する。このうち横浜市の下末吉台地の解析谷と三浦半島で採られた標本を基準標本として花の大きなタイリタニギキョウ *Peracarpa carnos* (Wallich) Hooker f. et Thomson form. *macrantha* Nakai ex Hara in J. Jap. Bot. 21:20 (1957) が記載された。

本研究では国際藻類・菌類・植物命名規約（深圳規約）2018 に従って、次の記載時に引用されたタイプとそれ以外のオリジナルマテリアルの探索を行った。

その結果、東京大学植物標本室 TI（東京大学理学部附属植物園 小石川植物園）で次のタイプ標本 2 枚とオリジナルマテリアル 2 枚を確認できた。

ホロタイプ：横浜，May 8 1932. T. Nakai (TI00080682).

パラタイプ：相模三浦郡双子の谷，28 Apr. 1929.

榎山泰一 no. 266 (TI0008683).

オリジナルマテリアル：相州，葉山，長柄，竹藪 30

Apr. 1928. 原 寛 no. 387.

相模都築郡川島村 12 May 1912. S. Tamaki & S. Hayakawa.

『神奈川県植物誌 2018』の執筆の際には、タイリタニギキョウは県内の各標本庫が収蔵する標本の花の大きさだけではタイリタニギキョウを認識できないとしたが、タイプ標本では明らかに東北地方で見られるタニギキョウよりも全体が大きかった。

米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名－学名インデックス」(YList), <http://ylist.info> (2024 年 4 月 5 日) ではタイリタニギキョウは

Peracarpa carnos (Wall.) Hook. f. et Thomson var. *pumila* H. Hara (和名：ツクシタニギキョウ) と同じものとしており、今後はさらに県内産の各部の詳細な形態比較によりタニギキョウとツクシタニギキョウ、タイリタニギキョウの 3 変種の分布の状況を明らかにする必要がある。

タカハシショウジョウバエの越冬北限及び無効分散動態の解明 II

[研究担当者] 新井健太

[研究内容]

タカハシショウジョウバエ (*Drosophila takahashii*) の分布は急速に北上しており、2016 年には神奈川県で採集されている（新井，小沼，澤村，2020 年 日本進化学会第 22 回オンライン大会）。この北上の原因として温暖化や遺伝・生態的变化など、様々な要因が想像される。そこで本研究では、タカハシショウジョウバエの越冬北限地域の割り出しと、分布の季節変化の調査を行う。

関東地方から東海地方にかけて、2022 年にサンプリングを行った。林内の樹木の枝にバナナベイトを用いたトラップを設置し、そこに誘引された個体を採集した。採集した *Drosophila* 属昆虫の個体数と種構成を、外部形態に基づいて集計した。タカハシショウジョウバエは外見だけでは近縁種との区別が困難であるため、一頭ずつ解剖し、雄交尾器の特徴に基づいて種同定を行った。形態観察には Nikon E2 型顕微鏡および Nikon SM-5 型実体顕微鏡を用いた。

ここでは神奈川県小田原市における雄個体データを、春季（4 月）と夏季（8 月）について集計が完了した範囲で報告する。小田原市沿岸部は関東でも比較的温暖な土地であり、タカハシショウジョウバエの越冬・定着の議論をするにあたって参考になる地点である。春季ではオオショウジョウバエが最も多く 26.3%、タカハシショウジョウバエは 0%、タカハシショウジョウバエの近縁種であるキハダショウジョウバエは 9.0%であった。夏季ではムナスジショウジョウバエが最も多く 32.2%、タカハシショウジョウバエは 6.1%、キハダショウジョウバエは 2.2%であった。夏季はタカハシショウジョウバエとキハダショウジョウバエが同所的に採集された。

以上から、タカハシショウジョウバエの関東集団は夏季には確認されるが、ショウジョウバエが活動を始める春季には十分な個体数が存在していないようだ。越冬地点とその環境条件については、今後サンプル数を充実させ慎重に議論したい。サンプリングにあたり通行を許可いただいた旭丘高等学校に感謝申し上げる。

3.10. 名誉館員

神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員称号授与要綱に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として20年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員等を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名（認定年月日）」を以下に掲載する。

館長

濱田隆士（2000年4月1日）（2011年逝去）
青木淳一（2006年4月1日）（2022年逝去）

斎藤靖二（2023年4月1日）
平田大二（2023年6月1日）

学芸員

高橋秀男（2000年4月1日）（2019年逝去）
村岡健作（2000年4月1日）
生出智哉（2000年4月1日）（2021年逝去）
松島義章（2002年4月1日）（2021年逝去）
中村一恵（2004年4月1日）（2015年逝去）
今永 勇（2005年4月1日）
奥野花代子（2009年4月1日）

山口佳秀（2012年4月1日）
高桑正敏（2012年4月1日）（2016年逝去）
新井一政（2013年4月1日）
笠間友博（2019年4月1日）
勝山輝男（2019年4月1日）
広谷浩子（2022年4月1日）

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2024 年 3 月 31 日現在の収蔵資料の登録実績は下表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料実績に関しては、当館ウェブサイト年報第 29 号Ⅲ 資料 3. 統計資料に掲載した。この登録件数は、資料番号を

付したものを計数したもので、同一の資料番号に枝番を付したものは、加えて計数していない。また、登録点数は、枝番を付したものの個別に計数した数である。

標本収蔵資料の登録実績

分野	2022 年度までの登録件数	2023 年度の登録件数	登録件数の合計	2022 年度までの登録点数	2023 年度の登録点数	登録点数の合計
【資料】〈標本〉						
維管束植物	350,537	3,791	354,328	354,333	3,917	358,250
植物群落	264	0	264	264	0	264
コケ	9,519	0	9,519	9,519	0	9,519
菌類・変形菌類	31,708	1,102	32,810	31,708	1,102	32,810
藻類	4,575	0	4,575	4,575	0	4,575
植物その他	1,728	0	1,728	1,730	0	1,730
魚類	73,935	3,717	77,652	136,315	3,950	140,265
哺乳類	6,516	55	6,571	6,620	60	6,680
鳥類	3,290	23	3,313	3,299	23	3,322
両生類	1,537	0	1,537	1,537	0	1,537
爬虫類	967	0	967	967	0	967
軟体動物	37,626	788	38,414	37,626	788	38,414
甲殻類	21,429	631	22,060	21,429	631	22,060
動物その他	121	91	212	121	91	212
昆虫	83,730	7,407	91,137	83,730	7,407	91,137
クモ	1,358	0	1,358	1,358	0	1,358
化石	20,997	3,082	24,079	23,965	4,073	28,038
岩石・火山灰・隕石・砂	16,550	502	17,052	16,962	502	17,464
鉱物	40,482	0	40,482	40,517	0	40,517
地質・ボーリング	10	1	11	10	1	11
はぎ取り	75	0	75	111	0	111
地学その他	26	1	27	26	1	27
衛星画像	1,110	0	1,110	1,110	0	1,110
地図類画像	—	78	78	—	78	78
小計	708,090	21,269	729,359	777,832	22,624	800,456
【資料】〈アーカイブズ〉						
維管束植物画像	1,290	59	1,349	1,298	59	1,357
魚類写真	226,971	11,895	238,866	298,418	17,625	316,043
哺乳類写真	398	1	399	1,080	5	1,085
鳥類写真	1,164	1	1,165	1,647	2	1,649
両生類写真	627	0	627	1,110	0	1,110
爬虫類写真	170	1	171	520	2	522
昆虫写真	2,222	0	2,222	2,225	0	2,225
クモ写真	1	0	1	1	0	1
衛星処理画像	164	9	173	164	9	173
景観画像	3,161	12,699	15,860	3,161	12,699	15,860
博物館活動	58,352	1,193	59,545	58,354	1,193	59,547
菌類細密画	498	0	498	679	0	679
甲殻類細密画	575	0	575	575	0	575
小計	295,593	25,858	321,451	369,232	31,594	400,826
合計	1,003,683	47,127	1,050,810	1,147,064	54,218	1,201,282

4.1.2. 購入資料

購入、収集委託、模型・複製品の製作、資料の修復・修理など、資料収集委員会の審議を経て執行したものを記載した。

〔昆虫〕 合計 300 点

世界の昆虫の展翅・展脚 300 点

〔魚類〕 合計 16 点

世界の淡水魚類 16 点

〔爬虫類〕 合計 2 点

アカウミガメ（交連骨格） 1 点

ジャクソンカメレオン（交連骨格） 1 点

〔鳥類〕 合計 5 点

タンチョウ（本剥製） 1 点

ツミ（本剥製） 1 点

キムネオオハシ（本剥製） 1 点

ヒクイナ（本剥製） 1 点

カササギ（本剥製） 1 点

〔哺乳類〕 合計 1 点

マッコウクジラの頭骨 1 点

〔古生物〕 合計 2 点

西富岡・向畑遺跡の樹木化石（ケヤキ） 1 点

始祖鳥全身骨格復元模型 1 点

〔衛星画像〕 合計 3 点

M7010 秋田沖（D7010S-2） 1 点

M7009 北海道西部（D7009S-2） 1 点

M7015 北海道北部（D7015S-2） 1 点

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2023 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 件数[寄贈者(敬称略)]」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する資料名、合計

件数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には記載していない。登録件数は、標本 13,368 件、アーカイブズ 11,307 件である。

〔維管束植物〕 合計 3,619 件

〔菌類・変形菌類〕 合計 998 件

ツチダンゴ属の一種 2 件

カラサケキツネノサカズキ 1 件

ダンアミタケほか 58 件

ツチグリツブタケほか 2 件

クチキノサカズキタケ 1 件

アセタケ属の一種 1 件

アミタケ 1 件

スジウチワタケモドキほか 31 件

コガネキクバナイグチほか 3 件

キツネノヤリタケ 1 件

アネモネタマチャワンタケ 1 件

マツカサキノコモドキ 1 件

ナラタケほか 2 件

アワタケ属の一種 1 件

オオミノコフキタケほか 4 件

ハナビラタケほか 2 件

ダイディモボトリウム属の一種ほか 7 件

カワリニセチャワンタケ 1 件

ヤブレベニタケ類似種ほか 2 件

チギレハツタケほか 4 件

ワタカラカサタケ類似種 1 件

ダイダイサラゴケほか 4 件

オオショウロほか 6 件

ホコリタケ属の一種 1 件

スギ黒点枝枯病菌ほか 13 件

コガネショウロタケ 1 件

トガリベニヤマタケほか 5 件

ミヤマタマゴタケ 1 件

ミヤマイタチタケ 1 件

チャツムタケ属の一種ほか 8 件

ミドリニガイグチ類似種 1 件

アケビさび病菌 1 件

サクラシメジ 1 件

ツチスギタケほか 4 件

ウツロイモタケ（吉見） 1 件

キハダさび病菌 1 件

ダイダイサカズキタケほか 4 件

チャヌメリカラカサタケほか 8 件

モミジウロコタケ 1 件

イッポンシメジ属の一種 1 件

キツネノワシ 1 件

エツキニセショウロ 1 件

ケガワタケ 1 件

キヒダタケ属の一種 1 件

ジャンボクロニセトマヤタケ（井上仮称） 1 件

ホシミノタマタケ属パルカイ亜属の一種 1 件

ダイダイサラゴケほか 2 件

チチショウロ 1 件

チチショウロ類似種 1 件

ゼニゴケツブチャワンタケ 1 件

ノボリリュウタケ属の一種 1 件

シラウオタケほか 2 件

クロラッパタケ 1 件

ザボンタケ 1件
 コガネホウキタケ 1件
 チチショウロ類似種ほか 3件
 テンガイキツネノサカズキ 1件
 チャツムタケ属の一種ほか 7件
 ナヨタケ属の一種 1件
 ムジナタケ 1件
 ヤブニッケイ黒穂病菌 1件
 ホコリタケほか 2件
 マイタケほか 3件
 コフキサルノコシカケ（広義）ほか 6件
 イモタケ 1件
 キツネノサカズキ 1件
 アラゲタチゴケチャワಂತケ 1件
 ホウライタケ属の一種ほか 2件
 ニンギョウタケモドキほか 2件
 ハナゴケ科の一種ほか 2件
 ヒビワレシロハツ 1件
 オオミヤマトンビマイ 1件
 ススキ類さび病菌ほか 98件
 ヤマジノカレバタケ 1件
 ササクレヒトヨタケ 1件
 ベニタケ属の一種ほか 2件
 カキノミタケ 1件
 コフキクロチャワಂತケ 1件
 ゴンゲンタケ 1件
 オオイチョウタケ 1件
 イイギリさび病菌 1件
 ボタンボウフウさび病菌ほか 2件
 ブナシメジ 1件
 オトヒメアンズタケ 1件
 ケフクロツチガキ 1件
 アケボノタケ 1件
 ハツタケほか 4件
 ベニシダのさび病菌ほか 3件
 アオゾメクロツブタケ 1件
 ヤミイロクヌギタケ 1件
 ミイロアマタケほか 6件
 スジチャダイゴケほか 15件
 ニガクリタケ類似種 1件
 コガネショウロタケ 1件
 ニガイグチ属の一種ほか 2件
 キツブナラタケほか 2件
 チャノキもち病ほか 11件
 ツクツクボウシタケほか 2件
 ホンセイヨウショウロ 1件
 ターバンゴケほか 45件
 ドウシントケ類似種 1件
 アクイロウスタケ 1件
 フタイロベニタケ 1件
 ケコガサタケ属の一種ほか 2件
 ハイイロオニタケ 1件
 チャツムタケ属の一種ほか 8件
 コガネカワラタケほか 2件
 チチショウロほか 7件
 ツヤウチワタケモドキほか 8件
 ナガミノツルタケほか 13件
 スカシムラサキホコリほか 476件
 カエンオチバタケ 1件

ヤナギマツタケ 1件
 ヤナギマツタケほか 4件
 ハツタケ 1件
 ヒメレンゲゴケほか 2件
 ウツロイモタケ 1件
 イッポンシメジ属の一種（シクエストレート菌） 1件
 ステファノスポラ属の一種 1件
 キツネノサカズキ 1件
Neottiella ricciae (P. Crouan & H. Crouan) Korf & W. Y. Zhuang 1件
Lamprospora dicranellae Benkert ほか 3件
Incrucipulum radiatum (Issh. Tanaka & Hosoya) Sasagawa & Hosoya ほか 8件
Illosporiosis sp. 1件
Blistum tomentosum (Schrad.) B. Sutton 1件

【魚類】 合計 3,406 件

ヒョウモンドジョウ 4件 [一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究所]
 コクチバス 1件 [浦野貴士]
 テンス 1件 [益田 一 (益田海洋プロダクション)]
 ヒメアカトビ 3件 [横岡博之 (いであ株式会社)]
 キチジほか 5件 [下光利明]
 セトミノカサゴほか 48件 [加藤 晃]
 ダイダイイソミミズハゼほか 13件 [河 裕賢]
 アマミハナダイ 1件 [河本篤哉]
 ソコクロダラ属未同定種ほか 16件 [海洋研究開発機構]
 クエ 1件 [笠間友博]
 トゲチョウチョウウオ 1件 [吉田栄二郎]
 テンジクダイ 3件 [石川哲郎 (宮城県水産技術総合センター)]
 ナガメイチほか 4件 [橋本 浩 (東京都島しょ農林水産総合センター 八丈事務所)]
 イトマンオオキンギョ 1件 [饗場空璃]
 ナンヨウアゴナシほか 2件 [江藤幹夫]
 ガンテンイシヨウジほか 194件 [荒尾一樹]
 ドジョウ (中国系統) ほか 2件 [高橋由季]
 バケヌメリ 2件 [佐々木廣海]
 フサギンボほか 11件 [坂本幸博]
 ギチペラほか 116件 [桜井 雄]
 ハタハタほか 124件 [三井翔太]
 センハダカほか 2件 [三浦寛子]
 ヒトミハゼほか 6件 [山下龍之丞]
 ダイナンウミヘビほか 11件 [山川宇宙]
 タカサゴヒメジほか 26件 [山田和彦]
 クロシギウナギ 1件 [若松樹弥 (大瀬館マリンサービス)]
 ソコカナガシラほか 120件 [手良村知功]
 ヒシコバン 4件 [緒方悠輝也]
 ミナミメダカ (東日本型) 7件 [小島伊陽]
 オニボウズギス属未同定種 1件 [小島純一]
 トラフグほか 7件 [小林健二]
 バラハナダイほか 5件 [小路川卓征]
 カエルアンコウほか 2件 [植地舜二郎]
 トガリエビス 1件 [森 爽太]
 オカメハゼほか 4件 [神奈川県水産技術センター内水面試験場]
 ニゲミズチンアナゴほか 2件 [須田大翔]
 キンブナ 1件 [水流拓馬 (袖ヶ浦市郷土博物館)]

タイワンアイノコイワシほか 86 件 [西川志朗]
 イトハリゴチ 1 件 [西野 敬]
 イチハラヒロウドザメ 1 件 [西野勇馬]
 ミナミメダカ(東日本型) 9 件 [川合英利]
 センハダカほか 121 件 [前田達郎]
 ボウズコンニャクほか 4 件 [草野洋佑(小田原市漁業
 協同組合)]
 セスジタカサゴイシモチほか 1,714 件 [村瀬敦宣]
 ギンブナほか 5 件 [大井慈陽]
 ゼブラウツボほか 11 件 [大森尚也]
 ダイナンギンポほか 71 件 [中島田正希]
 ハマフエフキほか 3 件 [投野隼斗]
 ヒメハゼ属の1種ほか 8 件 [棟方航平]
 キツネダイほか 99 件 [棟方航平・加藤 晃]
 クロムツほか 4 件 [藤原昌高]
 ミゾレウツボ 2 件 [藤田温真(新江ノ島水族館)]
 マダラロリカリア 9 件 [藤本治彦]
 タメトモハゼほか 64 件 [日本魚類学会自然保護委員会]
 アカタマガシラ 1 件 [如月 迅]
 セレベスヒレアナゴほか 10 件 [畑田一成]
 シボリ属未同定種 1 件 [八木拓郎]
 アライソハタ 1 件 [飯沼雄司]
 ボウズハゼ 1 件 [飯島俊幸]
 モツゴ 6 件 [尾山大知]
 セトミノカサゴほか 5 件 [尾川泰将]
 ハマフエフキほか 2 件 [武田浩輔]
 イチモンジタナゴ 7 件 [北村淳一]
 キュウセンほか 81 件 [本田康介]
 ダイダイイソミズハゼほか 96 件 [末松知宙]
 ボウズハゼほか 16 件 [木村喜芳]
 トラフグほか 3 件 [野村智之]
 マメマトウダイほか 15 件 [藍澤正宏]
 ヒメジほか 3 件 [和田英敏]
 コバンザメほか 2 件 [實吉星哉]
 ソコアマダイほか 147 件 [簗宮 敦(神奈川県水産技術
 センター相模湾試験所)]
 シナイモツゴほか 8 件 [高橋亜門]
 ソメワケベラ属未同定種ほか 14 件 [高瀬 歩]
 ヒトミベラ 1 件 [高瀬 歩・柳田満彦]
 チブルネッタイフサカサゴほか 16 件 [西川志朗・棟方
 航平・和田英敏・手良村知功・前田達郎]
 スミツキハタ 1 件 [長坂忠之助]
 スミツキハタ 1 件 [貞家遼平]
 スミツキハタ 1 件 [来間太郎]
 キンギョほか 2 件 [浦野貴士]

[哺乳類] 合計 37 件

ニホンアナグマ 1 件
 ニホンジカほか 2 件
 グレビーシマウマほか 1 件
 イヌ 1 件
 ニホンイタチ 1 件
 ニホンテン 1 件
 ニホンジネズミ 1 件
 アムールハリネズミ 1 件
 シベリアイタチ 1 件
 ニホンザルほか 3 件
 ツキノワグマ 1 件
 タヌキ 6 件

ハクビシンほか 13 件
 アライグマ 2 件
 ゴマフアザラシほか 2 件

[鳥類] 合計 18 件

シロムネオオハシ 1 件
 オジロワシ 1 件
 タンチョウ 1 件
 ツミほか 12 件
 カササギ 1 件
 ヒクイナ 1 件
 シメ 1 件

[軟体動物] 合計 788 件

Norrisia norrisii (G. B. Sowerby I, 1838) 2 件
 クロサンショウガイモドキ 4 件
 アシヤガイ 1 件
 ナミヒメムシロ 386 件
 ヘソアキアシヤエビス 5 件
 ヒラセギンエビス 7 件
Calliostoma 属の一種 2 件
Calliostoma 属の一種 2 件
 ヘソアキエビス 4 件
Calliostoma 属の一種 2 件
 ハリエビス 3 件
 カゴサンショウガイモドキ 2 件
 トゲエビスほか 3 件
 マキアゲエビス 1 件
Calliostoma 属の一種 1 件
Dactylasterle poupineli (Montrouzier, 1875) 1 件
 コシダカエビス 1 件
 ハリエビス 1 件
 ハリエビス 2 件
 スジマキエビス 1 件
 ヘソアキエビス 1 件
 コガネエビスガイ 2 件
 ヘソアキエビスほか 4 件
Calliostoma 属の一種 8 件
 コシダカエビス 1 件
Tristichotrochus 属の一種 1 件
 ヘソアキエビス 1 件
 クロサンショウガイモドキほか 8 件
 ヨコヤマギンエビス 1 件
 ヘソアキトゲエビス 6 件
 ハヤマヒラコマ 14 件
 トサエビス 6 件
 ヒラセギンエビスほか 3 件
 ハリエビス 3 件
Solariella nuda Dall, 1896 6 件
Bathybembix bairdii (Dall, 1889) 1 件
 フトスジエビスほか 3 件
 クロサンショウガイモドキ 2 件
Lirularia parcipicta (Carpenter, 1864) 6 件
 スジマキエビスほか 12 件
 ベッコウザラほか 180 件
 ヒダシタダミほか 88 件

[甲殻類] 合計 628 件

ケブカアワツブガニ 48 件

レッサー・ブルー・クラブ 4件
Caridina laoagensis Blanco, 1939 2件
 コンジテンナガエビほか 206件
Caridina laoagensis Blanco, 1939 1件
 ナンヨウテナガエビ 1件
Caridina tupaia de Mazancourt, Marquet & Keith, 2019 34件
 ヨツハモガニ 14件
 ワタクズダマシほか 10件
 イボヒラアシカムリ 1件
 イボアシヤドカリ 4件
 シマイシガニほか 10件
 トリウミアカイソモドキほか 8件
 ミナミトラノオガニ 9件
 ヒラテテナガエビ 1件
 ミナミテナガエビほか 3件
 ヒラテテナガエビ 2件
 ニホンカムリほか 3件
 ヒラコウカムリほか 4件
 イバラガニモドキ 4件
 科・種未同定 1件
 キンセンガニ科・種未同定 1件
 キャリコ・クラブ（ドリー・バーデン・クラブ）ほか 21件
 ニホンカムリ 1件
 アケウスほか 17件
 ガザミ属イボガザミ亜属の一種 1件
 オウギガニ科・種未同定ほか 5件
 アカトゲカイカムリ 1件
 タマヒヅメガニほか 19件
 ザラテテナガエビほか 4件
 ミナミトラノオガニ 2件
 オオヒメアカイソガニほか 5件
 アサヒガニほか 2件
 カラッパモドキほか 34件
 テナガオオホモラ 1件
 トゲツノヤドカリほか 32件
 アメリカフジツボほか 112件

【動物その他】 合計 91 件

レインボーコーラル・海松・深海松と呼ばれる未記載種 1件
 ヒクラゲ 1件
 ナナテイスメ科・種未同定ほか 88件
 マロマユヒラムシ 1件

【昆虫】 合計 3,717 件

ツマキアオジョウカイモドキほか 2件
 ハゴイタヒメトビケラほか 8件
 ルリイトトンボ 311件
 ウスキツバメエダシヤクほか 6件
 タカオヒメハナノミほか 126件
 イネネクイハムシ 1件
 ベニイトトンボ 1件
 クレメンズナガレトビケラほか 2件
 スジクワガタ 1件
 ヨコジマナミシヤクほか 4件
 フトスジオエダシヤクほか 13件
 ツマキシロナミシヤク 2件

オオモノサシトンボ 1件
 マツイヒメトビケラ 1件
 スジクワガタ 1件
 コシロスジアオシヤク 1件
 チズモンアオシヤクほか 587件
 オオトビエダシヤク 1件
 アトヘリアオシヤクほか 9件
 フタトビスジナミシヤクほか 4件
 ナガマルガタゴミムシほか 9件
 アカボシゴマダラ 1件
 ヒロバトガリエダシヤクほか 4件
 コキマダラセセリほか 27件
 オオセスジイトトンボ 1件
 キブネクダトビケラほか 27件
 トウホクミヤマシマトビケラほか 46件
 ニッポンアツバエグリトビケラほか 27件
 タテスジアカヒメゾウムシほか 267件
 シロズシマトビケラほか 4件
 ニッポンウスバキトビケラほか 24件
 アメリカカクスイトビケラほか 949件
 キソイワトビケラほか 55件
Neophylax muinensis Kobayashi, 1977 1件
Neozephyrus japonicus japonicus (Murray, 1875) 1件
Agrypnia acristata Wiggins, 1998 1件
Hydropsyche ancorapunctata Tanida, 1986 2件
Lepidostomatidae sp.ほか 51件
Semblis phalaenoides (Linnaeus) 1件
Ironoquia punctatissima (Walker, 1852) 4件
Ancylopus pictus asiaticus Strohecker, 1972 1件
Nicrophorus quadripunctatus Kraatz, 1877ほか 5件
Himalopsyche japonica (Morton, 1900) 6件
Nemotaulius admorsus (McLachlan, 1866) 3件
Nothopsyche longicornis Nakahara, 1914 1件
Chloridolum japonicum Harold, 1879 1件
Asynarchus sachalinensis Martynov, 1914 1件
Lepidostoma japonicum (Tsuda, 1936) 2件
Limnephilus fuscovittatus Matsumura, 1904ほか 2件
Oligotricha hybridoides Wiggins & Kuwayama, 1971ほか 7件
Limnephilus orientalis Martynov, 1935 15件
Apatania stigmatella (Zetterstedt, 1840)ほか 139件
Nemotaulius admorsus (McLachlan, 1866) 2件
Nemotaulius miyakei (Nakahara, 1914) 1件
Lepidostoma cornigera (Ulmer, 1907)ほか 11件
Perissoneura paradoxa McLachlan, 1871 4件
Limnephilus correptus McLachlan, 1880 3件
Stenopsyche marmorata Navas, 1920 1件
Perissoneura paradoxa McLachlan, 1871ほか 2件
Semblis melaleuca (McLachlan, 1871) 1件
Oligotricha fluvipes (Matsumura, 1904)ほか 4件
Halesus sachalinensis Martynov, 1914ほか 106件
Epirrita autumnata autumnata (Bryk, 1942) 1件
Dolophilodes japonica (Banks, 1906)ほか 17件
Nothopsyche pallipes Banks, 1906ほか 2件
Macrostemum radiatum (McLachlan, 1872)ほか 9件
Asynarchus sachalinensis Martynov, 1914ほか 41件
Nothopsyche ruficollis (Ulmer, 1905) 2件
Limnephilus orientalis Martynov, 1935 7件
Limnephilus sericeus (Say, 1824)ほか 55件

Hydropsychidae sp. 1件
Pennithera comis (Butler, 1879)ほか 2件
Gandaritis fixseni (Bremer, 1864)ほか 2件
Goera tungusensis Martynov, 1909 26件
Limnephilus alienus Martynov, 1914ほか 45件
Heterothera postalbida (Wileman, 1911) 5件
Nothopsyche ruficollis (Ulmer, 1905) 1件
Piezodorus hybneri (Gmelin, 1790) 1件
Limnephilus diphyses McLachlan, 1880ほか 5件
Chloridolum japonicum Harold, 1879 1件
Hesperophylax incisus Banks, 1943 5件
Stenopsyche taiwanensis Weaver, 1987 5件
Lenarchus fuscostramineus Schmid, 1952 7件
Leptocerus moselyi (Martynov, 1935)ほか 12件
Limnephilus extricatus McLachlan, 1865ほか 9件
Apatania sachalinensis Martynov, 1914 1件
Plesiophthalmus laevicollis Harold, 1878 1件
Eubasilissa regina (McLachlan, 1871)ほか 96件
Phryganopsyche latipennis (Banks, 1906)ほか 5件
Nemotaulius admorsus (McLachlan, 1866) 4件
Nothopsyche ulmeri Schmid, 1952 14件
Hydatophylax festivus (Navas, 1920) 9件
Neophylax ussuriensis (Martynov, 1914)ほか 36件
Limnephilus sericeus (Say, 1824)ほか 10件
Plesiophthalmus laevicollis Harold, 1878 1件
Limnephilus diversus (Banks, 1903) 1件
Oxymacaria pryeri (Butler, 1879)ほか 9件
Trypoxylus dichotomus (Linnaeus, 1771) 1件
Leptoceridae sp. 1件
Limnephilus auricula Curtis, 1834ほか 8件
Dinarthrodes satoi Kobayashi, 1968 1件
Nothopsyche ulmeri Schmid, 1952 2件
Limnephilus fuscovittatus Matsumura, 1904ほか 4件
Leptocerus fluminalis Ito & Kuhara, 2009ほか 14件
Nemotaulius miyakei (Nakahara, 1914) 1件
Limnephilus orientalis Martynov, 1935ほか 6件
Sembris melaleuca (McLachlan, 1871) 1件
Ecclisocosmoecus spinosus Schmid, 1964 1件
Lepidostoma orientale (Tsuda, 1942)ほか 27件
Goera tungusensis Martynov, 1909ほか 87件
Sasakia charonda (Hewitson, [1863]) 1件
Halesus sachalinensis Martynov, 1914ほか 43件
Agrypnia ulmeri (Martynov, 1909) 1件
Limnephilus borealis (Zetterstedt, 1840)ほか 13件
Agrypnia obsoleta (Hagen, 1864) 2件
Eubasilissa regina (McLachlan, 1871)ほか 10件
Nothopsyche ulmeri Schmid, 1952 1件
Eubasilissa signata Wiggins, 1998 1件
Brachypsyche sibirica (Martynov, 1924) 2件
Limnephilus orientalis Martynov, 1935 5件
Hydatophylax festivus (Navas, 1920) 1件
Neophylax koizumii (Iwata, 1927) 1件
Massicus raddei (Blessig, 1872) 1件
Limnephilidae sp.ほか 5件
Ganonema uchidai Iwata, 1930ほか 6件
Limnephilus orientalis Martynov, 1935ほか 5件
Nothopsyche montivaga Nozaki, 1999 8件
Stenopsyche marmorata Navas, 1920 48件
Himalopsyche japonica (Morton, 1900) 2件

Nemotaulius miyakei (Nakahara, 1914) 1件
Ecnomidae sp.ほか 50件
Cheumatopsyche brevilineata (Iwata, 1927) 1件
Zonitoschema cothurnata (Marseul, 1873)ほか 4件
Limnephilus alienus Martynov, 1914 1件

〔化石〕 合計 2 件

アナバキディスクスの一種 1件
メガロラムナ・パラドクソドン 1件

〔岩石・火山灰・隕石・砂〕 合計 71 件

デイサイト (黒曜岩) ほか 2件
安山岩ほか 3件
デイサイト 1件
石川県河北郡内灘町字向栗崎の砂 1件
神奈川県茅ヶ崎市中海岸三丁目の砂 1件
千葉県館山市館山の砂 1件
神奈川県三浦郡葉山町一色の砂 1件
カンラン岩捕獲岩 1件
スコリアほか 26件
神奈川県平塚市袖ヶ浜の砂 1件
安山岩 1件
火山礫凝灰岩 (セラドン石) ほか 2件
神奈川県藤沢市片瀬海岸一丁目の砂 1件
石膏ほか 6件
安山岩ほか 23件

〔標本・地図類画像〕 合計 3 件

観光熱海案内図ほか 3件

〔維管束植物画像〕 合計 19 件

アキザキヤツシロラン 9件
シマテンナンショウ 3件
シモバシラ 3件
カゲロウラン 4件

〔魚類写真〕 合計 11,286 件

ヒトミベラ 1件 [参木正之]
ハリヨ 2件 [井藤大樹]
サザナミダイ 1件 [磯田一成]
ダイナンウミヘビ 1件 [一井雄太]
ヌエハゼ 5件 [園山貴之]
ヒトミベラ 1件 [横田雅臣]
シロヒレタビラ 2件 [横田将也]
ミツバヤツメほか 2件 [下光利明]
イズハナダイ属の1種9 1件 [加藤 晃]
ツボダイほか 3件 [加藤汰郎]
アマミハナダイ 1件 [河本篤哉]
トビハゼ 1件 [海上智央]
クエ 1件 [笠間友博]
ブナガヤボウズハゼ 1件 [釜井涼太]
フチドリタナバタウオほか 2件 [関 航志]
トクビレほか 3件 [関 遥斗]
トビウオ科未同定属未同定種 1件 [岩崎結芽]
ソコイトヨリほか 84件 [吉村圭司]
オオウナギ 1件 [久保田暁文]
カラスザメほか 3,134件 [宮本克己]
アカナマダ 1件 [熊谷翔太]
シマエソハゼほか 22件 [熊澤伸宏]

クロソイほか 2件 [栗原 巧]
ソメワケベラほか 51件 [栗木博司]
オキフエダイほか 2件 [古橋茉大]
タヌキベラほか 27件 [工藤孝浩]
オトメベラほか 18件 [江藤幹夫]
インコハゼほか 149件 [荒尾一樹]
ウラウチフエダイ 1件 [高橋靖雄]
アイゴ 1件 [佐藤卓司]
トゲボウズギス属未同定種 1件 [佐藤洋一]
タキベラほか 24件 [坂本幸博]
ホッケ 1件 [崎山直夫]
ハタハタほか 58件 [三井翔太]
オグロイワシほか 28件 [三木涼平]
スミツキハタ 1件 [山下龍之丞]
ヒトミベラ 2件 [山田守彦]
テングノタチ 1件 [山田和彦]
ダンドラダテハゼほか 32件 [山本 敏]
バラハイゴチほか 6件 [山崎裕太]
コイ 1件 [志戸岡利充]
オガサワラカサゴ 1件 [志村晃央]
タネカワハゼ 1件 [寺田雄祐]
カマストガリザメ 1件 [柴坂 綾]
ツマグロアオメエソほか 6件 [渋谷風雅]
ダツほか 144件 [緒方悠輝也]
ニッポンバラタナゴほか 2件 [諸澤崇裕]
タカノハダイほか 11件 [小原直人]
キタノアカヒレタビラほか 2件 [小山直人]
クダゴンベほか 2件 [小枝圭太]
マルタほか 2件 [小島伊陽]
クロコマハゼほか 3件 [小路川卓征]
ヨドコガタスジシマドジョウ 6件 [松沼瑞樹]
シノノメサカタザメ 1件 [松田勇成]
ソラスズメダイほか 352件 [松野清伯]
トガリエビス 1件 [森 爽太]
ヨコシマサワラ 1件 [神田耀人]

ホウセキハタモドキ 1件 [石川貴康]
テンジクダイ 1件 [石川哲郎]
オガサワラカサゴ 1件 [川原 晃]
ウルマカサゴほか 394件 [浅野 勤]
ダイナンウミヘビほか 97件 [前田達郎]
ダイナンギンボほか 177件 [村瀬敦宣]
オオクチヌメリ 1件 [大井慈陽]
アカメほか 2件 [大衛亮正]
ヤリタナゴ 1件 [谷口倫太郎]
ミナミアカヒレタビラほか 2件 [中谷憲保]
カサゴほか 9件 [中島田正希]
マゴチ 1件 [津守康成]
テングノタチ 1件 [渡邊貴子]
ヒブダイ 1件 [渡邊太郎]
ナンヨウツバメウオほか 5件 [棟方航平]
カナリー・モレイ 1件 [藤田温真]
ソメワケヘビギンボほか 3,695件 [内野啓道]
アカハナほか 2,384件 [内野美穂]
キタノアカヒレタビラ 1件 [萩原富司]
ヘリダラ 1件 [武田浩輔]
オニアオメエソ 1件 [堀口和重]
タイワンスズメダイほか 11件 [末松知宙]
ベガスズベニハゼほか 4件 [有馬啓人]
オガサワラカサゴほか 9件 [鈴木美智代]
タネカワハゼ 1件 [鈴木邦弘]
カンムリベラほか 250件 [和田英敏]
シノノメサカタザメ 1件 [實吉星哉]
ヒメシマガツオ 1件 [澤田浩二]
ツラナガソコカナガシラほか 10件 [眞田樹也]
モヨウフグ 1件 [簗島恭夫]
ズナガアカボウほか 8件 [高瀬 歩]

[爬虫類写真] 合計2件

シロマダラ 2件

4.1.4. 職員採集その他による資料（新たに登録されたもの）

標本収蔵資料の登録実績

分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数
維管束植物	172	魚類	312	甲殻類	3	鉱物	0
植物群落	0	哺乳類	15	動物その他	0	地質・ボーリング	1
コケ	0	鳥類	5	昆虫	3,690	はぎ取り	0
菌類・変形菌類	103	両生類	0	クモ	0	地学その他	1
藻類	0	爬虫類	0	化石	3,047	衛星画像	0
植物その他	0	軟体動物	0	岩石・火山灰・隕石・砂	431	地図類画像	75
合 計							7,855

アーカイブズ収蔵資料の登録実績

分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数
維管束植物画像	40	両生類写真	0	衛星処理画像	9	甲殻類細密画	0
魚類写真	1,114	爬虫類写真	0	景観画像	12,699		
哺乳類写真	5	昆虫写真	0	博物館活動	1,193		
鳥類写真	2	クモ写真	0	菌類細密画	0		
合 計							15,062

4.2. 図書資料収集状況

今年度受け入れした和書の冊数は、購入が7冊、寄贈が1,007冊、編入が2冊、管理換が0冊であった。
洋書については、購入が0冊、寄贈が72冊であった。受入図書の合計は1,088冊である。

2023年度受入図書(冊数)

	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	7	1,007	2	0	1,016
洋書	0	72	0	0	72
合計	7	1,079	2	0	1,088

2024年3月31日現在の所蔵資料総数

分 野	登録数	分 野	登録数
国内刊行図書	34,681 (冊)	寄贈国外雑誌	707 (タイトル)
国外刊行図書	4,991 (冊)	ビデオソフト	332 (巻)
購入国内雑誌	12 (タイトル)	CD-ROM	77 (タイトル)
購入国外雑誌	3 (タイトル)	マイクロフィルム	34 (リール)
寄贈国内雑誌	3,393 (タイトル)		
合 計		44,230	(点)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 研究目的の利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承

認を受けることで、博物館資料を閲覧、計測、撮影、掲載などに利用することが可能である。2023 年度について、研究目的の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

種別			利用	閲覧			撮影			解析			その他			合計				
				人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数		
動物	哺乳類	標本				7	1,144	1,144							7	1,144	1,144			
		画像																		
		属性							1	28	28				1	28	28			
		小計				7	1,144	1,144	1	28	28				8	1,172	1,172			
	鳥類	標本																		
		画像																		
		属性																		
		小計																		
	両生類 爬虫類	標本																		
		画像																		
		属性																		
		小計																		
	魚類	標本				5	106	173	80	12,206	15,771				85	12,312	15,944			
		画像							35	41,207	63,638	5	18	19	40	41,225	63,657			
		属性							11	3,373	4,034	1	1	1	12	3,374	4,035			
		小計				5	106	173	126	56,786	83,443	6	19	20	137	56,911	83,636			
	昆虫	標本							17	3,081	3,085				17	3,081	3,085			
		画像																		
		属性																		
		小計							17	3,081	3,085				17	3,081	3,085			
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本							15	268	494				15	268	494			
		画像																		
		属性																		
		小計							15	268	494				15	268	494			
植物		標本	65	65	65	3	12	15	1	10	10				69	87	90			
		画像																		
		属性	1	6	6										1	6	6			
		小計	66	71	71	3	12	15	1	10	10				70	93	96			
菌類		標本	1	2	4				3	14	21				4	16	25			
		画像																		
		属性																		
		小計	1	2	4				3	14	21				4	16	25			
古生物		標本				3	265	277	2	2	2				5	267	279			
		画像										2	3	3	2	3	3			
		属性																		
		小計				3	265	277	2	2	2	2	3	3	7	270	282			
地球環境		標本																		
		画像										1	1	1	1	1	1			
		属性																		
		小計										1	1	1	1	1	1			
景観画像		画像																		
		属性																		
		小計																		
博物館		画像																		
		属性																		
		小計																		
合計						67	73	75	18	1,527	1,609	165	60,189	87,083	9	23	24	259	61,812	88,791

利用について通常の閲覧利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、「その他」には、学術発表利用（学会等での発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。

標本：実物標本、レプリカ等；画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像；属性：標本情報

4.3.2. 研究目的以外の利用

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承認を受けることで、博物館資料を借用し、展

示、教材利用、掲載・放映などに利用することができる。2023 年度について、研究目的以外の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

種別 利用			展示			教材			掲載・放映			その他			合計		
			人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	3	6	6	10	71	125	4	12	12	1	1	1	18	90	144
		画像							1	1	1				1	1	1
		属性															
		小計	3	6	6	10	71	125	5	13	13	1	1	1	19	91	145
	鳥類	標本															
		画像							1	1	1				1	1	1
		属性															
		小計							1	1	1				1	1	1
	両生類 爬虫類	標本															
		画像															
		属性															
		小計															
	魚類	標本	1	2	2				2	3	3	1	3	3	4	8	8
		画像	7	62	64				31	296	299				38	358	363
		属性															
		小計	8	64	66				33	299	302	1	3	3	42	366	371
	昆虫	標本															
		画像															
		属性															
		小計															
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本															
		画像															
		属性															
		小計															
植物		標本															
		画像	2	35	35	1	2	2	2	3	3				5	40	40
		属性															
		小計	2	35	35	1	2	2	2	3	3				5	40	40
菌類		標本															
		画像	1	1	1										1	1	1
		属性															
		小計	1	1	1										1	1	1
古生物		標本	5	95	95	1	1	26	5	94	94	1	1	1	12	191	216
		画像							7	17	19				7	17	19
		属性															
		小計	5	95	95	1	1	26	12	111	113	1	1	1	19	208	235
地球環境		標本	18	84	133				6	23	23				24	107	156
		画像	8	17	17	3	9	9	19	44	46				30	70	72
		属性															
		小計	26	101	150	3	9	9	25	67	69				54	177	228
景観画像		画像						1	1	1				1	1	1	
		属性															
		小計							1	1	1				1	1	1
博物館		画像															
		属性															
		小計															
合計			45	302	353	15	83	162	79	495	502	3	5	5	142	885	1,022

標本：実物標本、レプリカ等；画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像；属性：標本情報

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

大収蔵庫の燻蒸

2023 年 6 月 12 日から 16 日まで、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガス（混合比、酸化エチレン 15%、テトラフルオロエタン 85%）による殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。なお、例年燻蒸期間中は休館措置が取られる。

燻蒸装置を使った燻蒸

標本製作室に設置されている燻蒸装置を使用し、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。鳥獣はく製や書籍などを対象とし 7 回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れ支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施された講演会等の行事について、次表に記した。

自然科学講演会（博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会）

講演名	実施日	実施場所	対象者	講師	講師所属	人数
特別展開連シンポジウム 「かながわから発信する菌類の魅力」	12/3(土)	オンライン	一般	出川洋介 山本好和 高橋春樹 折原貴道	筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所・准教授 秋田県立大学・名誉教授 アマチュア菌類分類学者 当館・学芸員	84
企画展開連講演会 「藪内正幸に魅せられて―生態画の世界へようこそ」	12/3(土)	SEISA ミュージアムシアター	一般	藪内竜太 神戸宇孝 秋山幸也	藪内正幸美術館・館長 鳥類画家 相模原市立博物館・学芸員	121
合計						205

他の団体・機関との連携行事

博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等

行事名	実施日	実施場所	対象者	講師	講師所属	人数
令和5年度第1回魚の会講演会 「謎多き“汎世界分布種”―シロカサゴから読み解くグローバルコンベアベルトによる輸送システム―」	5/21(日)	西側講義室	会員 一般	和田英敏	東京大学総合研究博物館・特任助教	34
令和5年度第2回魚の会講演会 「真鶴の自然教育と海の変化」	8/27(日)	西側講義室	会員 一般	栢沼勇魚	真鶴町立遠藤貝類博物館	22
ミニ企画展示連携講座 「地球博×県博 神奈川県西部の災害を知る」	8/31(日)	西側講義室	一般	武田周一郎 西澤文勝	神奈川県立歴史博物館・学芸員 当館・学芸員	16
神奈川地学会講演会 「長谷川善和先生、骨を語る」	11/12(日)	SEISA ミュージアムシアター	会員 一般	長谷川善和 真鍋 真 甲能直樹	横浜国立大学・名誉教授/群馬県立自然史博物館・名誉館長 国立科学博物館・副館長/群馬県立自然史博物館・特別館長 国立科学博物館・生命進化史研究グループ長	118
令和5年度第3回魚の会講演会 「ベリが持ち帰った魚の謎―ベリ艦隊と海洋生物」	11/19(日)	西側講義室	会員 一般	奥津弘高	郷土資料研究家	37
令和5年度第4回魚の会講演会 「未知の魚を求めて―私の採集遍歴」	2/25(日)	西側講義室	会員 一般	瀬能 宏	当館・学芸員	73
合計						300

博物館をとりまく諸機関との連携による講座等

行事名	実施日	実施場所	対象者	人数
神奈川県水源環境保全課主催イベント 「シュロバッタ作り」の体験教室	7/1(土) 7/2(日)	西側講義室	一般	232
神奈川県水源環境保全課主催イベント 「葉巻笛」の体験教室	7/15(土) 7/16(日)			370
箱根ジオパーク夏休み子どもジオ講座 「3D 火山 じっけん&工作教室～火山の成長や地形を立体的に感じよう～」	8/5(土)	東側講義室	主に小学生以下の子どもとその保護者	120
合計				722

5.1.2. 講座等

博物館が実施した講座を当日受付の講座と事前申し込みが必要な講座に分けて記載した。同名講座でも、募集・受付の異なるものは別講座とした。(神奈川県総合教育センターの研修として受講した人数を()内に記載した。)

当日受付の講座

今年度は実施しなかった。

事前申込が必要な講座

募集 43 講座のうち、実施は 38 講座、参加者延べ数 567 名。

事前申込が必要な講座

No.	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
1	植物図鑑の使い方～春の花編～	4/15(土)	実習実験室および館周辺	小学 4 年生～成人・教員	大西 亘	20	22	中止
2	化石ゾウと現生ゾウの頭骨から	4/16(日)	実習実験室	大学生～成人	樽 創	10	10	10
		5/14(日)						9
		6/25(日)						8
3	春の里山の植物	4/22(土)	舞岡ふるさと村(横浜市)	小学生～成人	田中徳久	40	38	25
4	普通種に会いにゆこう	4/23(日)	狩川河川敷(南足柄市)	幼児・小学生とその保護者	渡辺恭平	30	109	21
5	磯の生きものウォッチング(1)	4/23(日)	三ツ石海岸(真鶴町)	小学生とその保護者	佐藤武宏	40	134	31
6	おやこで貝がらをしよう(1)	5/5(金)	実習実験室	小学生とその保護者	佐藤武宏	18	36	14
7	おやこで貝がらをしよう(2)					18	23	16
8	地形地質と鳥瞰図の観察会	5/14(日)	湯河原町	中学生～成人	新井田秀一	25	46	中止
9	博物館学入門～概論とおすすめの博物館紹介～	5/20(土)	講義室	成人	大島光春	30	32	28
10	磯の生きものウォッチング(2)	5/21(日)	三ツ石海岸(真鶴町)	小学生とその保護者	佐藤武宏	40	203	33
11	古生物学入門～哺乳類の骨と歯～	6/3(土)	実習実験室	成人	大島光春	12	32	11
12	初夏の昆虫観察会	6/4(日)	渋沢丘陵(秦野市)	小学 4 年生～大学生・大学院生	渡辺恭平	20	55	16
13	先生のための植物講座～イマドキの植物の調べ方ほか～	7/22(土)	実習実験室および館周辺	教員・大学生・関心のある成人	大西 亘	12	20	12
		7/23(日)						12
14	いろいろな羽根を観察してみよう	8/5(土)	実習実験室	小学 1 年生～3 年生とその保護者	加藤ゆき	20	52	6
15	羽根の持ち主さがしに挑戦	8/5(土)	実習実験室	小学 4 年生～6 年生・中学生とその保護者	加藤ゆき	20	33	14
16	あなたのパソコンで地形を見る(教員向け)	8/8(火)	実習実験室	教員	新井田秀一	12	9	8(5)
17	自分の博物館体験を可視化してみよう	8/10(木)	講義室	小学 5 年生・6 年生	田口公則	7		7
18		8/11(金・祝)		中学生		7		6
19		8/18(火)		高校 1 年生・2 年生		7		5
20	クジラの「ヒゲ」を知ろう	9/2(土)	実習実験室	小学生とその保護者	西村双葉	20	84	13
21	川と用水路の生き物を調べよう	10/1(日)	南足柄市	小学生～成人	菊部治紀	20	110	19
22	秋の里山の植物	10/7(土)	舞岡ふるさと村(横浜市)	小学生～成人	田中徳久	40	32	23
23	野生動物の自動撮影入門	10/7(土)	長興山(小田原市)および実習実験室	小学 4 年生～成人	鈴木 聡	15	7	5
		10/15(日)						5
24	きのこの観察と同定	10/9(月)	実習実験室および館周辺	小学生～成人	折原貴道	20	124	中止
25	植物図鑑の使い方～樹木編～	10/14(土)	実習実験室および館周辺	小学 4 年生～成人・教員	大西 亘	20	23	中止
26	本当は怖いアメリカザリガニ～最悪の水辺の外来種について勉強しよう～	10/15(日)	はるひ野(川崎市麻生区)	小学生～成人	菊部治紀	20	30	中止
27	先生のための地層と化石入門 ハマの地形編	10/21(土)	実習実験室および横浜市	教員	田口公則	8	8	6(3)
		10/22(日)						5(3)
28	あなたのパソコンで地形を見る(一般向け)	10/22(日)	実習実験室	成人	新井田秀一	6	8	6
29	地質や地形を観察してみよう	10/28(土)	吾妻山周辺(二宮町)	小学 4 年生～6 年生とその保護者	石浜佐栄子	20	15	7
30	はっぱであそぼう	11/12(日)	講義室	5～6 歳の子どもとその保護者	石田祐子	24	21	11
31	貝殻のふしぎを調べよう(ホタテ)	11/19(日)	小田原駅周辺	小学 4 年生～成人	田口公則	18	14	12
32	秋の地形地質観察会	11/23(木)	大磯丘陵周辺(平塚市)	中学生～成人	西澤文勝	25	69	22
33	貝殻のふしぎを調べよう(アサリ)	11/26(日)	横浜駅周辺	小学 4 年生～成人	佐藤武宏	18	11	6
34	貝殻のふしぎを調べよう(巻貝)	12/3(日)	横浜駅周辺	小学 4 年生～成人	佐藤武宏	18	14	12
35	初めてのシダ シダ植物の観察ポイント	12/10(日)	実習実験室	中学生～成人	石田祐子	6	24	7
36	自分の博物館体験を可視化してみよう	12/23(土)	講義室	小学 5 年生～中学 2 年生	田口公則	7		5
37	ボランティア入門講座	1/21(日)	講義室	中学生～成人	企画普及課	29	22	19
38	魚をもっと知りたい人のための魚類学講座	1/27(土)	実習実験室	中学生～成人	瀬能 宏	10	17	10
		1/28(日)						10

(次ページに続く)

(前ページから続く)

No.	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
39	親子でノジュール割りに挑戦 ～ボリビア産の古生代の生物を調べよう～	2/10(土)	実習実験室	小学4年生～6年生とその 保護者	田口公則	15	71	11
40	ほねほねパズルで学ぶ動物の骨とかたちとくらし	2/11(日)	実習実験室	小学生～中学生	鈴木 聡	15	58	9
41	早春の地形地質観察会 西丹沢の岩石	3/2(土)	山北町中川	中学生～成人	山下浩之	25	92	24
42	動物を描いてみよう！(1)	3/23(土)	講義室	小学1年生～3年生とその 保護者	加藤ゆき	20	66	9
43	動物を描いてみよう！(2)			小学4年生～6年生とその 保護者		20	32	19
合計						827	1,806	567

※No. 17, 18, 19, 36 の講座はひらめき☆ときめきサイエンス—ようこそ大学の研究室へ—KAKWNIH プログラムにより実施された。

5.1.3. よろずスタジオ

学習指導員による博物館主催の「よろずスタジオ」は、新型コロナウイルスの感染法上の分類が2類から5類に移行したことを受け、テーマも3講座から8講座に増やした。友の会との共催による「よろずスタジオ」も開催した。

博物館主催 よろずスタジオ

イベント名	実施回数	実施場所	対象者	担当者	定員	参加者数	子どもの数
恐竜の折り紙ひろば	5	東側講義室ほか	子どもと その保護者 その他一般	学習指導員 企画普及課	制限なし	374	183
博物館のぬり絵ひろば	4					303	138
そらとぶたね	1					84	46
けんぴきょうで大発見！	2					521	249
博物館検定	1					102	53
博物館パズル	4					274	125
ハコフグ帽子のぬり絵	4					293	143
生きものスケッチ	2					107	49
合計	23					(8講座のべ23回実施)	

友の会との共催 よろずスタジオ

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者数
ほねほねクイズ	4/16(日)	東側講義室	子どもと その保護者 その他一般	鈴木 聡	制限なし	47
昆虫の不思議	6/25(日)			渡辺恭平		53
そこにも！ここにも！菌類が	9/10(日)			折原貴道		58
葉っぱで遊ぼう	11/19(日)			友の会スタッフ		85
砂とあそぼう	1/14(日)			石浜佐栄子		106
溶岩の噴火	2/18(日)			西澤文勝		66
合計						415

5.1.4. 夏休みの自由研究を支援する催し物

学習指導員が対応する、夏休みの小・中学生理科自由研究の相談を集計した。

自由研究を支援する催し物

催し物名	実施期間	相談場所	対象者	講師	相談件数
夏休み自由研究なんでも相談 「テーマの決め方・調べ方・まとめ方」	7/15(土) ～8/13(日)	ミュージアム・ライブラリー	小・中学生	学習指導員	39

[相談者の地域]

県内		県外	
市町村	件数	都道府県	件数
小田原市	1	東京都	9
真鶴町	1	埼玉県	6
開成町	2	静岡県	2
大井町	1	大阪府	1
伊勢原市	1	岐阜県	1
厚木市	1	小計	19
大和市	1		
藤沢市	7		
鎌倉市	1		
横浜市	3		
川崎市	1		
小計	20		

[学年別]

学年	件数
小学1年生	3
小学2年生	8
小学3年生	5
小学4年生	10
小学5年生	3
小学6年生	0
中学1年生	8
中学2年生	2
中学3年生	0
合計	39

[分野別]

相談分野		件数
生物分野	古生物	6
	魚類	2
	昆虫	6
	植物	4
	哺乳類	3
	その他	2
	小計	23
地学分野	岩石鉱物	1
	気象	5
	火山地震	1
	地層地質	1
	環境	2
	小計	10
その他	物理・化学	3
	その他	3
	小計	6
合計		39

5.1.5. 特別展・企画展に関する講座・イベント

講座等名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	参加数
特別展開連 学芸員ギャラリートーク 「菌類がもっと面白くなる！かながわご当地菌類キャ ラの秘密」	7/21(金)※ 8/2(水) 8/5(土)※ 8/10(木) 8/19(土)※ ※2回実施	特別展示室	どなたでも	折原貴道	—	—	
特別展開連 学芸員ギャラリートーク 「菌類の胞子を見てみよう」	8/15(火)				—	—	
特別展開連 学芸員ギャラリートーク 「特別展をさらに楽しむための注目ポイント」	8/28(月) 9/17(日)※ 10/29(日)※ ※2回実施				—	—	
特別展開連 学芸員ギャラリートーク 「ご当地菌類投票 最終結果発表・クロージング」	11/5(日)				—	—	
特別展開連 学芸員ギャラリートーク 「モザイクガラス作品から見る菌類の世界-展示作品 の深掘り紹介」				柴田めいこ	—	—	
特別展開連 学芸員ギャラリートーク 「実はとっても美しい、野外のカビ観察のススメ」					杉本 泉	—	—
特別展開連シンポジウム かながわから発信する菌類の魅力	8/12(土)	オンライン	どなたでも	出川洋介 山本好和 高橋春樹 折原貴道	90	84	84
ミュージアム・リレー第324 走 特別展「かながわのご当地菌類展」を学芸員が解説し ます！	8/25(金)	特別展示室	中学生以上	折原貴道	20	31	17
第138回サロン・ド・小田原 市民科学が支える菌類研究-『新・入生田菌類誌』完成 までの歩み	9/9(金)	東側講義室	どなたでも	折原貴道	45	—	21
ミュージアム・リレー第335 走 企画展「動物のくらしとかたち一裁内正幸が描いた生 態画の世界」を学芸員が解説します！	3/1(金)	特別展示室	中学生以上	加藤ゆき	20	23	19
企画展開連講演会 藪内正幸に魅せられて一生生態画の世界へようこそ	3/2(土)	SEISA ミュ ージアムシア ター	どなたでも	藪内竜太 神戸宇孝 秋山幸也	300	—	121
ミュージズ・フェスタ2024開催イベント 絵本『のうさぎ』の世界を体験しよう	3/9(土)	特別展示室	どなたでも	加藤ゆき 石浜佐栄子 大坪 奏 石田祐子	—	—	35
ミュージズ・フェスタ2024開催イベント ぬいぐるみと一緒に記念撮影	3/10(日)	エントラン スホール			—	—	588
企画展開連講座 動物を描いてみよう！①	3/23(土)	講義室	小学1年生～3年生 とその保護者	加藤ゆき	20	66	9
企画展開連講座 動物を描いてみよう！②	3/23(土)	講義室	小学4年生～6年生 とその保護者	加藤ゆき	20	32	19

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義および総合的な学習の時間への対応

博物館内で対応したもの

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数
7/15(土)	高校	博物館で学ぼう！ー博物館学ー	希望ヶ丘高等学校	大島光春	15
7/15(土)	大学	地球科学実験	創価大学理工学部共生創造理工科学科	樽 創	34
7/23(日)	高校	化石に関する体験実習ならびに博物館の見学	星槎高等学校	田口公則	20
7/25(火)	高校	SSH サイエンスツアー「博物館の社会的意義と役割 について」	千葉県立長生高等学校	田口公則	45
8/24(木)	大学	夏期集中講座「地学実験」	東京工芸大学	田口公則	24
9/20(水)	中学校	菌類に関する講義と特別展の展示解説	浅野学園生物部	折原貴道	7
10/20(金)	小学校	「流れる水のはたらき」	箱根町立湯本小学校	石浜佐栄子	20
10/25(水)	小学校	「流れる水の働き」	函領白百合学園小学校	石浜佐栄子	14
10/27(金)	大学	菌類研究に関する講演と菌類特別展の解説	関東学院大学	折原貴道	11
11/22(水)	小学校	「大地のつくりと変化」	函領白百合学園小学校	石浜佐栄子	15
12/13(水)	中学校	博物館見学・箱根巡検	武蔵中学校	西澤文勝	186
1/12(金)	小学校	「人の体のつくり」	函領白百合学園小学校	鈴木 聡	9
2/27(火)	大学	展示解説	愛知大学一般教育研究室	田口公則	9
合計					409

依頼元等へ出向いての対応・オンライン対応したもの

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
4/26(水)	大学	ボランティア説明会	小田原短期大学	佐藤武宏 水嶋 淳 吉成美香子	小田原短期大学
6/28(水)	小学校	「箱根火山の成り立ち」	自由学園初等部	山下浩之	箱根巡検
6/28(水)	中学校	生物の多様性について	横浜女学院中学校	鈴木 聡	横浜女学院中学校
7/14(金)	大学	さく葉標本の作り方	東京都立大学	石田祐子	オンライン
12/18(月)	小学校	たねはかせになるう	大田区立清水窪小学校	大西 亘	オンライン
2/20(火)	中学校	火山の成り立ちについて	箱根町立箱根中学校	西澤文勝	箱根町立箱根中学校

5.2.2. 職場体験およびインターンシップ受け入れ

2023 年度は中学生を対象とした職場体験、および高校生を対象としたインターンシップをおこなった。活動内容として、博物館の社会的役割や組織体制に

関する講義のほか、バックヤード見学、学芸員や行政職員、学習指導員の業務体験プログラム等を実施した。

職場体験およびインターンシップ

実施日	区分	内容	依頼元	対応者	人数
7/25(火)	高校	高校生インターンシップ（就業体験活動）	県立綾瀬西高等学校 県立城北工業高等学校	折原貴道 学習指導員 植村良彦 山下浩之	5
7/26(水) 7/27(木)	高校	高校生インターンシップ（就業体験活動）	西湘地区コンソーシアム （県立小田原高等学校、 県立吉田島高等学校）	折原貴道 西澤文勝 学習指導員 植村良彦 山下浩之	5
7/31(月) 8/1(火) 8/2(水)	高校	高校生インターンシップ（就業体験活動）	県立平塚江南高等学校	折原貴道 西澤文勝 学習指導員 植村良彦 山下浩之 三橋秀子	2
10/25(水)	中学校	職場体験プログラム	小田原市立鴨宮中学校	折原貴道 学習指導員 植村良彦 山下浩之	4
11/7(火)	中学校	職場体験プログラム	小田原市立城北中学校		6
11/22(水)	中学校	職場体験プログラム	小田原市立城南中学校		3
1/26(金)	中学校	職場体験プログラム	小田原市立国府津中学校		2
2/2(金)	中学校	職場体験プログラム	小田原市立酒匂中学校		2

5.2.3. 教員の各種研修受け入れ

総合教育センター研修枠として実施した博物館講座は、53 ページに記載した(No. 16, 27 の講座)。

博物館内で対応したもの

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
8/23(水)	「生涯学習施設としての博物館の役割と機能」 「学校教育と博物館の連携事例の紹介」	小田原・足柄下地区小学校教育研究会	佐藤武宏 石浜佐栄子 西澤文勝	38

依頼元等へ出向いての対応したもの

実施日	内容	依頼元	対応者	実施場所
6/12(月)	2 年経験者研修講座中学校（理科）	総合教育センター	山下浩之	総合教育センター
7/26(水)	中堅教諭等資質向上研修講座高等学校（理科）	総合教育センター	山下浩之	総合教育センター
8/9(水)	中堅教諭等資質向上研修講座中学校（理科）	総合教育センター	山下浩之	総合教育センター

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館館園実習

当館では自然誌系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。2023 年度は、17 大学院・大学から 30 名の実習生を受け入れた。

実習は、例年は企画情報部企画普及課が担当する 2 日間と学芸部が担当する 7 日間の実習からなるが、本年度も新型コロナウイルス対応として、実習生全

員を集めて実施する前期日程は 1 日に短縮し、各専門分野に分かれて実施する後期日程を 7 日間として開催した。日程と実施内容の詳細は下記のとおりであった（ただし、日程は当初予定されたものであり、個々の実習生、博物館側のやむを得ぬ事情により、実際の実施日程は下記と異なる場合が含まれる）。

実習日と主な実習内容

全員共通日程（1日間）

〔担当〕企画普及課職員

〔期日〕8/3

〔内容〕副館長挨拶、オリエンテーション、館内説明、館長講話、学芸部長・管理課長・企画普及課長・情報資料課長・ライブラリー司書による館の概要・各種業務について講義。

分野別実習（7日間）

〔担当〕学芸部各分野（詳細は以下の通り）

◎植物分野（3名）

〔担当〕田中徳久・大西 亘・折原貴道・石田祐子

〔期間〕8/4, 8/5, 8/7-8/11

〔内容〕植物標本の製作、配架、登録作業など

◎菌類分野（4名）

〔担当〕折原貴道・大西 亘（補助）

〔期間〕9/5-9/9, 9/12, 9/13

〔内容〕菌類の野外調査、標本の作成、展示演習、教育普及行事のサポートなど

◎動物グループ（8名）

〔担当〕佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子・鈴木 聡・西村双葉

〔期間〕8/4-8/6, 8/8, 8/9, 8/11, 8/12

〔内容〕標本製作、標本整理、標本情報登録など

◎魚類グループ（4名）

〔担当〕瀬能 宏

〔期間〕8/9-8/13, 8/15, 8/16

〔内容〕魚類標本の製作、撮影、登録、配架、メンテナンスなど

◎昆虫グループ（1名）

〔担当〕荻部治紀・渡辺恭平

〔期間〕8/15-8/21

〔内容〕昆虫野外調査、昆虫標本の製作、標本ラベルの取り付け、登録作業、展示標本作成、展示作業など

◎古生物グループ（4名）

〔担当〕大島光春・田口公則

〔期間〕8/23-8/27, 8/29, 8/30, 8/31（補講）

〔内容〕標本調査の取り方、化石レプリカの製作、標本整理とDB操作、標本写真の撮影、展示制作（企画、レイアウト、パネル・ラベル製作、展示評価）など

◎地学グループ（6名）

〔担当〕山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・西澤文勝・下出朋美

〔期間〕8/4, 8/5, 8/7-8/11

〔内容〕岩石標本整理、ワークショップの実施、講座の補助など

博物館館園実習受け入れ状況

大学・学部等		人数
青山学院大学	コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科	1
神奈川大学	理学部生物科学科	3
北里大学	海洋生命科学部海洋生命科学科	2
静岡大学	理学部地球科学科	1
筑波大学	生命環境学群 生物学類	1
帝京科学大学	生命環境学部アニマルサイエンス学科	3
東京都市大学	理工学部自然科学科	1
東京都立大学	都市環境学部地理環境学科	1
東京農業大学	農学部動物科学科	2
	応用生物科学部醸造科学科	1
日本獣医生命科学大学	応用生命科学部動物科学科	1
日本女子大学	理学部数物情報科学科	1
日本大学	生物資源科学部	3
	文理学部化学科	1
	文理学部地球科学科	1
	文理学部地理学科	1
北海道大学	理学部生物科学科	1
三重大学	生物資源学部海洋生物資源学科	1
明治大学	農学部農学科	2
八州学園大学	生涯学習学部生涯学習学科	1
琉球大学	海洋自然科学部生物系	1
合計		30

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わず実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物館の

機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。今年度は7大学7件 219名の見学実習を受け入れた。

博物館見学実習受け入れ状況

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
6/20(火)～7/20(木)	博物館実習Ⅱ(招待券対応)	神奈川大学理学部	—	13
6/30(金)	博物館実習(団体見学4)	明治大学	田口公則	20
7/9(日)	博物館見学	都留文科大学	鈴木 聡	27
7/22(土)	博物館情報・メディア論	北里大学海洋生命科学部	瀬能 宏・大坪 奏	45
10/21(土)	博物館実習Ⅰ(オンライン解説会)	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	85
11/25(土)	博物館見学実習	桜美林大学	佐藤武宏	8
12/10(日)	博物館見学実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	21
合計				219

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を活かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2023年度のライブラリー利用者は86,861人で、1日平均利用者数は307人であった。また、有料コピーサービスを来館者には直接、来館できない利用者には郵送で、それぞれ実施している。これらのコピーサービスには、延べ99件の申込があった。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	26	20	28	31	25	25	24	15	19	22	23	283
利用者数	6,630	7,220	5,471	8,960	15,871	7,251	7,098	6,073	2,722	4,936	6,960	7,669	86,861
平均利用者数	265	278	274	320	512	290	284	253	181	260	316	333	307

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、より身近で開かれた博物館、学校との連携を図る博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして5名の学習指導員を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援、また学校をはじめ各種諸団体利用者に対する展示物のガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務を行っている。

5.5.1. 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、様々な相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスを行ったり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支援を行っている。このほか、来館者のレファレンス受付や、

博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。学芸員のレファレンス対応状況については、「3.4 レファレンス対応人数」(30ページ)参照。

5.5.2. 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

新型コロナウイルス感染症が5月8日から5類感染症に移行したため、これまで学校と保育所、社会福祉施設の利用に限り受け付けていた団体予約を一般団体も含むすべての団体に拡大した。また、予約は引き続きFAXのみとした。

[下見見学への対応]

下見見学に対しては、施設の利用方法や館内の見どころ等を説明するほか、希望があれば博物館の展示を紹介したDVDの貸し出しも行っている。

[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間15～20分程度で、展示室の構成や主な展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、また利用にあたっての注意事項について説明をしている。本年度の利用状況は次のとおりである。

学習指導員によるガイダンスの月別対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	18	18	18	22	25	19	30	32	13	5	24	12	236
人数	639	668	834	834	833	804	1,253	1,301	609	292	910	253	9,230

5.5.3. 団体利用状況

2023 年度の団体利用人数は、832 団体、36,130 人で、入館者数全体 254,313 人に対する割合は 14.2% であった。団体利用件数の内訳は、学校教育関係(保育所を含む)と学校以外で分類した。

団体の種別内訳

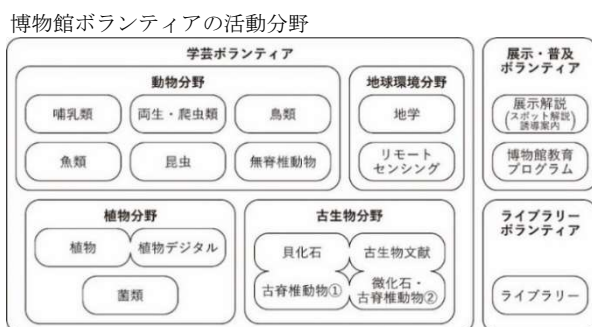
	神奈川県内から			県外・海外から			合計		
	件数	件割合	人数	件数	件割合	人数	件数	件割合	人数
学校教育	316	38.0%	16,350	190	22.8%	10,725	506	60.8%	27,075
幼稚園・保育所	73	8.8%	2,823	12	1.4%	423	85	10.2%	3,246
小学校	154	18.5%	10,099	135	16.2%	7,973	289	34.7%	18,072
小中一貫校	2	0.2%	51	2	0.2%	83	4	0.5%	134
中学校	19	2.3%	1,085	5	0.6%	351	24	2.9%	1,436
中高一貫校	8	1.0%	453	7	0.8%	872	15	1.8%	1,325
高等学校	16	1.9%	692	5	0.6%	178	21	2.5%	870
特別支援学校・学級	34	4.1%	711	7	0.8%	244	41	4.9%	955
大学・短大	10	1.2%	436	17	2.0%	601	27	3.2%	1,037
学校以外	207	24.9%	5,364	119	14.3%	3,691	326	39.2%	9,055
合計	523	62.9%	21,714	309	37.1%	14,416	832	100.0%	36,130

団体の地区別利用状況（上段：件数、下段：人数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	%
小田原	件数	2	4	2	7	5	5	5	6	6	3	7	0	52	6.3%
	人数	347	274	32	134	87	141	163	238	223	78	257	0	1,974	5.5%
足柄下	件数	0	1	3	0	0	0	6	3	1	2	2	2	20	2.4%
	人数	0	14	41	0	0	0	194	67	7	29	15	76	443	1.2%
足柄上	件数	0	1	2	1	0	1	1	4	1	3	6	1	21	2.5%
	人数	0	7	62	11	0	17	9	311	59	165	152	14	807	2.2%
二宮・大磯・平塚	件数	1	5	0	5	4	0	5	4	2	0	7	3	36	4.3%
	人数	124	111	0	68	64	0	222	155	169	0	243	72	1,228	3.4%
秦野・伊勢原・厚木	件数	5	5	3	2	8	4	9	11	0	3	5	10	65	7.8%
	人数	319	280	118	36	153	56	431	418	0	62	238	270	2,381	6.6%
県央・相模原	件数	6	8	3	7	12	19	17	13	2	0	7	13	107	12.9%
	人数	449	591	107	229	294	1,329	789	571	61	0	242	271	4,933	13.7%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	件数	4	3	7	4	8	2	11	9	6	2	7	8	71	8.5%
	人数	347	57	402	122	208	48	426	672	338	55	229	275	3,179	8.8%
横須賀・三浦・逗子	件数	0	1	2	0	1	2	1	5	1	0	0	1	14	1.7%
	人数	0	32	166	0	8	185	70	222	46	0	0	82	811	2.2%
横浜	件数	0	7	10	7	9	11	20	13	6	4	5	5	97	11.7%
	人数	0	338	447	334	239	417	879	557	182	166	307	143	4,009	11.1%
川崎	件数	0	1	0	2	2	2	0	7	2	5	10	1	32	3.8%
	人数	0	24	0	83	56	126	0	393	95	335	496	35	1,643	4.5%
県内全域・地区不明	件数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0.4%
	人数	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	31	0.1%
東京都	件数	9	10	14	12	11	10	11	7	3	2	9	6	104	12.5%
	人数	501	697	743	573	633	568	571	344	269	43	278	115	5,335	14.8%
千葉県	件数	0	1	2	1	0	14	30	21	2	0	3	2	76	9.1%
	人数	0	44	73	45	0	694	1,320	1,377	150	0	162	115	3,980	11.0%
静岡県	件数	2	6	8	6	7	6	9	5	5	2	9	4	69	8.3%
	人数	57	196	414	300	174	231	300	124	168	53	228	70	2,315	6.4%
山梨県	件数	0	3	2	1	1	0	1	1	1	1	1	2	14	1.7%
	人数	0	78	68	27	48	0	33	18	18	23	14	28	355	1.0%
埼玉県	件数	1	4	3	2	4	6	7	9	3	0	0	2	41	4.9%
	人数	12	311	62	93	136	400	457	485	141	0	0	58	2,155	6.0%
茨城県	件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1%
	人数	335	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	335	0.9%
その他の道府県・外国	件数	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	2	2	9	1.1%
	人数	0	19	0	45	35	0	0	44	0	0	25	48	216	0.6%
神奈川県計	件数	18	36	32	35	52	46	75	75	27	22	56	44	518	62.3%
	人数	1,586	1,728	1,375	1,017	1,140	2,319	3,183	3,604	1,180	890	2,179	1,238	21,439	59.3%
他都道府県・外国計	件数	13	25	29	23	24	36	58	45	14	5	24	18	314	37.7%
	人数	905	1,345	1,360	1,083	1,026	1,893	2,681	2,392	746	119	707	434	14,691	40.7%
全体合計	件数	31	61	61	58	76	82	133	120	41	27	80	62	832	100.0%
	人数	2,491	3,073	2,735	2,100	2,166	4,212	5,864	5,996	1,926	1,009	2,886	1,672	36,130	100.0%

5.6. 博物館のボランティア活動

当館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等さまざまである。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「展示・普及ボランティア」「ライブラリーボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、専

門的な技術や知識を習得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助などを通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. 展示・普及ボランティア

展示室で来館者に対して案内や展示の解説をする「展示解説」と、子ども向けワークショップイベントの補助をする「博物館教育プログラム」がある。「展示解説」の中には、各自の都合の良い日に来館し、各ボランティアの得意な分野について案内や解説を行う「スポット解説」と視覚障がい者の方の誘導や展示ラベルの点字シールの製作・貼付などの活動を行う「誘導案内」の2つがある。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

当分野は「学芸ボランティア」「館運営ボランティ

ア（現ライブラリーボランティア）」の登録者から希望を募り、2002年度から始まった活動である。2004年度からはボランティア入門講座でも展示解説分野を設置し、講座修了者が活動に加わっている。

2015年度からは、子ども向け当日参加型ワークショップ（よろずスタジオ）の運営を補助する「博物館教育プログラム」の分野を新設している。この分野については、当館の登録ボランティアの他に、小田原短期大学と連携し、同保育学科の学生にも参加をいただいている。（2023年度：延べ47名）

5.6.3. ライブラリーボランティア

さまざまな専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カバー貼り等）や補修等の活動を行っている。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数は右表、活動状況は下表のとおりである。

2023 年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録人数		
	合計	男	女
実人数 ※	395	210	185
1) 学芸ボランティア	385	199	186
2) 展示・普及ボランティア	48	28	20
3) ライブラリーボランティア	6	0	6

※1)～3)の分野間で重複登録している人を除いた実人数を示した。
実人数のうち、保険加入者は 285 名。

2023 年度「博物館ボランティア」登録者の内訳及び月別の活動状況

			登録数(延べ)			活動人数(延べ)																
			合計	男	女	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
学芸	植物	植物	29	4	25	279	26	19	12	39	22	23	17	24	24	20	28	25				
		菌類	56	29	27	483	35	57	76	77	27	24	32	59	30	28	26	12				
	動物	哺乳類	66	28	38	167	7	13	4	25	14	12	11	25	16	20	9	11				
		鳥類	28	11	17	240	34	7	23	20	15	14	21	12	18	11	32	33				
		両生・爬虫類	13	6	7	10	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0				
		魚類	56	40	16	254	17	19	14	18	17	12	29	28	18	34	21	27				
		昆虫	55	42	13	117	11	16	4	18	4	6	6	14	16	13	3	6				
		軟体・甲殻類	5	3	2	50	4	5	2	5	1	5	4	5	3	5	5	6				
	古生物	52	25	27	519	42	53	24	30	26	40	53	47	43	40	61	60					
	地球環境	地学	25	11	14	163	16	20	11	9	13	13	14	17	8	11	14	17				
		リモートセンシング	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
	延べ人数			385	199	186	2,282	196	209	170	241	139	149	187	231	176	182	205	197			
展示・普及	展示解説		30	21	9	70	10	7	5	4	6	8	6	4	6	4	4	6				
	誘導案内		8	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	博物館教育プログラム		10	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	延べ人数		48	28	20	70	10	7	5	4	6	8	6	4	6	4	4	6				
ライブラリー			6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
全体延べ人数			439	227	212	2,352	206	216	175	245	145	157	193	235	182	186	209	203				

※植物は植物デジタルを含む。古生物は古生物文献を含む。

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習があり、受講後、翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2023 年度の実施内容は表のとおりである。

[日時] 2024 年 1 月 21 日(日)～2 月 14 日(日)までの間の 2～3 日間(分野別の講座が 1～2 日間)

[募集定員] 学芸 7 分野 29 名

[受講人数] 学芸 7 分野 19 名

講座日程

共通講義 (初日: 2024 年 1 月 21 日(日))

時間	内容
10:00～10:15	開会あいさつ、博物館の概要説明
10:15～10:45	講義「博物館活動とボランティア」
10:45～12:00	展示室見学・バックヤード見学
13:05～14:20	バックヤード見学・展示室見学
14:35～14:50	ボランティアに関する説明と諸注意
15:00～15:30	各分野の紹介と顔合わせ
15:30	終了 (分野別に随時解散)

分野別実習(1 月 23 日～2 月 14 日の 1～2 日間)

分野	実施日	内容	定員	受入	受講	登録
植物	2/9(金)、2/14(水)	植物標本作製	5	2	2	2
植物デジタル資料	1/31(水)、2/2(金)	植物標本の取扱いと整理、デジタル資料作成	3	2	2	2
魚類	1/27(土)、1/28(日)	標本作製・整理、講座の補助等	3	5	5	5
無脊椎動物(貝・カニ)	2/4(日)	標本整理・登録・配架	4	1	1	1
古生物(貝化石・古脊椎動物)	1/23(火)	活動内容紹介・活動体験(資料ラベル・箱の整理等)	4	1	1	1
古生物(脊椎動物化石・植物化石・微化石)	2/4(日)	標本作製・整理、写真撮影、講座の補助等	5	5	5	5
アーカイブ	1/25(木)	概要説明、資料の整理・読み解き体験	5	4	3	3
合計			29	20	19	19

5.6.6. ボランティア研修

2023 年度は実施しなかった。

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く当館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを周知し、来館・参加を呼びかけることを目的としている。

2023年度の広報活動は、催物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供及び公式X（旧Twitter）アカウントによる広報を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

広報として、特別展や講座、観察会などの各種催し物を周知する「催物案内」、イベントの開催に合わせたポスターやチラシなどを次の表のとおり作成・配布した。

作成印刷物一覧

作成年月	印刷物名	仕様（規格、印刷、色数）	印刷部数	主な配布先	配布件数
2023年6月	特別展「かながわご当地菌類展」ポスター	B2判 オフセット印刷 4色刷り	970	A, B, C, D, E, F, G, H	900
	特別展「かながわご当地菌類展」チラシ	A4判 オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	15,000	A, B, C, D, E, F, H	
	特別展「かながわご当地菌類展」招待券	70mm×148mm オフセット印刷 4色刷り	9,500	B, C, D, E, F, H	
2024年1月	企画展「動物のくらしとかがたち―森内正幸が描いた生態画の世界―」ポスター	B2判 オフセット印刷 4色刷り	800	A, B, C, D, E, F, G, H	900
	企画展「動物のくらしとかがたち―森内正幸が描いた生態画の世界―」チラシ	A4判 オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	16,000	A, B, C, D, E, F, H	
2024年2月	2024年度催物案内	A3判 オフセット印刷 両面1色刷り	23,000	B, C, D, E, F, H	700
2024年3月	ミュージズ・フェスタ2024 当日イベントマップチラシ（2日間）	A4判 館内簡易印刷（片面1色刷り）	1,000	館内配布	—

主な配布先の凡例。A:小田原市立小中学校;B:県内図書館;C:博物館園;D:県政情報窓口;E:マスメディア;F:小田急電鉄・箱根登山鉄道;G:大雄山線;H:その他

5.7.2. マスメディア等への情報提供

特別展・企画展においては、前日に記者内覧会を実施した。

この1年間の紹介記事件数は、掲載が確認できたものだけでも122件あった。内訳は、新聞15件、広

報誌・情報誌・雑誌等23件、テレビ13件、ラジオ5件、ウェブサイト等インターネット43件、その他23件であった。

5.7.3. SNS・ネット広告を利用した広報

県内外へ広く活発な広報活動を行うため、次のとおりX（旧Twitter）による情報発信を行った。

公式X（旧Twitter）アカウントによる情報発信

広報アカウント「@seimeinohoshiPR」では、特別展や常設展、博物館の活動状況、開館状況、ウェブコンテンツ等の情報発信を行うとともに、緊急時や災害

時等に情報発信媒体として活用した。また、混雑情報発信アカウント「@seimeinohoshiCI」では、当館の混雑状況の情報発信を行った。

X（旧Twitter）による情報発信

アカウント	実施期間	合計ポスト数
広報アカウント：@seimeinohoshiPR	2023年4月1日～2024年3月31日	271
混雑情報発信アカウント：@seimeinohoshiCI	2023年4月1日～2024年3月31日	239

5.8. 来館者アンケート

来館者の来館回数、満足度等のアンケートを行った。また、イベント開催中にアンケートを実施することで、広報物（チラシ等）の効果を調べる基礎資料とした。

5.8.1. 館内での満足度調査

[調査方法]

入館券の投函と電子申請システムを併用して行った。1階エントランスホールに投票箱と電子申請システムの二次元コードを印刷したポスターを設置し、来館者に回答を求めた。

[調査期間]

2023年8月15日～11月5日の開館中（72日間）

[回答数]

3,821件（うち投函3,714件、電子申請システム107件）

[調査方法]

入館券の投函と電子申請システムを併用して行った。1階エントランスホールに投票箱と電子申請システムの二次元コードを印刷したポスターを設置し、来館者に回答を求めた。

[調査期間]

2024年2月10日～3月8日の開館中（23日間）

[回答数]

1,302件（うち投函1,276件、電子申請システム26件）

[調査項目]

4項目（満足・どちらかといえば満足・どちらかといえば不満・不満）

[調査結果]

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
回答数	2,918	718	142	43
%	76.4%	18.8%	3.7%	1.1%

[調査項目]

4項目（満足・どちらかといえば満足・どちらかといえば不満・不満）

[調査結果]

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
回答数	1,034	226	26	16
%	79.4%	17.4%	2.0%	1.2%

5.8.2. ミューズ・フェスタ 2024 参加者へのアンケート

[調査方法]

アンケート用紙と電子申請システムを併用して行った。館内の6か所に二次元コードを掲載したポスターを設置し、来館者に回答を求めた。

[調査期間]

2024年3月8日～3月9日の開館中（2日間）

[回答数]

188件（うちアンケート用紙記入式147件、電子申請システム41件）

[調査項目]

年代/居住地/利用交通機関/来館回数/広報物の利用について/Wi-Fi導入について/満足度/自由意見

[アンケート結果]

問1 あなたについて教えてください。

〈年代〉

9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	回答なし	合計
27	24	7	45	45	13	16	8	3	188
14.4%	12.8%	3.7%	23.9%	23.9%	6.9%	8.5%	4.3%	1.6%	100.0%

〈お住まい〉

神奈川県	東京都	静岡県	千葉県	埼玉県	山梨県	長野県	愛媛県	回答なし	合計
157	11	8	2	2	2	1	1	4	188
83.5%	5.9%	4.3%	1.1%	1.1%	1.1%	0.5%	0.5%	2.1%	100.0%

上記、神奈川県と回答した人の市町村内訳

横浜市	川崎市	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	相模原市	厚木市	大和市	座間市	愛川町	平塚市
25	5	1	2	8	1	1	4	2	4	3	1	15
15.9%	3.2%	0.6%	1.3%	5.1%	0.6%	0.6%	2.5%	1.3%	2.5%	1.9%	0.6%	9.6%
藤沢市	茅ヶ崎市	秦野市	寒川町	二宮町	小田原市	南足柄市	中井町	大井町	山北町	開成町	箱根町	合計
9	7	13	1	1	38	5	1	4	2	2	2	157
5.7%	4.5%	8.3%	0.6%	0.6%	24.2%	3.2%	0.6%	2.5%	1.3%	1.3%	1.3%	100.0%

〈ご来館の際の交通機関〉

電車	バス	自家用車	その他	回答なし	合計
51	1	112	2	22	188
27.1%	0.5%	59.6%	1.1%	11.7%	100.0%

問2 ご来館回数についてお聞きます。

〈現在までのご来館回数〉

初めて	2回目	3～5回	6回以上	回答なし	合計
64	38	50	35	1	188
34.0%	20.2%	26.6%	18.6%	0.5%	100.0%

〈ミュージズ・フェスタの参加回数〉

初めて	2 回目	3～5 回	6 回以上	回答なし	合計
157	15	8	2	6	188
83.5%	8.0%	4.3%	1.1%	3.2%	100.0%

問3 ミュージズ・フェスタについての情報を何でお知りになりましたか（複数回答可）

企画展 チラシ	企画展 ポスター	県の たより	広報 小田原	J:COM 小田原	新聞	当館公式 ウェブサイト	神奈川県 ウェブサイト	当館公式 X (旧 Twitter)	Facebook	その他 SNS	友人・家族 から	その他	来館して 初めて知った	合計
20	2	2	7	1	0	20	3	1	1	3	15	4	23	102
19.6%	2.0%	2.0%	6.9%	1.0%	0.0%	19.6%	2.9%	1.0%	1.0%	2.9%	14.7%	3.9%	22.5%	100.0%

問4 ミュージズ・フェスタにまた参加したいですか

参加したい	参加したくない	回答なし	合計
182	2	4	188
96.8%	1.1%	2.10%	100%

問5 博物館内に無料 Wi-Fi の設置を希望しますか

希望する	希望しない	わからない	回答なし	合計
116	25	41	6	188
61.7%	13.3%	21.8%	3.2%	100.0%

問6 Wi-Fi に接続したら何をしたいですか（複数回答可）

標本をインターネットで より詳しく検索	展示解説等を QR コードに接続	自身の SNS に接続	トリップアドバイザー 等に接続	周辺施設の検索	その他	回答なし	合計
96	80	12	7	27	6	35	263
36.5%	30.4%	4.6%	2.7%	10.3%	2.3%	13.3%	100.0%

問7 あなたの全体の満足度について教えてください

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	回答なし	合計
149	35	0	0	4	188
79.3%	18.6%	0.0%	0.0%	2.1%	100.0%

5.8.3. 講座参加者へのアンケート（記入式）

〔調査方法〕

講座参加者にアンケートを実施し、世代、講座への参加回数、感想等を調査した。

〔調査対象〕

博物館講座のうち、ボランティア入門講座、雨天中止講座を除く 33 講座について、講座終了後にアンケートを行った。なお、講座が 2 日間以上にまたがっている場合は、その講座の最終日の終了後に調査した。

〔有効回答数〕

427 件

〔調査項目〕

回答者の世代/過去の講座への参加/講座を知ったきっかけ/講座に対する感想/また参加したいか

〔アンケート結果〕

講座参加者の世代等の内訳

未就学児	小学校低学年生	小学校高学年生	中学生	高校生	学生	一般成人	65 才以上	教員	合計
8	56	51	5	2	10	209	58	28	427
1.9%	13.1%	11.9%	1.2%	0.5%	2.3%	48.9%	13.6%	6.6%	100.0%

過去の講座への参加について

今回が初めて	過去 1 年以内に参加有	それ以前に参加有	未回答	合計
224	145	58	0	427
52.5%	34.0%	13.6%	0.0%	100.0%

どこで(何で)講座を知りましたか（複数回答あり）

県のたより	学校で 配られた情報	その他の 情報誌	博物館 HP	家族・友人	友の会	博物館 催物案内	当館公式 X (旧 Twitter)	そのほか	合計
19	2	2	253	61	8	102	2	8	457
4.4%	0.5%	0.5%	59.3%	14.3%	1.9%	23.9%	0.5%	1.9%	100.0%

講座に参加しての感想（複数回答可）

内容が おもしろかった	内容が つまらなかった	内容が わかりにくい	教え方が良かった	もっとはやくてよかった	もっとゆっくりがいい	説明がわかりにくい	講座の内容が違った	合計
379	3	4	260	19	19	11	10	705
88.8%	0.7%	0.9%	60.9%	4.4%	4.4%	2.6%	2.3%	100.0%

また参加したいですか（複数回答あり）

もっと上のレベルに参加したい	同じ内容なら参加したい	もっと下のレベルへ参加したい	もう参加したくない	合計
150	287	24	4	465
35.1%	67.2%	5.6%	0.9%	100.0%

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）」第 53 号を刊行した。本号には 6 編の論文が掲載された。本誌は 49 号から完全電子ジャーナルに移行し、当館ウェブサイト及び J-STAGE で公開している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川自然誌資料」第 45 号を刊行した。本号には 15 編の論文が投稿され、査読等を経て 12 編が掲載された。本誌は第 41 号から完全電子ジャーナルに移行し、当館ウェブサイト及び J-STAGE で公開している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年 4 回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容を当館ウェブサイトで紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報」第 28 号（2022 年度）を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学)

[号数] 第53号（電子出版）
[発行日] 2024年 3 月22日
[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト(<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1646461957953/index.html>) ならびに J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/bkpmnh/-char/ja>)
[編集担当] 渡辺恭平・西村双葉
[編集委員会] 田中徳久（編集委員長）・佐藤武宏（編集副委員長）・新井田秀一・大島光春・石浜佐栄子・渡辺恭平・西村双葉
[内容]
田中徳久・村上雄秀・鈴木伸一・中村幸人：溪流辺の岩上に成立する低木群落の植物社会学的な位置づけ
田中徳久・アリサ グラボスカヤ-ボロディナ・勝山輝男・福田知子・大西 亘：コマロフ植物研究所

所蔵の神奈川県産シダ植物・裸子植物・被子植物（単子葉類と双子葉類の一部）の基準標本と関連標本（英文）
渡辺恭平：22 新種を含む日本産マルヒメバチ亜科（ハチ目、ヒメバチ科）の分類学的研究（英文）
西村双葉・白形知佳・崎山直夫・鷺見みゆき・大津大・鈴木美和：神奈川県におけるサラワクイルカ座礁の初記録
和田英敏・瀬能 宏：日本及びグアムから得られたハナダイ亜科イブハナダイ属の1新種イチモンジハナダイ（新称）*Plectranthias clavatus* sp. nov.、およびイブハナダイ *P. kamii* の分布記録の再検討（英文）
本田康介・瀬能 宏・和田英敏：相模湾産魚類目録（改訂）

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 第 45 号（電子出版）
[発行日] 2024 年 3 月 20 日
[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト(<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1646461957953/index.html>) ならびに J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/bkpmnh/-char/ja>)
[編集担当] 鈴木 聡・瀬能 宏
[編集委員会] 佐藤武宏・秋山幸也・萩原清司
[内容]
崎山直夫・花上諒大・鷺見みゆき・鈴木 聡・石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創：相模湾・東京湾沿岸で記録された鰭脚類について
加登岡大希・瀬能 宏：稀種オロシザメ（ツノザメ目：オロシザメ科）の相模湾からの記録、および太平洋北西部における分布と生息状況
栢沼勇魚・和田英敏・斉藤洪成・瀬能 宏：イソゴンベ（スズキ目：ゴンベ科）の相模湾における分

布記録
高橋慶伍・佐京 楓：神奈川県における国内外来種ヌマガエル *Fejervarya kawamurai* の分布
世取山結菜・佐々木 剛：アズマモグラおよびコウベモグラ（真無盲腸目：モグラ科）の D-loop 領域に基づく遺伝的多様性の評価
木村孝浩：真鶴半島“お林”の変形菌相（2022 年調査）
大矢佑基・露木葵唯：神奈川県におけるマロマユヒラムシ（新称）（扁形動物門：多岐腸目）の初記録
土井寛大：ニホンヤマビル *Haemadipsa japonica* Whitman, 1886（顎ビル目ヤマビル科）の小田原市からの初報告および南足柄市からの追加報告
長坂忠之助：神奈川県初記録の *Naushonia japonica* Komai, 2004 ニホンカギテシヤコエビ（新称）（十脚目：アナジャコ下目：ハサミシ

ヤコエビ科)
荒尾一樹・馬渡和華・永井祐紀・伊藤美信：東京湾
の谷津干潟の魚類相の追加と訂正
山口喜盛・山口尚子：神奈川県におけるモモジロコ

ウモリ *Myotis macrodactylus* の繁殖初記録
秋山 礼・山口喜盛：三浦半島の人工構造物を利用
するコウモリ類について

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら 29 巻 2 号 通巻 111 号
[発行日]2023 年 6 月 25 日
[発行部数]250 部
[編集担当]本杉弥生
[内容]
折原貴道：表紙「カエンタケ *Trichoderma cornu-*
damae (Pat.) Z.X. Zhu & W.Y. Zhuang」
加藤ゆき：「身近なトリに目を向けて！」
大島光春：「ミューズ・フェスタ 2023 で開催した公
開フォーラム報告」
新井田秀一：「神奈川県鳥瞰図に描かれた小田原・箱
根地域 一酒匂川流域にある謎の「名物」―」
望月千奈：ライブラリー通信「書架を歩く？ 移動す
る本の不思議」

自然科学のとびら 29 巻 3 号 通巻 112 号
[発行日]2023 年 9 月 15 日
[発行部数]250 部
[編集担当]本杉弥生
[内容]
瀬能 宏：表紙「江の島に現れたホッケ」
田中徳久：「神奈川県での牧野富太郎」
石浜佐栄子：「より良い企画展を作るには？ ～展示
を評価しながら考える」
松本涼子：「ロンドン研究日記」
土屋定夫：ライブラリー通信「同名異本② 野草の自
然史」

自然科学のとびら 29 巻 4 号 通巻 113 号
[発行日]2023 年 12 月 15 日
[発行部数]250 部
[編集担当]本杉弥生
[内容]
加藤ゆき：表紙「シジュウカラガンのいる風景」
加藤ゆき：「日本で見られるコブハクチョウは在来
種？外来種？」
西澤文勝：「神奈川県西部の特性から自然災害を考え
る」
荏部治紀：「急速な温暖化の進行が昆虫に与える影響」
小林瑞穂：ライブラリー通信「この本何の本？」

自然科学のとびら 30 巻 1 号 通巻 114 号
[発行日]2024 年 3 月 15 日
[発行部数]250 部
[編集担当]本杉弥生
[内容]
鈴木 聡：表紙「ニホンカモシカ *Capricornis*
crispus」
瀬能 宏：「一枚の写真から紐解く希少淡水魚の絶滅
と保全」
藪内竜太（藪内正幸美術館 館長）：「稀代の動物画家
藪内正幸―誕生と活躍の歴史」
秋山幸也（相模原市立博物館 学芸員）：「鳥をいちば
んかつこい姿に描ける画家、藪内さん」
神戸宇孝（鳥類画家）：「絵は“観る楽しさ”を教えて
くれる」
望月千奈：ライブラリー通信「牧野富太郎が残した本」

6.1.4. 神奈川県立 生命の星・地球博物館年報

[号数] 第 28 号
[発行日] 2023 年 9 月 15 日
[発行部数] 400 部
[編集担当] 春口清隆・石持みずき・下出朋美

[内容]
沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シ
ンクタンク機能・データバンク機能・学習支援機
能・刊行物・情報システム・連携機能）・資料

6.2. 不定期刊行物

博物館の学術活動の成果のうち、総合研究の成果をまとめた成果として「神奈川県立生命の星・地球博物館
調査研究報告（自然科学）」を、論文形式でない成果として「神奈川県立生命の星・地球博物館特別出版物」を
不定期刊行している。2023 年度はいずれの刊行もなかった。

6. 3. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数
【改訂第2版】生命の星・地球博物館 展示解説書	1,800	325
地球環境を考える 地球 SOS	500	9
パレオパラドキシアとデスモスチルス 絶滅した生物	500	26
貝殻に残された情報から貝殻の進化・環境の変化を探る 貝からの伝言	500	20
偉大なアマチュア自然科学者の軌跡 櫻井コレクションの魅力	400	13
日本の魚学・水産学事始め フランツ・ヒルゲンドルフ展	1,000	17
オオカミとその仲間たち―イヌ科動物の世界―	1,100	29
カニの姿―酒井コレクションから―	1,200	12
サルがいて、ヒトがいて―野生動物との共存を考える―フットのひとりごと	400	2
神奈川県植物誌 2001	9,800	2
化石どうぶつ園―北アメリカ漸新世の哺乳類―	1,100	12
神奈川県レッドデータ 生物調査報告書 2006	2,000	11
よみもの ナウマンゾウがいた!	800	25
木の洞をのぞいてみたら―樹洞の生きものたち―	1,000	26
水生昆虫大百科 およげ! ゲンゴロウくん―水辺に生きる虫たち―	1,000	33
益田―と日本の魚類学―魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY～	1,400	18
どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景	1,000	29
植物誌をつくろう! ～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～	700	76
アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～	900	45
絶海の自然―硫黄列島をゆく―	1,100	27
みどころ沢山! かながわの大地	800	227
かながわご当地菌類ガイドブック	1,000	401
合計		1,385

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、博物館の活性化、生涯学習時代における学習支援、研究活動の高度化等を推進するため、収蔵資料（標本・画像ほか）に関する情報を基本として、博物館に蓄積されている膨大な量の知的情報を総合的に管理する博物館活動のプラットフォームとして構築されたものである。

このシステムには、1995年3月より稼働している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」というサブシステムがあり、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援している。また、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせは、2012年9月より「ウェブサイト公開システム」によって運用している。

このシステムは、当博物館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および、2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントPCのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。

2020年度の機器更新では、「収蔵資料管理システム」のバージョンアップにより「収蔵資料データベース」として、収蔵資料のデータがウェブサイトにて公開された。「ウェブサイト公開システム」はソフトウェアを変更し、マルチデバイスに対応したウェブサイトが提供可能となった。セキュリティソフトは教育局から各パソコンに配信する方法に変更となった。

2021年度は、経年劣化に伴う教育委員会ネットワークのLAN工事を行った。基幹配線は光ケーブルでOM2、支線はUTPケーブルでCat6に変更した。2022年度の機器更新ではクライアントが最新のOSとなった。

2024年3月31日現在の、当博物館の博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は10BASE-T/100BASE-TX/100BASE-T/1000BASE-SXによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ	数量	備考
		使用OS・ソフト等	ハードディスク容量		
CPU ルーム	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	収蔵資料管理システム（アプリサーバ）
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	2TB×4（RAID5）		
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	収蔵資料管理システム（サーチサーバ）
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	1TB×2（RAID1）		
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M4	8GB	1	展示情報システムの管理
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	1TB×2（RAID1）		
	WEB サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M4	8GB	1	ホームページの管理
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	2TB×2（RAID1）		
	Update サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	Windows Update の管理・ アクティブディレクトリーの管理
		Windows Server 2019 Standard	2TB×3（RAID5）		
ミュージアム ライブラリー	来館者用端末	富士通 PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	ホームページ更新管理
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	2TB×2（RAID1）		
	職員用端末	ESPRIMO D7011/H	8GB	1	
		Windows 10 Professional	500GB		
	来館者用端末	富士通 ESPRIMO D588/C	4GB	2	展示情報システムの閲覧など
		Windows 10 Professional	500GB		
研究室・ バックヤード	職員用端末	富士通 ESPRIMO D588/C 他	8GB	3	
		Windows 10 Professional	500GB		
	研究用 WS	富士通 CELSIUS W5010 他	16GB	1	衛星画像処理や分布図の作成など
		Windows 10 Professional	500GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D588/C 他	8GB	41	
		Windows 10 Professional	500GB		
	画像入力用	富士通 CELSIUS W580	32GB	1	
		Windows 10 Professional	500GB		

2022年度リースを反映させて作成。備品、消耗品はカウントせずリースのみの数。

機種名・使用OS・ソフトは機器更新 納入明細より作成。

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

博物館情報システムの中核となる「収蔵資料管理システム」は、収蔵資料に関する情報（資料番号、資料名、採集地、採集年月日、採集者など）を、サーバで一元的に管理し、資料の画像、さらには画像そのものも資料として管理している。また、資料に添付するラベルの印刷など、資料整理業務の効率化も図られている。

このサブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』および『神奈川県植物誌 2018』の証拠標本を含む『維管束植物』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真をデータベース化した『魚類写真』など、36 のデータベースから構成される。なお、2003 年度より、書籍（図書・雑誌）についても収蔵資料管理システムで取り扱われている。標本・アーカイブズ登録状況は42 ページに記載した。また、書籍の情報については表に示した。

これらの情報は、2020 年 10 月よりウェブページの収蔵資料データベースにて公開を行った。なお、アクセス実績等は、当館ウェブサイト年報第 29 号Ⅲ 資料 3. 統計資料に掲載した。また、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

書籍登録状況

分野	2022 年度までの登録件数	2023 年度の登録件数	合計
図書	35,264	1,490	36,754
雑誌（タイトル数）	4,058	22	4,080
別刷り	340		340
合計	39,662	1,512	41,174

7.2.2 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への意欲を持つ利用者に対して、研修に基づく博物館独自の新鮮な情報を、検索システムにより分かりやすく提供している。

展示情報システムの一部は、2004 年 7 月より当館ならではのコンテンツとして、ウェブページで公開している。

2023 年度は、衛星画像のタイトルを『衛星画像と地図』に変更し、「地図」の検索を追加した。「地図」メニューでは、「地形図」といった一般的な地図だけでなく、「海図」や「地質図」のように特別な目的を持って作られた地図や豊かな色彩で作られた鳥瞰図（絵図）が検索できるようになった。

なお、2020 年度から 2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ライブラリーでの端末の使用を中止したが、2022 年 12 月に再開した。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218 種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,969 種の画像や解説文を提供する。
	昆虫	神奈川に生息する昆虫、639 種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329 種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82 種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126 種の画像や解説文を提供する。
	関東ローム層	神奈川の主要な火山灰層、1,170 点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164 種の画像や解説文を提供する。
	空撮	神奈川の空から見た景観写真を 770 枚、うち学芸員のおすすめ写真を 63 枚解説と共に提供する。
酒井コレクション細密画	哺乳類	神奈川に生息する哺乳類 49 種の画像や解説文、骨格画像を 426 枚、10 種の 3D データを提供する。
		酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660 種の画像を提供する。
菌類細密画		菌類学者今関六也氏のコレクション菌類細密画、129 点の画像を提供する。
衛星画像と地図	衛星画像	衛星画像や宙瞰図など 650 枚、うち学芸員のおすすめ 31 枚解説と共に提供する。
	地図	衛星画像や一般図や絵図など、758 点の画像や解説文を提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書、雑誌が検索できるように提供している。

7.3. インターネットの利用

7.3.1 ウェブサイト

小田原市と共同で1995年10月から開設していたウェブサイト（ウェブページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006年2月より博物館独自の運用に切り替えた。2012年9月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようウェブページのデザインを大幅に改良した。2020年9月にはそれまで使用していたアプリケーションを入れ替えて、マルチデバイスに対応したウェブページが作成可能となった。ウェブページでは博物館に関する様々な情報を

提供しているが、そのトップページへのアクセス数とサイト内のページビュー数を示したのが下の表である。2020年9月のソフトウェアの入れ替えに伴い、アクセス数が集計可能となり、2021年1月から集計結果として使用している。2021年3月末にはセキュリティ強化のため、httpからhttpsへ変更した。

また、2023年度のウェブサイトの更新件数は、575件であった。

月別ウェブサイトアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
TOP ページ アクセス数	42,720	47,220	44,440	61,904	79,981	45,212	41,641	39,982	34,109	44,443	50,683	55,397	587,732	48,978
サイト内 ページビュー数	102,277	103,017	88,395	117,026	145,781	91,679	90,884	99,848	68,229	79,432	96,196	100,280	1,183,044	98,587

2021年1月からCMSサーバでカウント

7.3.2 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ2001年と2003年から運用している。

連携して情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概要	ページビュー数
魚類写真資料データベース https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類 124,198 件 (150,120 点) の画像を提供している。 研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	2,973,580
FishPix https://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類 111,785 件の画像を提供している。	2,787,925

ページビュー数：2023年4月1日から2024年3月31日までのページビュー数（件数）；国立科学博物館のデータ提供による。

7.4. 情報提供

7.4.1 GBIF への情報提供

GBIF (Global Biodiversity Information Facility : 地球規模生物多様性情報機構) とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数はGBIF全体では2024年4月11日現在26億8897万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net (サイエンスミュージアムネット) として国立科学博物館経由でGBIFに提供されたデータが国内向けに公開されている。

2006年度から、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携を図り、自然史標本情報の整備や公開などを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員

会」が設置されている。2023年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全2館、全体で16,000件の自然史標本情報の提供を行った。

2023年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館
相模原市立博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの2023年度標本情報提供数

コレクション名	提供件数
植 物	3,750 件
魚 類	9,000 件
昆 虫	1,500 件
甲殻類・軟体動物	750 件
合 計	15,000 件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に 1997（平成 9）年に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営されている。新型コロナウイルス感染症の 5 類移行後は、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開し、博物館との共催でサロン・ド・小田原（2 回）やよろずスタジオ（6 回）を開催した。また、博物館のミニ企画展示コーナーで 3 月 26 日（日）～5 月 12 日（金）まで「友の会の皆さまと共に」を開催した。

[事務局]

- 第 27 回 総会・総会イベントを開催した。
- 役員会を 7 回開催し、以下の事項を検討・実施した。
役員会開催日／4 月 22 日（土）※リモート開催、
5 月 13 日（土）、6 月 24 日（土）、9 月 16 日（土）、
12 月 16 日（土）、2024 年 2 月 10 日（土）、2024 年
3 月 23 日（土）
 - 友の会の運営について
 - 会員への発送作業などについて
 - 総会、および総会イベントについて
 - 新型コロナウイルス感染症の 5 類移行後の友の会の対応について
 - サロン・ド・小田原の再開催について
 - ミュージズ・フェスタ 2024 について

[広報部]

- 博物館ウェブサイト内の友の会ページ、ブログの管理・運営
- ツイッター（@kpmtomo）による情報提供
- 友の会 年間行事一覧表の作成・配付
- 会報「友の会通信」を 4 回（通巻 第 120～123 号）発行
- 「自然科学のとびら 友の会版」を 4 回（通巻 第 111～114 号）発行

[企画部]

- 講座担当者会議を 3 回開催し、以下の事項を企画・実施した。
講座担当者会議開催日／11 月 4 日（土）、2024 年 3 月 2 日（土）、2024 年 3 月 8 日（金）※3 回共にリモート開催
友の会が主催する講座や観察会を企画、博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ 30 講座（そのうち中止 1 件）794 人が参加した（別表のとおり）。

8.1.2. 観察会・講座等

行事名		開催日	開催場所	参加数
1	植物観察会「多摩丘陵の春植物」	4/16(日)	東京都町田市小山田緑地	16
2	よろずスタジオ「ほねほねクイズ」	4/16(日)	東側講義室	47
3	身近な植物観察入門	4/22(土)	博物館周辺	8
4	総会	4/29(土・祝)	東西両講義室	33
5	総会イベント 「身近な自然を楽しもう」	4/29(土・祝)	博物館周辺	41
6	昆虫観察会「春の里山みんなで虫みつけよう」	5/9(火)	小田原市久野	10
7	身近な植物観察入門	5/27(土)	博物館周辺	10
8	植物観察会「芦ノ湖西岸の新緑を楽しむ」	6/6(火)	箱根町	17
9	地質観察会「鋸山の地質・石材」	6/10(土)	千葉県富津市鋸山	20
10	地話懇話会「南足柄市矢倉沢 黒白林道付近の地質」	6/21(水)	西・東側講義室	16
11	身近な植物観察入門	6/24(土)	博物館周辺	11
12	よろずスタジオ「昆虫の不思議」	6/25(日)	東側講義室	53
13	地話懇話会「伊豆衝突部のテクトニクス：関東地震・小田原地震・北伊豆地震との関係」	8/23(水)	西側講義室	33
14	よろずスタジオ「そこにも！ここにも！菌類が」	9/10(日)	東側講義室	58
15	昆虫観察会「里の秋 歩いて虫さがし」	9/12(火)	箱根ビジターセンター	6
16	植物観察会「黒崎の鼻へ海岸植物を訪ねて」	9/16(土)	三浦市黒崎の鼻	11

(次ページに続く)

(前ページから続く)

	行事名	開催日	開催場所	参加数
17	身近な植物観察入門	9/23(土)	博物館周辺	13
18	植物観察会「里山の秋植物」	10/13(金)	横浜市自然観察の森	11
19	身近な植物観察入門	10/28(土)	博物館周辺	9
20	生物間共生講演会VI「昆虫の大発生を防ぐ菌類と助ける菌類」	11/11(土)	東側講義室	35
21	よろずスタジオ「葉っぱで遊ぼう」	11/19(日)	東側講義室	85
22	身近な植物観察入門	11/25(土)	博物館周辺	8
23	植物観察会「晩秋の里山を歩こう」	11/28(火)	八王子市長沼公園	15
24	地質観察会「鳥瞰図で歩く湯河原」	12/17(土)	湯河原町	19
25	よろずスタジオ「砂とあそぼう」	1/14(日)	東側講義室	106
26	地図を楽しもう	1/20(土)	実習実験室と博物館周辺	3
27	地話懇話会「近年の調査航海報告」	1/24(水)	西側講義室	14
28	よろずスタジオ「溶岩の噴火」	2/18(日)	東側講義室	66
29	植物観察会「高尾 日影沢の春」	3/25(月)	八王子市高尾山日影沢	雨天中止
30	地話懇話会「真鶴・湯河原地区採石丁場跡の考察」	3/27(水)	西側講義室	20
合計				794

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、友の会との共催による講演・交流会からなる集いの1つ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部の話題提供(講演)、第2部の交流会(ワークショップなど)を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流が深まることを期待して開催してきた。2020年度より新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止してきたが、2023年度からは、第1部の話題提供のみを再開させた。

第138回サロン・ド・小田原「市民科学が支える菌類
研究—『新・入生田菌類誌』完成までの歩み」

[開催日] 2023年9月9日(土)

[会場] 博物館東側講義室

[話題提供] 折原貴道(当館学芸員)

[参加者数] 21名

第139回サロン・ド・小田原「未知の魚を求めて—私の採集遍歴」

[開催日] 2024年2月17日(土)

[会場] 博物館 SEISA ミュージアムシアター

[話題提供] 瀬能 宏(当館学芸員)

[参加者数] 95名

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会(WESKAMS)

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに1996年7月に発足し、現在の加盟館園は53施設になる。会の愛称をWEST KANAGAWA MUSEUMSを略して「WESKAMS(ウェスカムズ)」と名付け、その事務局を当館においている。

WESKAMSの目的を達成するための事業について協議・検討する場として、2023年度は「館園長・協力会員会議」を1回、情報交換会を1回開催した。

また、WESKAMSに加盟するミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997年10月から「ミュージアム・リレー」として一般に開放している。毎月1回、持ち回りで各施設の協力を得て特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

今年度開催された会議

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
8/25(金)	情報交換会	県立生命の星・地球博物館	5館園6名、協力会員1名
3/1(金)	館園長・協力会員会議	県立生命の星・地球博物館	8館園8名、協力会員1名

今年度開催されたミュージアム・リレー

回数	開催日	開催場所	内 容	参加者		
				一般	高校生	関係者
第 320 走	4/14(金)	①箱根ビジターセンター	①センターの概要説明の後、ラウンジで双眼鏡の便利な使い方の説明を受けた。その後、園内の自然学習歩道に出て、見ごろを迎えたマメザクラやミツバツツジなど様々な植物の種類や特徴、それを食べる鳥や動物などの説明と合わせて実や葉などのおい・手触りを体感するなど、五感を動員した観察会となった。	7	0	3
		②箱根ジオミュージアム	②屋外観察として大涌谷の噴気や蒸気井温泉の装置のほか箱根外輪山や富士山等の地形を双眼鏡を使用して観察した後、館内展示で箱根火山の歴史や近年の噴火活動のパネル解説、災害対策としての火山震動や火山ガスの常時監視の説明を受けた。その後、「蒸気井」温泉の説明を受け、GEO ホールで箱根火山誕生についてビデオ映像や地形模型で解説を受けた。	5	0	3
第 321 走	5/10(水)	①箱根美術館	①美術館の概要や所蔵作品のガイダンスを受けた後に庭園を散策した。苔庭や溶岩流を活用した石楽園などの自然環境を基調にした庭園を見学後、本館で日本・中国の陶磁器や縄文土器等を、特別展示(版画)の「吉田 博展」を鑑賞した。	15	0	5
		②箱根写真美術館	②写真家の館長は富士山の写真をライフワークとして取り組んでいる。1階展示室で企画展「箱根の文化財・名宝写真展」を鑑賞後、2階常設展示室で富士山の神秘的な造形美や時空間を捉えた数々の写真を鑑賞し、解説を受けた。	15	0	3
		③箱根強羅公園	③公園と周辺開発の歴史の説明を受けた後、熱帯植物館・ブーゲンビリア館等を見学し、植物の解説を受けた。その後、「白雲洞茶苑」から大文字焼が行われる明星ヶ岳の景観を眺望した後、庭園でシンボルのヒマラヤ杉の説明を受けた。	15	0	3
第 322 走	7/12(水)	①箱根ドルハウス美術館	①「ドル」とは「小さい」を意味し、16 世紀の南ドイツのニュルンベルクで、城を建てる際の模型として製作されたのが始まり。館長が 20 年の歳月をかけて収集したコレクションを堪能した。また、開催中の企画展を見学した。その後、屋外でミニ機関車やレンタル用のクラシックスポーツカー等、4 月にリニューアルオープンした新規のアミューズメント施設も見学した。	15	0	4
第 323 走	8/4(金)	①箱根湿生花園	①園の成り立ち、概要説明の後、開催中の「世界の食虫植物展」を見学し、説明を受けた。その後、園内に整備された 8 つの地区ごとの植物について、特徴や生育させるための工夫等の詳細な解説を受けながら園内を周遊・散策した。	12	0	4
第 324 走	8/25(金)	①県立生命の星・地球博物館	①最初に、開催中の特別展の展示内容についての企画主旨や展示の概要、本県から新種発表された菌類や、県内でよく見られる種など、かながわを代表する「ご当地菌類」等について映像により概要説明を受けた。その後、展示室内の各エリアを観覧しながら、現物展示を行っている標本等について解説を受けた。	17	0	5
第 325 走	9/13(水)	①箱根ガラスの森美術館	①ヴェネチアン・ガラス美術館の中で、開催中の特別企画展「ヴェネチア、プラハ、パリ 三都ガラス物語」の、ガラス工芸を象徴する三つの都市のヴェネチアン・ガラス、ボヘミアン・ガラス、オールド・バカラの名品約 80 点の展示作品の解説を受けながら鑑賞した。その後、庭園内を巡り、秋の風物詩である「ススキ」のクリスタル・ガラスや噴水等、様々なオブジェを見学した。	15	0	4
第 326 走	9/22(金)	①MOA 美術館	①日本伝統工芸展の 70 回を記念した「7 人の人間国宝展」を開催中。7 人の人間国宝が製作した各分野（紬織、竹工芸、蒔絵、紋紗、鍍金、色絵、小石原焼）などの自然の特性を活かした魅力あふれる作品の解説を受けた後、観覧した。	17	0	3
		②町立湯河原美術館	②平松礼二館で開館 25 周年を記念し開催中の企画展「夏-睡蓮を中心に」の作品を鑑賞しながら説明を受けた。その後、収蔵品小企画展及び常設館の作品を鑑賞した後、平松礼二アトリエで制作途中作品や実際に使用している日本画面材を見学し、制作において使用する岩絵具や膠(にかわ)等の画材の説明を受けた。	9	0	3
第 327 走	10/6(金)	①箱根関所	①幕末期の箱根関所の姿を平成 19 年に完全復元。京口御門で関所の役割の説明後、外繫・厩・大番所を見学。その後、江戸口御門で、江戸方向からの出女等の厳しい検査の説明を受け、関所破りで処罰された「たま」の逸話を伺った。その後、出入防止の木柵沿いに遠見番所まで階段を登り、関所の施設を一望した。最後に、通常は入れない大番所の上番休息所で関所の役割や実情の説明を受けた。	7	0	4
		②恩賜箱根公園	②公園入口の中央門で、箱根離宮の歴史と県立公園になるまでの経過の説明後、正面園路を歩きながら、元はハコネザサの群生地の一部を生垣に使用、湿度が高く馬酔木やコケ類が多い植生などの説明を受けた。また、湖畔展望館で箱根離宮時代の西洋館と日本館の役割等の説明を受けた。	9	0	4
第 328 走	10/20(金)	①真鶴町立中川一政美術館	①館の都合により中止	-	-	-
		②真鶴町立遠藤貝類博物館	②開館の経緯の説明後、海の生物を楽しく学ぶ「海のミュージアム」として実施している、海の生態系を支えるプランクトンを顕微鏡で観察しながら解説を受け、真鶴半島の豊かな自然の世界を体感した。開館 13 年目となった同館内の「真鶴や相模湾」「日本」「外国」の 3 展示別になった貝コレクションの説明を受けた。	4	0	3
第 329 走	11/1(水)	①徳富蘇峰記念館	①蘇峰は 95 年の生涯に多くの人士と手紙をやり取りし、約 12,000 人、46,000 通が残されている。今回の特別展「教科書で見た!!あの人が書いた手紙展Ⅱ」は、徳富蘇峰が生涯をかけて築いた広範な交友に焦点を当て、教科書に残る著名人士がどのような書簡を送っていたか、その筆跡等を真近に見ながら解説を受けた。	4	0	3
		②二宮町ふたみ記念館	②ふたみ記念館設立の経緯と二見利節の画業を解説とビデオで紹介。その後、講師（平塚市元芸芸員）の説明で、開催中の「利節の描いた女性たち」として展示中の作品について、利節の生涯を通じて交流のあった女性の創作活動への影響、画業のさまざまな技法や画材に展開された作品の変遷、絵画構成や印象等の解説を受けた。	17	0	3
第 330 走	11/17(金)	①箱根町立郷土資料館	①関東大震災から 100 年の節目で特別展示室で開催中の企画展「関東大震災と箱根」について、現在の町域における被害の様子や復興までの歴史等について、展示物を観覧しながら解説を受けた。その後、常設展示室で江戸時代から現在までの箱根の温泉と観光開発の歴史等について観覧しながら解説を受けた。	4	0	2
		②小田原城天守閣	②常設展示室で小田原城の歴史的な位置づけや城下の特徴、戦国大名の北条氏が収めた施政の事績等について解説を受けた。その後、特別展「小田原北条氏誕生 500 年 関東の雄 北条氏綱」を観覧し、京都から小田原へ進出し関東に大きく勢力を伸ばした二代・氏綱の事績等について解説を受けながら観覧した。	9	0	3
第 331 走	12/1(金)	①県立おだわら諏訪の原公園	①ミカン栽培の果樹園にて、柑橘類全般の解説と園内に植生する柑橘類の分類方法（実の色・大きさ、皮の触感、葉の匂い等）を検証した。交配しづらいミカンに対処するため、カラタチへの接ぎ木方法などの解説を受けた。	7	0	4
		②小田原文学館	②館の都合により中止	-	-	-

(次ページに続く)

(前ページから続く)

回数	開催日	開催場所	内 容	参加者		
				一般	高校生	関係者
第 332 走	12/7(木)	①箱根ラリック美術館	①アール・ヌーボーからアール・デコの時代に活躍したフランスを代表するジュエリーとガラスの工芸家ルネ・ラリックの生涯にわたる作品について、当時の時代背景や作品の特徴の移り変わりを含めた常設展示の解説を受けた。	7	0	3
		②松永記念館	②記念館敷地内の老樗荘(国登録有形文化財)で近代数寄屋風建築の意匠の特徴の説明を受けた後、本館展示室で松永耳庵の事績を紹介する常設展で自筆の書やゆかりの品々の解説を受けた。さらに別館 2 階で開催中の収蔵資料展「小田原ゆかりの数寄茶人」で茶の湯に親しんだ茶人たちの交流のエピソードを紹介された。	15	0	3
第 333 走	1/19(金)	①箱根駅伝ミュージアム	①今年で 100 回目を迎えた箱根駅伝の歴史について、館内のテーマごとの展示等を通じ、時代や社会の変化と重ね合わせた駅伝の内容や優勝校の変遷、PR 戦略としての近年のユニフォームなど、さまざまなエピソードを交え解説を受けた。	4	0	4
第 334 走	2/16(金)	①小田原フラワーガーデン	①園の特徴は花梅が多く 300 品種が植えられ、花のすぐ近くまで寄って観察できる。今年の梅まつりのテーマ「紅梅～あでやかな花梅」について説明を受けた後、紅梅と白梅の違いや、花や産地が特徴的な珍しい品種などを鑑賞した。また、恒温のトロピカルドーム温室で熱帯・亜熱帯植物を観察した。	12	0	3
		②小田原市尊徳記念館	②ミニ講座「御殿場と二宮尊徳」として天保の飢饉時に小田原藩領内で尊徳が行った救急仕法や、その志を継いで高弟や子孫が行った各地の報徳運動の解説を受けた。その後、展示室の地図模型や館内展示を見学し、その活動状況や範囲などの解説を受けた。また、掛け軸の下絵等の肖像から尊徳の人物像の解説を受けた。	4	0	3
第 335 走	3/1(金)	①県立生命の星・地球博物館	①開催中の企画展の展示内容について、最初に特別展示室入口外に展示した「板戸に描いたオオワシ」の説明を受けた。その後、室内に展示された動物生態画の解説の後、ポスターや新聞広告の原画等を通じて、鳥と様々な環境との関わりについて説明があった。また、絵本に描かれた動物たちを紹介するジオラマや動物の親子の標本、藪内正幸氏の描く絵本の世界のコーナーが紹介された。	19	0	4

8. 4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、ともしびショップ・喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

売店「ミュージアムショップ」(1 階)

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップであることから、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、モロッコからモササウルスの歯・アンモナイト・三葉虫・サメの歯、マダガスカルからアンモナイト、アメリカ・ユタ州から三葉虫、アメジスト・ローズクォーツ・水晶・メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトに合わせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思っただけのような空間づくりとしている。

レストラン「フォーレ」(3 階)

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドウィッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、どなたにでも対応できる品揃えとなっている。事前の予約があれば、障がい者に配慮した調理方法での提供も可能な範囲で対応している。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多い。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色を出すため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ・喫茶「あーす」(1 階)

「ともしびショップ」は、障がい者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障がい者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では 4 店目にあたる。

「あーす」は、来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報 第 29 号 (2023 年度)

発行日	2024 年 9 月 15 日
発行者	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 田中徳久 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 電話 (0465)21-1515 / FAX (0465)23-8846 https://nh.kanagawa-museum.jp/
印刷所	株式会社あしがら印刷

編集担当 田村 哲 (管理課)・石持みずき (企画情報部)・夏目 樹 (学芸部)